

第一類 會計通則 第二章 特別會計
但シ當月分ノ更正ニ限リ附記ヲ要ス
三 用紙ハ半紙ニツ切トス

第何號	精算報告書
一金何程	旅費精算高
仕拂要求書番號	第何號
同年月日	明治何年何月何日
債主氏名	何某
事由	明治何年何月何日渡何々概算旅費ニ對シ精算ヲ了ス
右報告候也	
明治何年何月何日	
任拂命令官又ハ主任任拂官吏官氏名宛	
部課所長氏名 圖	
目	項
款	科
	目

第四〇號書式 精算報告書

備考
一 出納規程第四十六條ノ精算報告書ハ此式ニ據ル
二 用紙ハ半紙ニツ切トス

第四一號書式

何線運輸收入合計表

第何號	明治何年何月何日分			備考
科目	各驛取扱運輸收入			
	收入總高	辨納高	合計	
(目)				
(節)				
計				
(目)				
(節)				
計				
(目)				
(節)				
計				
合計				
記事				

第四一號 運輸收入合計表

備考
一 出納規程第三十條ノ運輸收入合計表ハ此式ニ據ル
二 分任收入官吏ノ報告書中定時迄ニ若シ到達セサルモノアルトキハ之ヲ除キ本表ヲ製シ其餘キタル分ハ記事ニ記載スルモノトス
三 但追報ノトキハ上記何年月日分ノ次ニ追報告ト朱書スルモノトス
四 本表ハ收支計算區間毎ニ各別ニ調製スルモノトス
用紙ハ半紙判洋紙又ハ模造紙ノ類ニツ切トス

第一類 會計通則 第二章 特別會計

明治何年何月何日分
何々驛運輸收入報告書

第四三號書式

第何號

科目	本日收入高	辨納高	合計	備考
乗客賃金 何々何々何々				通常乗車賃金何程 定期乗車賃金何程ト 記入スヘシ
客車收入計 貨物賃金 何々何々何々				
貨車收入計 荷物保管料 何々何々何々				大貨物保管料何程 小荷物保管料何程其 ノ他ノ分何程ト記入 スヘシ
雑入計				
運輸收入計				

何々驛分任收入官吏官氏名團
主任收入官吏官氏名宛
明治何年何月何日

第四二號書式

第何號何年何月何日分運輸收入合計表科目更正報告書

第四二號書式
備考
一 出納規程第三十條第二項ノ運輸收入合計表科目更正報告書ハ此式ニ據ル
二 用紙ハ半紙列洋紙又ハ模造紙ノ類ニツ切トス

第何號

區間

科目	前報告高	更正増額	更正減額	差引高	備考
運輸收入 目何々 節何々 何々何々					何驛分

明治何年何月何日
何々所主任收入官吏官氏名團
歳入徴收官官氏名宛

第一類 會計通則 第二章 特別會計

第四三號書式 運輸收入報告書

備考

- 一 出納規程第四十一條ノ運輸收入報告書ハ此式ニ據ル
- 二 辨納高ハ出納規程第四十條ニ依リ辨納又ハ追納ノ分ヲ掲クルモノトス
但備考欄ニ追納告知書ノ番號及驛名等ヲ記入スルモノトス
- 三 分任收入官吏又ハ出納員ニ於テ直ニ辨償シタル金額及債主ヨリ追徴納付シタルトキハ其金額ヲ本日收入高ニ記載シ備考ニ内金何程ハ何月何日分辨納又ハ追納ノ分ト記入スルモノトス
- 四 即納通知書ニ依リ收入シタル運輸收入金額及事由ハ相當科目ノ備考ニ記入スルモノトス
- 五 用紙ハ半紙判洋紙又ハ模造紙ノ類ニツ切トス

第四四號書式

驛運輸收入報告書科目更正報告書

更正増額	更正減額	差引高	備考

何年何月何日
驛分任收入官吏官氏名
任收入官吏官氏名宛

明治何年何月何日分何

第何號

科	目	前報告高
運輸收入	何々々々	
(目)	何々々々	
(節)	何々々々	
(目)	何々々々	
(節)	何々々々	

明治何
何々所主

第四四號書式

運輸收入報告書科目更正報告書

備考

- 一 出納規程第四十一條第二項ノ運輸收入報告書科目更正報告書ハ此式ニ據ル
- 二 用紙ハ半紙判洋紙又ハ模造紙ノ類ニツ切トス

第四五號書式

領收證書

備考

- 一 出納規程ニ依リ主任又ハ分任收入官吏ニ於テ交付スヘキ領收證書ハ特別會計ニアリテハ明治二十三年大藏省令第九號第二十一號書式ニ據ル
- 二 出納規程ニ依リ主任又ハ分任收入官吏ニ於テ交付スヘキ領收證書ハ特別會計ニアリテハ明治二十三年大藏省令第九號第二十一號書式ニ據ル
- 三 出納規程ニ依リ主任又ハ分任收入官吏ニ於テ交付スヘキ領收證書ハ特別會計ニアリテハ明治二十六年十一月大藏省令第三十二號第三號書式ニ據ル

第四六號書式

現金拂込書

備考

- 一 出納規程ニ依リ主任收入官吏ノ拂込書ハ特別會計ニアリテハ明治二十三年三月大藏省令第九號第二十一號書式ニ據ル
- 二 出納規程ニ依リ主任收入官吏ノ拂込書ハ特別會計ニアリテハ明治二十六年十一月大藏省令第三十二號第三號書式ニ據ル

第一類 會計通則 第二章 特別會計

第何號 某年度拂込書
 明治何年何月何日分鐵道作業收入

金種類	員數	金額	備考
計			
振替受領證書			
合計			

割印

上記ノ通り拂込候也
 何年何月何日某驛分任收入官吏官氏名團
 立會員出納員官氏名團
 某所主任收入官吏官氏名宛

第何號 某年度領收證書
 明治何年何月何日分鐵道作業收入

金	印
---	---

拂込人
 某驛分任收入官吏官氏名
 立會員
 出納員 官氏名
 上記ノ金額領收候也
 明治何年何月何日
 何所主任收入官吏官氏名團
 立會員 官氏名團

第二類 會計通則 第三章 特別會計
 第四七號書式 拂込書

備考

- 一 出納規程第三十四條ニ依ル分任收入官吏ノ拂込書ハ此式ニ據ル
- 二 振換拂アル場合ニハ式ノ如ク記入スルモノトス
- 三 用紙ハ半紙判洋紙又ハ模造紙ノ類ニツ切トス

第四八號書式

第何號 明治何年度領收證書
 明治何年何月何日 運輸收入

摘要	金額	
目節		
計		
目節		
計		
合計		

書面之金額領收候也
 明治何年何月何日
 驛分任收入官吏官氏名圖
 出納員官氏名宛

第何號 明治何年度拂込書
 明治何年何月何日 運輸收入

摘要	本收入	日高	辨納高	計	備考
目節					
計					
目節					
計					
合計					

書面之金額拂込候也
 明治何年何月何日
 驛出納員官氏名圖
 分任收入官吏官氏名宛

第四八號書式 拂込書
 備考

- 一 出納規程第三十四條ニ依ル出納員ノ拂込書ハ此式ニ據ル
- 二 追納告知書ニヨリ辨納シタルモノハ一件毎ニ其金額及告知書番號ヲ備考ニ記載スルモノトス
- 三 不足納ニ對シ辨償シタル分及債主ヨリ追徴納付シタルトキハ備考ニ内金何程ハ何月何日分辨償又ハ追納ノ分ト記入スルモノトス
- 四 用紙ハ半紙判洋紙又ハ模造紙ノ類ニツ切トス

第一類 會計通則 第二章 特別會計

第五〇號書式

第一類 會計通則 第三章 特別會計

明治何年度鐵道作業局何々歳入
 明治何年何月分 現金拂込仕譯書 第何號

摘要 款	前月迄 拂込未済額	本月中 現金領收額	合計	本月中 現金拂込額	差引 翌月へ高 越	備考	備考
計							
計							
合計							

明治何年何月何日

何驛分任收入官吏官氏名 圖

何所主任收入官吏官氏名 宛

一 本月中現金領收額ハ主任收入官吏ノ分ハ直接納入ヨリ領收額分任收入官吏ノ分ハ同官吏ノ現金拂込仕譯書ニ依リ記入スルモノトス
 二 用紙ハ半紙列洋紙又ハ模造紙ノ類トス

第四九號書式

第四九號書式
 現金拂込仕譯書

明治何年度鐵道作業局何々歳入
 明治何年何月分 現金拂込仕譯書 第何號

主任及分任收入官吏 官氏名	前月迄 拂込未済額	本月中 現金領收額	合計	本月中 現金拂込額	差引 翌月へ高 越	備考	備考
主任收入官吏 何 某							
分任收入官吏 何 某							
以下之ニ準ス							
合計							

明治何年何月何日

何所主任收入官吏官氏名 圖

歳入徴收官官氏名 宛

第一類 會計通則 第三章 特別會計

一 出納規程第三十一條ノ現金拂込仕譯書ハ此式ニ據ル

第一類 會計通則 第二章 特別會計

第五〇號書式 現金拂込仕譯書

備考

- 一 出納規程第四十二條ノ現金拂込仕譯書ハ此式ニ依ル
 - 二 用紙ハ半紙判洋紙又ハ模造紙ノ類トス
- 第五一號書式 國庫納金額表

備考

- 一 出納規程第六十九條ノ國庫納金額表ハ明治二十三年七月大藏省訓令第百十三號規定ノ第三號書式ニ依ル
- 二 用紙ハ半紙判洋紙又ハ模造紙ノ類ニツ切トス

第五一號ノ二書式

第何號 相殺額表

何年度何々歳入

科 目	納人氏名	金額	相殺額表	
			款	項

第五一號ノ二書式
備考

- 一 出納規程第六十九條ノ場合ニ於テ調製スヘキ(明治三十四年七月遞信省訓令第四號ニ依リ)相殺額表ハ此式ニ據ル
- 二 用紙ハ半紙判洋紙又ハ模造紙ノ類ニツ切トス

上記之通及送付候也
明治何年何月何日何所仕拂官吏官氏名
何所主任收入官吏官氏名宛

第五二號書式

引去額報告書

債主氏名	收入金額	收入取扱聽	備考

告候也

官氏名

第一類 會計通則 第二章 特別會計

何年度國庫納金

第何號

所管廳	前渡仕拂命令書		領	
	年度仕拂命令書	番號	仕拂命令官名	前渡官吏名

書面ノ通收入官吏へ拂込候ニ付及報
 明治何年何月何日
 團所主任仕拂官吏
 歳入徴收官官氏名宛

第五二號書式 國庫納金引去額報告書

備考

- 一 出納規程第六十九條ノ國庫納金引去額報告書ハ此式ニ據ル
- 二 用紙ハ半紙判洋紙模造紙ノ類ニツ切トス

第五三號書式 徴收額計算書

備考

- 一 出納規程第二十一條ノ徴收額計算書ハ明治三十四年六月會計検査院達第四號第一號書式ニ據ル

第五四號書式 收入計算書

備考

- 一 出納規程第三十二條ノ收入計算書ハ明治三十三年五月會計検査院達第二號所定ノ書式ニ據ル

第五五號書式 支出計算書

備考

- 一 出納規程第六十二條ノ支出計算書ハ明治三十二年五月會計検査院達第一號所定ノ書式ニ據ル

第五六號書式 仕拂計算書

備考

- 一 出納規程第七十四條ノ仕拂計算書ハ明治三十二年五月會計検査院達第二號所定ノ書式ニ據ル

第一類 會計通則 第二章 特別會計
第五七號書式

第何號	仕拂更正調書	高金何程	一金何程	仕拂要求書番號	何部課所	何號	同年月日	何年何月何日	債主氏名	當初仕拂ノ事由	更正ノ事由及目的	更正スヘキ金額			
												科	款	項	目
												何々	何々	何々	何々
右之通更正ス												何所仕拂官吏官氏名	何所仕拂官吏官氏名		
明治何年何月何日															

第五七號書式 仕拂更正調書
備考

- 一 出納規程第七十一條但書ノ仕拂更正調書ハ此式ニ依ル
- 二 用紙ハ半紙ニツ切トス

何費前渡金受拂對照表

明治何年何月分

考	備	高	殘	高											
				仕		拂		高							
計	引	差	計	内	ノ	仕	返	前	中	月	本	迄	月	前	
															目

吏官氏名 團
何月何日
仕拂要求書發行者官氏名 團

第五八號書式

何部課所長要求

何年度

科 目	元 受 高						差 引 計
	前 月 受	迄 高	本 月 受	中 高	返 納 高	前 月 受 高 正 差 (調)	
(項)							
(目)							
(目)							
計							
(項)							
(目)							
(目)							
計							
(項)							
(目)							
(目)							
計							
合 計							

官 所 仕 拂 官
年 明 治 何 年
何 日 何 月 何 年 何 日 對 照 濟

第五八號書式 何費前渡金受拂對照表

備考

- 一 出納規程第七十五條第八十條ノ前渡金受拂對照表ハ此式ニ據ル
- 但第八十條ニ依リ調製スルモノハ返納高元受高仕拂高ノ内各科目更正増減ノ三欄ヲ除ク
- 二 元受高及仕拂高ノ科目更正増ハ證書シ減ハ朱書スルモノトス
- 三 前月末日迄受付タル要求書ニシテ仕拂未済ノモノアルトキハ該要求書ノ番號金額ヲ備考欄ニ記入スルモノトス
- 四 用紙ハ美濃判洋紙又ハ模造紙ノ類トス

第五九號書式

第何號	振換受領證書
一金何程	右金額諸拂戻資金トシテ本日受領候也
明治何年何月何日	何驛分任仕拂官吏
主任仕拂官吏	官 氏 名 宛

金 出 納 表

本日 受 入 高	本日 仕 拂 高	差 引 残 高
円 0	円 0	円 0
0	0	0
0	0	0
0	0	0

官 吏 官 氏 名 圖

現 明 治 何 年 何 月 何 日

種 類	前 日 ヨ リ 越 高
收 入 金	円 0
前 渡 金	0
歳 入 歳 出 外 現 金	0
合 計	0

何 所 出 納

第六一號書式 現金出納表
備 考

- 一 出納規程第八十一條ノ現金出納表ハ此式ニ據ル
- 二 用紙ハ半紙判洋紙四ツ切トス

○歲入歲出出納證憑書類調理順序 明治三十八年八月三十一日 達第一四五號

局 一 般

鐵道作業局歲入歲出出納規程第八十四條ニ依リ歲入歲出出納ニ要スル證憑書類調理順序別冊ノ通定ム
歲入歲出出納證憑書類調理順序

第一章 歲入ノ部

- 第一條 左ノ事項ニ屬スル徵收ニハ當該要求者ノ作リタル仕譯書ヲ提出スヘシ
 - 一 官舍貸渡宿代
 - 但最初徵收スヘキモノ又ハ宿代改定ノモノハ其決議書類共
 - 二 電信及電話線保守料
 - 但決議書及願書共
 - 三 郵便車並ニ備付品維持及修繕保管料
 - 四 郵便車及各驛ニ設置ニ郵便受渡器械ノ修理料
 - 五 食堂車連結料
 - 六 溫脚器裝入料
 - 七 諸車藏敷料
 - 八 轉車臺及貯水器使用料
 - 九 給水料
 - 一〇 返納金
 - 一一 局内ニ於テ某會計所屬ヨリ他ノ會計ニ屬スル事業ニ賣渡シタル物品代
 - 一二 第三號乃至第九號ノ料金ニハ決議書及其關係書類共

第二條 電信手数料及乗客遺失金ノ徵收ニハ主管廳ノ報告書又ハ通知書ヲ提出スヘシ

第三條 物件ノ賣拂又ハ貸下ニ關スル競爭契約ニ由リ徵收ヲ要スルモノハ左ノ書類ヲ提出スヘシ

- 一 契約書
- 二 物件ノ賣拂又ハ貸下ニ關スル決議書類
- 三 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書
- 四 豫定價格調書及下調書
 - 但下調書ナキモノハ其算出ノ基ク所ヲ附記スヘシ
- 五 一番札ヨリ五番札マテノ入札書
- 六 入札調書

競爭ノ落札者契約ヲ締結セサルニ依リ更ニ競爭ニ附シタル場合ハ尙前回ノ競爭ニ關スル前項第二號以下ノ書類ヲ提出スヘシ

第四條 物件ノ賣拂又ハ貸下ニシテ競爭ニ附スルモノ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ附スルモノ豫定價格制限ニ達セス隨意契約ヲ締結シタルモノハ尙第三條第一項第二號以下ノ書類ヲ提出スヘシ

第五條 物件ノ賣拂又ハ貸下ニ關スル隨意契約ニ由リ徵收ヲ要スルモノハ決議書及契約書(契約書ナキモノハ請書類)ヲ提出スヘシ

但隨意契約ニ依ル地所貸下ニハ決議書願書並ニ仕譯書ヲ提出スヘシ

第六條 前各條ノ外歲入ノ徵收要求書即納報告書及相殺額報告書ニハ其事實ヲ認ムヘキ關係書類及當該要求者ノ作リタル仕譯書ヲ添付スヘシ

第二章 歲出ノ部

第一類 會計通則 第二章 特別會計

但運輸收入ノ徵收要求書及即納報告書(不用品拂)ニハ別ニ書類ノ添付ヲ要セス

第七條 徵收要求書即納報告書及相殺額報告書ニ添付スヘキ仕譯書ニハ納入氏名徵收スヘキ事由金額及算出ノ基ク所ヲ記載スヘシ

第一類 會計通則 第二章 特別會計

第八條 左ノ事項ニ屬スル仕拂ニハ當該要求者ノ作リタル仕譯書ヲ提出スヘシ

- 一 官吏ノ俸給
- 二 賄料
- 三 退官賜金
- 四 死亡賜金
- 五 賞與
- 六 贈與又ハ謝金
- 七 慰勞金
- 八 諸手當
- 九 傭人給料
- 一〇 局内ニ於テ某會計所屬ヨリ他ノ會計所屬ニ買受タル物品代
- 一一 官報代
- 一二 缺損補填金

前項ノ仕譯書ニハ債主氏名仕拂フヘキ事由金額及算出ノ基ク所ヲ記載スヘシ

但俸給其他例規ノ支給ニシテ定例ノ期限ニ要求セザリシモノハ其事由ヲ證憑書類ニ附記シ又前月分支給後轉任退官死亡等ニ依リ支給ヲ止メタルモノアルトキハ其官職氏名及事由ヲ詳記シタル書面ヲ添付スヘシ

第九條 前條各項ノ仕譯書ノ外其事項ニ依リ尙左ノ書類ヲ提出スヘシ

- 一 死亡賜金ノ仕拂ニハ戶籍吏ノ證明アル戶籍書
- 二 死亡者在職中ノ俸給等ノ仕拂ニハ其相當受取人タルヘキ事實ヲ證明スヘキ書類
- 三 賞與贈與謝金及諸手當等臨時特例ノ仕拂ニハ大臣又ハ長官ノ決議書但年末慰勞金解雇一時手當等恒例ニ屬スルモノハ之ヲ除ク

第十條 死傷手當ノ仕拂ニハ鐵道作業局員公務上死傷者取扱心得ニ所定ノ書類及其決議書ヲ提出スヘシ

第十一條 金額千圓以上ノ工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル競争契約ニ基キ代金ノ仕拂ヲ要スルモノハ左ノ書類ヲ提出スヘシ

- 一 契約書(物件ノ購買契約ニシテ指定ニ依リ納入スルモノハ其指定書トモ)
- 二 請求書
 - 但金額算出法ヲ詳記スヘシ
- 三 工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル決議書
- 四 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書
- 五 豫定價格調書及下調書
 - 但下調書ナキモノハ其算出ノ基ク所ヲ附記スヘシ
- 六 一番札ヨリ五番札マテノ入札書
- 七 入札調書
- 八 會計規則第七十三條但書ニ依リタルモノアルトキハ其事由書
 - 但決議書中其事由ヲ掲載シアルモノハ之ヲ要セス

落札者工事又ハ物件購買借入ノ契約ヲ締結セサルニ依リ更ニ競争入札ヲ施行シテ締結シタル契約ニ基キ仕拂ヲ要スルモノハ尙前同ノ競争ニ關スル前項第三號以下ノ書類ヲ提出スヘシ

第十二條 金額千圓以上ノ工事(職工人夫雇)又ハ物件ノ購買借入ニ關スル隨意契約ニ基キ代金ノ仕拂ヲ要スルモノハ左ノ書類ヲ提出スヘシ

- 一 契約書
- 二 請求書
 - 但金額ノ算出方ヲ詳記スヘシ

第一類 會計通則 第二章 特別會計

- 三 工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル決議書
- 四 競争契約ニ依ラサリシ理由ノ説明書

但第三號ノ決議書中ニ其理由ヲ明記シアルモノハ別ニ提出ヲ要セス

工事又ハ物件ノ購買借入ニシテ競争入札ニ附スルモノハ札者ナク又ハ再度ノ入札ニ附スルモノ豫定價格ニ違セサルニ依リ隨意契約ヲ爲シタルモノハ更ニ第十一條第一項三號以下ノ書類ヲ提出スヘシ

第十三條 金額千圓以上ノ工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル代金ノ仕拂ニハ第十一條第十二條ニ規定シタルモノハ外各其事項ニ依リ尙左ノ書類ヲ提出スヘシ

- 一 但職工人夫雇出ノ分ニハ第二號以下ノ書類ハ提出ヲ要セス尤最終仕拂ノトキハ請求書ニ其旨ヲ記入スヘシ
- 二 契約締結後變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモノハ其決議書及關係書類
- 三 但處分未済ノモノハ其説明書ヲ添付シ處分済ノ月ニ於テ該書類ヲ提出スヘシ
- 四 工事全部竣功ニ依リ仕拂ノ分ニハ會計規則第六十七條第一項ノ調書
- 五 工事既済部分ニ對シ代價ノ一部分又ハ物品ノ既納ニ對スル代價ヲ完済前ニ仕拂フトキハ會計規則第六十七條第二項ノ調書

第十四條 前項ノ仕拂二回以上ニ涉ルトキハ第二回仕拂ヨリ既済部分若クハ既納部分ノ仕譯書

- 一 金額千圓未滿ノ工事受買代金ノ仕拂ニハ工事任方書請求書及内譯書
- 二 但他官廳へ囑托セシ工事ニ係ル代金ノ仕拂ニハ往復書及請求書
- 三 金額千圓未滿ノ物件借入料ハ契約書及請求書
- 四 左ノ仕拂ニハ請求書

一 旅費(乗務旅費ハ仕譯書)

但旅行中迂路ヲ經過セシモノ又ハ病氣滞在其他ノ事故ニ依リ特ニ日數ヲ要シタルモノ若クハ旅費ノ實費拂又

ハ割増ヲ許可シタルモノアルトキハ相當上官ノ認許書及乗務旅行中宿泊所々在地ニ於テ宿泊所外ニ宿泊シタルトキハ當該機關庫主任又ハ驛長ノ證明書トモ

- 二 翻譯科
- 三 寫字及印刷料
- 四 工事ニ使用スル金額千圓未滿ノ職工人夫賃
- 五 工事外ニ使用スル人夫賃
- 六 金額千圓未滿ノ物品購買又ハ製修代金
- 七 新聞又ハ雜誌代
- 八 製本料繪圖裏打料
- 九 公告料
- 一〇 舟、車、馬備賃
- 一一 運送賃
- 一二 電信及諸荷物配達賃
- 一三 電信柱敷地手當
- 一四 體格検査料
- 一五 電話使用料
- 一六 電報略語料
- 一七 電池掃除料
- 一八 電信線保守費
- 一九 貨物賃割戻
- 二〇 私設鐵道會社ニ對スル手荷物チエツキ紛失辨償金拂戻

第一類 會計通則 第二章 特別會計

第一類 會計通則 第二章 特別會計

- 一 過誤納拂戻金各驛收入ノ
- 二 測量ノ爲メ損害補償金
- 四 左ノ仕拂ニハ決議書及請求書
 - 一 但數回ニ仕拂フモノニシテ變更セシ場合ヲ除クノ外第二回以後ハ決議書ヲ要セス
 - 二 旅客貨物其他賠償金
 - 三 慰勞金
 - 三 鑑定料
 - 四 巡查備入費
 - 五 區役所ニ仕拂フヘキ撤水費及除雪費
- 五 左ノ仕拂ニハ契約書及請求書
 - 一 但數回ニ仕拂フモノニシテ變更セシ場合ヲ除クノ外第二回以後ハ契約書ヲ要セス
 - 一 各私設鐵道會社ニ對スル連帶運輸收入割戻金
 - 二 機關車藏敷料
 - 三 諸車使用料及遲滯料
 - 四 直通列車車輛備品及乘務員使用料
 - 五 轉車臺石炭供給水器使用料
 - 六 私設鐵道過料
 - 七 私設鐵道會社ノ停車場使用料
 - 八 各驛ノ貨物積卸及貨車ノ手押賃
 - 九 電燈及瓦斯其他點火料
 - 一〇 水料

一一 防火栓使用料

- 六 用地買收及之ニ附帶スル家屋植物等ノ補償金仕拂ニハ請求書並土地收用審査會ノ裁決書又ハ裁判判決ニ依リ仕拂フモノハ其關係書類然ラサルモノハ所有權移轉又ハ保存登記濟又ハ地種組替濟ヲ證スル書類
- 七 訴訟費用ハ請求書又ハ仕譯書訴訟提起ノ決議書判決ニ依リ仕拂フモノハ其判決書ノ謄本トモ
- 八 辯護士ノ報酬金ハ決議書及契約書請求書
 - 但前號ニ於テ決議書ヲ提出ノモノハ此限ニアラス
- 九 各驛收入金中掛員ノ誤リニ出タル過誤納拂戻金ハ主管部長ノ調書乘客貨主ノ誤リニ出タルモノハ請求書
 - 一〇 前各號ノ外ハ請求書其他事由ノ確認シ得ヘキ書類
- 請求書仕譯書調書ハ計算ノ基ク所ヲ詳記スルヲ要ス
 - 但官廳又ハ公署ヨリ送付セル納入告知書ノ類ニシテ計算ノ基ク所ヲ明瞭セサルモノハ之ヲ詳記セシ仕譯書ヲ添付スヘシ

第十五條 總價格千圓以上ノ直營事業ニ屬スル經費主管ノ仕拂要求者ハ左ノ區別ニ依リ設計書仕譯書設計圖面及附屬書並

ニ竣功明細書ヲ仕拂命令官ニ提出スヘシ

但附帶ノ雜工事等ニシテ別ニ設計ヲ爲ササル分ハ設計書仕譯書設計圖面及附屬書類ノ提出ヲ要セス

- 一 作業費支辨ニ屬スル事業ノ設計書仕譯書設計圖面及附屬書類ハ其認可ヲ受ケタル月之ニ對スル竣功明細書ハ最終仕拂ノ月其竣功ニケテ年度以上ニ涉ルモノハ毎年度其竣功シタル部分ノ明細書ヲ年度經過後一ヶ月以内
- 二 鐵道建設費官設既成鐵道改良費其他繼續事業ノ設計書仕譯書設計圖面及附屬書類ハ其認可ヲ受ケタル月之ニ對スル

竣功明細書ハ年度内端切ノ分ヲ年度經過後三ヶ月以内

三 竣功明細書調製心得ハ別ニ之ヲ定ム

前項ノ設計中變更シタルモノアルトキハ其變更設計書類ハ設計變更認可ヲ受ケタル月ニ提出スヘシ

第十六條 工事中該工事費豫算ヨリ代金ヲ支辨セスシテ使用シタルモノアルトキハ其種類數量見積價格ヲ記載シタル明細

第一類 會計通則 第二章 特別會計

書ヲ最終ノ仕拂要求書ニ添付スヘシ

但竣工明細書ニ記載スルモノハ別ニ添付ヲ要セス

第十七條 作業費支辨一廉ノ費額千圓以上ノ直營受買ノ兩工以上ノ直營工事ニ關スル經費ノ仕拂要求書及

附屬請求書又ハ仕譯書ニハ工事番號ヲ附スヘシ

物件購買代金ノ請求書ニハ官有財産簿又ハ物品出納簿ニ登記濟ノ年月日及價格千圓未滿ノ分ハ其所要ノ目的ヲ附記スヘシ

但購買ノ際直ニ消費シ物品出納簿ニ登記セサルモノハ其旨及納品濟年月日ヲ附記スヘシ

一 請求書ニシテ二目以上ニ涉ルトキハ第一目ニ對シテハ各自金額ノ仕譯書第二目以下ニ對シテハ高金及當該目ニ係

ル金額ヲ記載シタル仕譯書ヲ添付スヘシ

第一項ノ請求書仕譯書中工事番號二號以上ニ涉リ又ハ其一部ニ之ヲ附スヘキモノアルトキハ各工事番號ニ對スル該物件

ノ各名稱數量單價金額ヲ詳記シタル工事番號内譯書ヲ添付シ若シ二目以上ニ涉ルモノアルトキハ第三項ノ仕譯書ニ其内

譯ヲ附記スヘシ

但本項ノ場合ニハ請求書其他ノ附屬書ニ工事番號ノ附記ヲ要セス

第三章 雜則

第十八條 證憑書類(公告書)ハ原本ニ限ル若シ原本ヲ提出シ難キトキハ其事由ヲ記シ當該官吏ノ證明シタル謄本ヲ提出ス

ヘシ

但一決議書類ニ基キ分割契約ヲナシ既ニ證明ニ提出濟ノモノアルトキハ年度内ニ限リ其添付提出濟ノ徵收要求書、仕

拂要求書、年月日、記番號、金額費目、債主氏名等ヲ記載シタル調書ヲ添付シ決議書類ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 外國文ヲ以テ記載シタル證憑書類ハ其譯文外國貨幣ヲ以テ出納スヘキモノハ其爲替相場ヲ證スヘキ書類及換算

調書ヲ添付スヘシ

第二十條 前各章ニ掲グルモノ、外歲入徵收官又ハ仕拂命令官仕拂官吏ニ於テ調査上必要ナル歲入又ハ歲出ノ證憑書類ハ

總テ之ヲ提出スヘシ

總テ之ヲ提出スヘシ

現金前渡ノ請求ニ關スル件明治三十八年九月

現金前渡ノ請求ハ當局歲入歲出出納規程第四十四條ニ依リ毎月二回ニ分割請求スヘキノ處二十一日以後ニ仕拂フヘキ資金

ヲ本月五日迄ニ二十日以前ニ仕拂フヘキモノト併セテ請求スル向有之改正ノ趣旨ニ反シ候條爾今斯ノ如キコト無之樣一層

注意ヲ要ス

仕拂要求官及仕拂要求書調製主任者ノ印章提出ノ件明治三十三年八月二十二日

仕拂要求官及仕拂要求書調製主任者ノ印章ハ出納規程ニヨリ御提出相成候處從來其異動ハ任命ノ場合ノミ届出轉任死亡若

クハ解除等ノ際ハ届出無之向往々有之爲メニ調製主任者ノ數人アル場合ハ何誰ノ後任ナルカ又ハ増員ニ依リ新ニ命セラレ

タルモノナルカヲ認ムルヲ得ス整理上差支候條自今ハ轉任解除等ノ場合モ必ス無洩御届出相成且貴部御主管内ニモ此旨御

通知相成度此段申進候也

追書ハ略ス

青森出納事務所長伺(明治三十五年三月二十七日青第一八七號)

歳入歳出出納規程ニ依リ出納員ヲシテ派出仕拂ナサシムル場合ハ單獨責任トシテ壹名ツ、派出セシムルモノトセ

バ當事務所ノ如キハ派出數日ニ涉ルヲ以テ宿泊所ニ於ケル現金ノ保管ハ勿論途中使用等ニモ差支候ノミナラス受取

人數十名アル場合ハ到底壹人ニテハ手廻リ兼候義ト被存候ニ付從來ノ通り貳名ツ、派出セシムル様致度然ル時ハ自

然其責任ハ連帶ト相成候ニ付現金出納簿(出納員現金取扱規則第六條ニヨリ備附アル)ハ如何ニ記入致シ可然哉

計理部長答示(明治三十五年四月四日鐵計出發第二九三號ノ一)

一方面ニ二名ノ出納員ヲ派出セシメ事務整理上五ニ補助セシムルハ差支ナシト雖モ仕拂金取扱方ハ適宜分擔各自ニ

責任ヲ負ハシムル義ト御承知可有之

第一類 會計通則 第二章 特別會計

○仕拂要求書及物品請求券記入ニ關スル件 明治三十五年九月一日達第九五號

營業線路風水害等ノ災害ニ遭遇シタル場合之カ復舊工事費トシテ支出ヲ要スル支拂要求書及物品請求券共風水害ノ文字ヲ朱記スヘシ

○仕拂要求書及物品請求券ニ關スル件 明治三十四年七月二十一日達第九二號

工務部
計理部

三十五年度以降官設既成鐵道改良費中神戸及横濱海陸運輸連絡工事ニ關スル費用ハ別ニ整理ノ必要有之候條該費ニ屬スル仕拂要求書及物品請求券ニ限リ區間ノ欄ニ神戸(或ハ横濱)海陸連絡線ト記載スヘシ

○前渡金請求者區別受拂簿記帳ノ件 明治三十四年五月三十日計出第二八五號出納掛長ヨリ通牒

今般御協議相成候内前渡金請求者區別受拂簿記帳ノ件明治二十七年鐵道第八十二號達第三十三號式備考中款、項、目ノ座ヲ設クル事ニ現定相成居候得共取扱上款ノ坐ヲ設クルノ必要無之候ニ付右記帳ハ項目ニ止ムルコトニ御取扱可有之部長ニ經伺ノ上此段本官ヨリ及御通牒候也

○現金出納内譯簿整理ノ件 明治三十四年三月二十六日鐵計出發第二二〇號ノ一

來ル四月一日ヨリ現金出納内譯簿中收入ノ部(項目節)ノ口座ヲ廢セラレ候ニ就テハ左ノ通り整理可相成此段通牒候也
一 現金出納内譯簿ハ收入ノ部ヲ最初ニ歲出ヲ次位ニ各款(項目節ノ區)ノ口座ヲ設ケ從來ノ通記入スヘシ
二 運輸收入報告書ノ控ハ從來ノ項目節簿ノ代用トナルベキモノナルニ依リ毎月其月分ノ合金ヲ半紙罫紙ニ(何年度何何月分何何月分)記載シ毎月編纂整理保存スヘシ

- 三 即納通知書ニ依リ收入シタル領收證ノ原符及納入告知書ノ原符共前項ニ準シ編纂整理保存スヘシ
- 四 前二項ノ合金額ト現金出納内譯簿收入部受ノ金額ト照合シ尙之ニ仕拂ノ受ヲ加算シ現金出納簿ノ受ノ金額ト毎月照合スヘシ
- 五 金庫拂込領收證及仕拂要求書控共各合金ト出納内譯簿ノ各拂ニ照合尙收入支出ノ合計ヲ現金出納簿ノ拂ニ照合スヘシ
- 六 即納通知書及仕拂要求書ノ控共前二ニ準シ整理保存スヘシ
- 七 更正通知書中(不足納ニ)現金ヲ辨納シタル當日(科目)ノ分ハ受付ケタル當日ノ各運輸收入報告書ノ控ニ添付シ置クヘシ

○出納規程ニ依リ設備ノ現金出納簿及全内譯簿記帳方 明治三十三年六月四日鐵計檢發第四四五號ノ一(計理部長ヨリ)

各驛分任出納官吏(通牒)

出納規程ニ依リ設備ノ現金出納簿及内譯簿記帳方ハ數回ニ其記載例通牒致置候得共尙各驛區々ニ相涉居候間自今別紙記載例ニ準據シ一定ナ期シ候様致度此段及通牒候也
(本文通牒ノ旨更ニ同日檢査掛ヨリ各主任出納官吏(鹿兒島、八王子、篠ノ井、勝沼ヲ除ク)ヘ通知)

「現年度出度
例納金年
」記内

2. 鐵道作業費 (前年度仕拂殘額)

年 月 日	摘 要	受	拂	殘
明治三十四 三年一	前年度ヨリ持越高	4500		4500
”	前年度仕拂殘金主任仕拂官吏 へ返納		4500	

第一類 會計通則 第二章 特別會計

「現年度出度
例納金年
」記内

3. 鐵道作業費

年 月 日	摘 要	受	拂	殘
明治三十四 三年一	前年度ヨリ持越高	8000		8000

第一類 會計通則 第二章 特別會計

鐵道作業費 (年度開始前ノ分) 7.

年月日	摘要	受	拂	残
明治三十三年	年度開始前任拂元受金主任仕 拂官吏ヨリ領收	8000		8000
	翌年度へ持越高		8000	0
	合計	8000	8000	

「翌年度
現納金
内記」
例

鐵道作業收入 運輸收入 1.

年月日	摘要	受	拂	残
明治三十三年	前年度ヨリ持越高	20000		20000
"	運輸收入 何金庫へ拂込		20000	
"	"	9000		9000

鐵道作業費 5.

第一類 會計通則 第二章 特別會計

年月日	摘要	受	拂	殘
明治三十三年	前葉締高	48000	43000	
	二月中前葉締高	4000	2000	5000
二廿五	乘客貸金盛岡直外一名へ拂渡仕拂要求書何號		1000	4000
	二月分小計	4000	3000	
	累計	48000	44000	
	後任分任出納官吏へ引繼高		4000	
	合計	48000	48000	
二廿六	前任分任出納官吏ヨリ引受高	4000		4000
”	貸切車貸金木村又次外壹名へ拂渡仕拂要求書何號		1000	3000
廿八	仕拂元受金主任仕拂官吏ヨリ領收	5000		8000
	二月分小計	5000	1000	
	二月分合計	9000	4000	
	累計	9000	1000	
	追次締高	9000	1000	

三六一

6. 鐵道作業費

第一類 會計通則 第二章 特別會計

年月日	摘要	受	拂	殘
明治三十三年	前葉締高	9000	1000	8000
三十三	何々貸金何某外何名へ拂渡仕拂要求書何號		1000	7000
十五	何々貸金何某外何名へ拂渡仕拂要求書何號		1000	6000
十六	何々貸金何某外何名へ拂渡仕拂要求書何號	0500	2000	4500
廿九	二月廿六日貸切車貸金木村又次外壹名へ拂渡金壹圓ハ金五拾錢ノ誤リニ付過剩ノ分回收			4500
	三月分合計	0500	4000	
	累計	9500	5000	
	翌年度へ持越高		4500	0
	合計	9500	9500	

三六〇

3. 鐵道作業收入 運輸收入

年 月 日	摘 要	受	拂	殘
明治三十三年				
	前業締高	63000	56000	
	三月中前業締高	38000	38000	7000
三十六	運輸收入 何金庫へ拂込		7000	
		7000		7000
十七	何金庫へ拂込		7000	0
		10000		10000
廿九	何金庫へ拂込		10000	0
		20000		20000
三十一				
	三月分合計	75000	62000	
	累計	100000	80000	
	翌年度へ持越高		20000	0
	合計	100000	100000	

4. 鐵道作業收入 雜收入

年 月 日	摘 要	受	拂	殘
明治三十三年				
	前業締高	4000	4000	
	二月中前業締高	2000	1000	0
二十五	償納金	0700		
	招牌揭示料	0300		1000
	二月分小計	3000	1000	
	累計	5000	4000	
	後任分任出納官吏へ引繼高		1000	0
	合計	5000	5000	
二十六	前任分任出納官吏ヨリ引受高	1000		1000
	雜收入 何金庫へ拂込		1000	0
	二月分小計	0	1000	
	二月分合計	3000	2000	
	累計	1000	1000	

例簿納現以
「記内金」
載譯出下

鐵道作業收入 運輸收入 1.

年 月 日		摘 要	受	拂	残
明治三十	三年	前 業 締 高	12000	7000	
		二月中前業締高	9000	6000	5000
	二 廿五	運輸收入 何金庫へ拂込		5000	
			5000		5000
		二 月 分 小 計	14000	12000	
		累 計	17000	11000	
		後任分任出納官吏へ引繼高		5000	0
		合 計	17000	17000	
	二 廿六	前任分任出納官吏ヨリ引受高	5000		5000
		運輸收入 何金庫へ拂込		5000	
			5000		5000
	廿七	何金庫へ拂込		5000	
			5000		8000
	廿八	何金庫へ拂込		8000	0
		二月中追次締高	13000	15000	
		追 次 締 高	18000	18000	

2. 鐵道作業收入 運輸收入

年 月 日		摘 要	受	拂	残
明治三十	三年	前 業 締 高	18000	18000	
		二月中前業締高	13000	18000	0
	二 廿八	運輸收入	7000		7000
		二 月 分 小 計	20000	18000	
		二 月 分 合 計	34000	29000	
		累 計	25000	18000	
	三 一	運輸收入 何金庫へ拂込		7000	
			10000		10000
	二	何金庫へ拂込		10000	
	十二	何金庫へ拂込	8000		8000
	十三	何金庫へ拂込		8000	
			4000		4000
	十四	何金庫へ拂込		4000	
			9000		9000
	十五	何金庫へ拂込		9000	
			7000		7000
		三月中追次締高	38000	38000	
		追 次 締 高	63000	56000	

4.

年 月 日		摘 要	受	拂	残
明治三十三年	三月	前 業 締 高	98500	86000	
		三月中前業締高	63500	66000	12500
	三月	鐵道作業收入	20000		32500
		三月分合計	83500	66000	
		累 計	118500	86000	
		翌年度へ持越高		32500	0
		合 計	118500	118500	

例へ出度「翌」
「記納現」
「帳簿金年」

1.

年 月 日		摘 要	受	拂	残
明治三十三年	四月	前年度ヨリ持越高	32500		32500
		鐵道作業收入 何金庫へ拂込		20000	
		”	9000		
		前年度仕拂殘金主任仕拂官吏へ返納		4500	17000

第一類 會計通則 第二章 特別會計

2.

年 月 日	摘 要	受	拂	残
明治三十三年	前 業 締 高	10000	0	10000
二 廿六	鐵道作業收入 何金庫へ拂込		6000	
"	貸切車賃金木村又次外壹名へ 拂渡仕拂要求書何號		1000	
"	鐵道作業收入	5000		8000
廿七	" 何金庫へ拂込	8000	5000	11000
"	" 何金庫へ拂込		8000	
廿八	仕拂元受金主任仕拂官吏ヨリ 領收	5000		
"	鐵道作業收入	7000		15000
	二 月 分 小 計	25000	20000	
	二 月 分 合 計	46000	35000	
	累 計	35000	20000	
一	鐵道作業收入 何金庫へ拂込		7000	8000
"	"	10000		18000
二	" 何金庫へ拂込	8000	10000	8000
十二	"	8000		16000
	三 月 追 次 締 高	18000	17000	
	追 次 締 高	53000	37000	

「月合計ハ一ヶ月内
數回交替アリタル場
合ハ最終ノ取扱者ノ
ミニ於テ之レヲ付ス」

3.

年 月 日	摘 要	受	拂	残
明治三十三年	前 業 締 高	53000	37000	
	三月中前業締高	18000	17000	16000
三 十三	鐵道作業收入 何金庫へ拂込		8000	8000
"	"	4000		
"	何々賃金何某外何名へ拂渡仕 拂要求書何號		1000	11000
十四	鐵道作業收入 何金庫へ拂込		4000	
"	"	9000		16000
十五	" 何金庫へ拂込		9000	
"	何々賃金何某外何名へ拂渡仕 拂要求書何號		1000	
"	鐵道作業收入	7000		13000
十六	" 何金庫へ拂込		7000	
"	"	7000		
"	何々賃金何某外何名へ拂渡仕 拂要求書何號		2000	11000
十七	鐵道作業收入 何金庫へ拂込		7000	4000
廿九	"	10000		
"	年度開始前任仕拂元受金主任仕 拂官吏ヨリ領收	8000		
"	二月二十六日貸切車賃金木村 又次外壹名へ拂渡金壹圓ハ金 五拾錢ノ誤リニ付過剩ノ分回 收	0500		22500
三十	鐵道作業收入 何金庫へ拂込		10000	12500
	三 月 中 追 次 締 高	63500	66000	
	追 次 締 高	98500	86000	

第一類 會計通則 第二章 特別會計

以下
四表
納金
現出
載例

年 月 日	摘 要	受	拂	残
明治三十三年	前 業 締 高	64,000	54,000	
二 廿五	二月中前業締高 乘客貨金盛岡直外壹名へ拂渡 仕拂要求書何號 鐵道作業収入 何金庫へ拂込	15,000	9,000 1,000 5,000	10,000
"	"	6,000		10,000
	二月分小計	21,000	15,000	
	累 計	70,000	60,000	
	後任分任出納官吏へ引繼高		10,000	0
	合 計	70,000	70,000	
	明治三十三年二月廿六日			
	前任分任出納官吏 官 氏 名 印			
	後任分任出納官吏 官 氏 名 印			
二 廿六	前任分任出納官吏ヨリ引受高	10,000		10,000
	道 次 締 高	10,000	0	

〔分任出納官吏交替ノ場合ニ於ケル例〕

○同上ニ關スル件

富山驛分任出納官吏照會 (明治三十三年六月十三日)

鐵計檢發第四四五號ノ一御達内譯簿記載例ニ依レハ運輸収入ノ座ヨリ始マリ以下云々ト有之候ガ該簿ニハ款ノ座ハ要セサル義ニ候哉疑義相生候何分ノ御回答奉願候也

検査掛回答 (明治三十三年六月十九日)

内譯簿記載例ノ件ニ付御照會ノ趣了承有ハ項ノ座ニテ一例ヲ示サレタルモノニシテ款及目節ハ之ニ準據スル義ニ有之候但シ摘要ニ運輸収入トアルナ款及目節ニ於テハ其座取名ニ倣ヒ款及目節ノ科目名ヲ記入スル義ニ候此段及御回答候也

○神戸主任出納官吏問合 (明治三十三年六月十四日神簿第六號)

今般第二五六號ヲ以テ各驛分任出納官吏へ帳簿記載例御通牒相成候處鐵道作業収入ノ款及目節並ニ更正通知書ニ依リ科目更正ノ記載例明記無之右ハ款及目節ハ項ノ記載例ニ更正ノ方ハ從來ノ記載例ニ準據シ記入可然哉爲念及御問答候條至急何分ノ御答煩度候也

検査掛回答 (明治三十三年六月十五日)

神簿第六號御照會ノ趣了承御意見ノ通ニテ可然存候但摘要ハ其座取名ニ倣ヒ科目名ヲ記載スル義ニ有之候此段及御回答候也

○鐵道作業局歳入歳出々納規程ニ依リ收入金保管ノ場合ニ於テ調製スヘキ仕

譯書々式ノ件 (明治三十三年六月二十三日鐵計出發第四三七號ノ一)

當局歳入歳出々納規程ニ依リ各驛收入金當日拂込ヲ了スル能ハス保管スル場合ニ於テハ別紙書式ノ仕譯書ヲ調製シ之ヲ以テ記帳シ尙出納證明上證憑書類トシテ提出スル義ト御承知有之度尤モ歳入歳出外現金計算書摘要ニハ運輸収入拂込未濟一時保管金ト題號ヲ掲ケ其下ニ何驛外幾驛分拂込未濟金ト記入シ整理可有之候此段及通牒候也

但毎年三月三十一日拂込ムヘキ金ニテ本文保管ノ爲メ次年度ニ涉リ拂込ナ了スル場合ハ其旨計算書ノ備考ニ掲記スル義ト御了知有之度候

第何號

保管金 仕 譯 書

一金 何 程

是ハ何驛分任收入官吏收入金ニテ(何々事故)ニ付歳入歳出々納規程第二十五條ニ依リ一時保管ノ分右ノ通候也

年 月 日

出納官吏 官 氏 名 國

第何號

保管金 拂込 仕 譯 書

一金 何 程

是ハ何驛分任收入官吏收入金第何號保管金仕譯書ニ對スル分何日拂込ナ了ス右ノ通候也

年 月 日

出納官吏 官 氏 名 國

○鐵道作業局歳入歳出納規程ニ據ル仕拂要求書記事欄内記入方心得ノ件

三年九月二十八日鐵計出發第八四一號
ノ一(計理部長ヨリ各部課長ヘ照會)

當局歳入歳出々納規程ノ仕拂命令官拂ニ係ル仕拂要求書ニハ自今其記事欄内ニ當初概算渡要求書ノ年月日番號ヲ記入相成候様致度此段及照會候也

追テ精算上過不足無キ場合ハ本本文ノ年月日番號及科目ヲ精算證書ニ御記入相成度候

○乗客賃金及諸荷物賃金拂戻要求手續

明治三十一年四月二十八日
鐵運乙第七三六號運輸計理兩部長達
正 號 一 二 六 二 改

第一條 乗車切手ヲ買求メ若クハ有貨手荷物ヲ預ケタル後乗車ヲ見合セタルカ乗車後途中線路或ハ列車ノ故障ニ依リ進行中止シ容易ニ開通ノ見込ナク乗客ヲシテ下車セシメ又ハ方向違ノ乗車切手ヲ所持シテ下車シ該切手ハ切手面ノ區間ニ對シ使用セサル旨申出タル場合ニ於テ其驛ニ該乗客ヨリ賃金ノ拂戻ヲ請求スルモノアルトキハ乗車切手ニ在ツテハ乗車切手領收切符裏面ニ第一號式ノ通り有貨手荷物ニ在ツテハ手荷物切符又ハ特種小手荷物切符裏面ニ第二號式ノ通り當該驛長ニ於テ證明シ之カ仕拂要求書ヲ製シ添付ノ上當該驛分任仕拂官吏ニ要求スヘシ

但本條有貨手荷物引渡ノ際乗客ノ都合上賃金ハ後日請求スル旨申出タルトキハ手荷物切符又ハ特種小手荷物切符ト引換ニ第三號式ノ通り證明書ヲ交付シ而シテ第四號式ニ依リ其旨運輸部調査掛(奥羽線各驛ハ青森出張所)ニ報告スヘシ

第二條 乗車切手紛失ニ依リ更ニ相當賃金徴收ノ後該切手ヲ本人ニ於テ發見シ乗車切手紛失賃金領收切符ニ添付賃金徴收驛ニ又ハ前條但書ノ證明書ヲ以テ其交付驛ニ賃金ノ拂戻ヲ請求スルモノアルトキハ當該驛長ニ於テ切手紛失ノ方ニ在ツテハ乗車切手紛失賃金領收切符裏面ニ第一號式ニ準シ又證明書ノ方ニ在ツテハ其餘白ニ拂戻金額ヲ記入證明シ之カ仕拂要求ヲナス事前條ニ同シ

第三條 前各條ノ仕拂ヲ要求シタルトキハ乗客賃金ニ在ツテハ乗車切手領收切符及乗車切手紛失賃金領收切符(發見シタル乗車切手ヲ添付ス)手荷物賃金ニ在ツテハ手荷物切符及特種小手荷物切符ノ各乙片餘白ニ拂戻金額及仕拂要求書番號ヲ朱記シ運輸部調査掛(奥羽線各驛ハ青森出張所)ニ差出スヘシ

但乗車切手領收切符乗車切手紛失賃金領收切符ノ乙片又ハ第四號式報告書差出後ナルトキハ第五號式ニ準シ報告スヘシ

第四條 乗車切手領收切符又ハ乗車切手紛失賃金領收切符ニ發見ノ切手ヲ添ヘ又ハ第一條但書ノ證明書ヲ以テ便宜他ノ驛ニ賃金拂戻方請求スルモノアルトキハ當該驛長ハ直ニ仕拂要求手續ヲナス一旦其切符又ハ證明書ヲ受取り本人宿所ヲ

詳細開取ノ上運輸部長(奥羽線各驛ハ青森出張所長)ニ提出スヘシ

運輸部長(青森出張所長)ハ前項提出ノ切符又ハ證明書ニ證明シ之ヲ其驛ニ回附スベシ而シテ回附ヲ受ケタル驛長ハ實際
拂戻ヲ要スル場合ニ臨ミ之カ仕拂要求書ヲ製シ添付ノ上當該驛分任仕拂官吏ニ要求スヘシ

第五條 列車ノ都合上優等車室ヨリ劣等車室ニ轉乘セシメタル場合アルトキハ當該驛長ハ着驛ニ宛テ乗客ノ氏名及其事情
竝ニ到着ノ上過納トナリタル貸金ノ拂戻ヲ請求スル時ノ取計方等電報スヘシ而シテ着驛ニ於テ該乗客ヨリ拂戻方請求ア
リタルトキハ驛長ハ第六號式ノ通り證明シ之カ仕拂要求書ヲ製シ添付ノ上當該驛分任仕拂官吏ニ要求スヘシ

但此場合ニハ第七號式ニ依リ其旨運輸部調査掛(奥羽線各驛ハ青森出張所)ニ報告スヘシ

第六條 貨物及小手荷物ノ重量價格哩數又ハ其他ノ違算ニ依リ過納トナリタル貸金ノ拂戻ヲ要スルトキハ運輸部長(青森
出張所長)ニ於テ審査ノ上過納金報告書ヲ發行シ其拂戻ノ處理ヲナス驛長ニ回附スヘシ而シテ回附ヲ受ケタル驛長ハ第
四條二項末段ニ準シ要求スヘシ

但此場合ニハ便宜上訂正金授受濟報告面過納金報告書番號ノ下部ニ仕拂要求書番號ヲ記入運輸部調査掛(奥羽線各驛
ハ青森出張所)ニ報告スヘシ

第七條 總テ仕拂要求書ハ式ノ通り調製各驛本ヲ製シ毎月分取纏メ翌月三日迄ニ運輸部庶務掛(奥羽線各驛ハ青森出張所)
ニ提出スヘシ

第一號式 乘車切手(紛失貨金)領收符裏面

第一號式

乗車見合セニ依リ
(何々ニ依リ)乗車
セサレ何々間(乘
車切手)發見ニ依
リ)拂戻ヲ要ス

一金何程 何驛長

第三號式

一表面本人氏名ノ肩ニ住所ヲ詳記スヘシ

第何號
何年何月何日分
自何驛手荷物第何號ノ分
至何驛手荷物第何號ノ分
此貨金何圓何錢
右ハ乘車見合ニ依リ(何々ニ依リ
當驛ニ於テ)引渡シタル事ヲ證明
ス

年月日 何驛長
住所 氏名殿

一用紙半紙半部ニ限ル

第一類 會計通則 第二章 特別會計

第二號式 荷手(特種小荷物)切符裏面

第二號式

乗車見合ニ依リ(何々ニ依リ)當
驛ニ於テ引渡シタルニ付(殘餘)貨
金ノ拂戻ヲ要ス

一金何程 何驛長

第四號式

一手荷物切符 何驛發行第何號
ノ分

右、乘車見合ニ依リ(何々ニ依リ)當
驛ニ於テ)引渡シ候處貨金ハ後日
請求スル旨申出ニ付證明書交付致
置候間切符乙丙兩片相添報告ス

年月日 何驛長
運輸部調査掛御中

一用紙半紙半部ニ限ル

三七五

注意
途中下車
セシメタル
場合ニ於
ケル貨物
於ケル貨
金ノ拂戻
方ハ既納
貨金ノ内
當該驛ヨリ
發金ノ控
金ヲ相控
シテ餘額
ノモアル
限ル

第一類 會計通則 第二章 特別會計
第五號式

仕拂要求書第 記
 何月何日發行
 一金何程 第何號 乘車切手領收切
 符ノ分
 同 第何號
 一金何程 第何月何日發行
 第何號 乘車切手紛失貨
 (是レニハ發見シタル乘車切
 手ヲ添付スヘシ)
 右ノ通り本日當驛ニ於テ仕拂要求
 候間報告ス
 年 月 日 何驛長印
 運輸部調査掛御中
 一用紙半紙半部ニ限ル
 第七號式

第六號式
三七六

一金何程 住所
 氏 名
 右ハ何列車ノ際何人(本人外家族
 何人)何々間何等乘車切手ヲ以テ
 何等車室ニ轉乘セシメタルニ付過
 納貨金拂戻ヲ要ス
 年 月 日 何驛長印
 一用紙半紙半部ニ限ル
 一本書面ニハ必ス發驛ヨリノ電報
 ヲ添付スヘシ

記載例

第何號	仕拂要求書	左記ノ通仕拂有之度候也	明治何年何月何日	分任仕拂官吏官氏名殿	何驛長	官 氏 名 印
一合金何程	鐵道作業費	諸 拂 戻 金	區間及目節	事 由	節 金 額	計 金 額
內 譯	何 年 度	鐵道作業局	區間	何々線	諸拂戻金	客車收入
			目	客車收入	客車賃金	乘客賃金
			細節	式ノ事由ニ準 シ記載スヘシ		

第一類 會計通則 第二章 特別會計

細目	區間	細目	區間	細目	區間	細目	區間
貨物賃金	同	貨車收入	同	小荷物賃金	同	手荷物賃金	同
貨切車賃金	同	同	同	同	同	同	同
		同		何々ノ爲相違 ニ付過納拂戻		(第二號式ノ事 由ニ準シ記載 スヘシ)	

○仕拂要求書中債主氏名記載方ノ件 明治三十四年十一月廿九日
 鐵計出發第一〇九三號ノ一

局内收支ニ係ル要求書中仕拂要求書ノ債主氏名ハ是迄收入官吏某ト記載相成候處三十五年度ヨリ歳入徴收官鐵道作業局長
 官某ト記載相成度此段及御通知也

○年度末帳簿記入ノ件 明治三十一年三月二十三日鐵計乙第六〇〇號
 計理部長通牒分任收入官吏宛

現金出納簿中年度末及年度初記入方ノ儀ニ付明治二十七年三月中鐵計第一〇七一號ヲ以テ及御通牒置候處自今別紙甲號ノ
 例ニ依リ前年度分ヲ締切リ乙號ノ例ニ依リ次年度ノ新帳簿ニ記入スル儀ト御承知相成度此段及御通牒候也

(甲)

第一類 會計通則 第二章 特別會計

年月日	摘要	受	拂	殘
明治三十一年	前業締高	3,000.000	2,900.000	100.000
"	前月收入ノ内客車收入 <small>何金車 何金車</small>		70.000	
"	" 貨車收入 "		25.000	
"	" 雜收入 "		5.000	
"	(申略)			
三十一	運輸收入	350.000		
"	雜收入	10.000		
"	「乘客賃金何某へ拂戻」	「2.000」		
"	本月收入ノ内			
"	客車收入 <small>何金車 何金車</small>		298.000	
"	" 貨車收入 "		50.000	
"	" 雜收入 "		10.000	
	三月分合計	360.000	458.000	
	「三月分拂戻合計」	「2.000」		
	三月分純合計	358.000	458.000	
	累計	3,358.000	3,358.000	

「」ハ朱書

年月日	摘要	受		拂		發	
明治卅一年四月	前年度持越高	358000					
"	同上ノ内容車收入何金庫へ拂込			298000			
"	車收入			50000			
"	雜收入			10000			
	(中略)						
卅一年四月	運輸收入	450000					
"	「乘客賃金何某へ拂戻」	[3000]				447000	
	四月分合計	808000		358000			
	「四月分拂戻合計」	[3000]					
	四月分純合計	805000		358000			
	「」ハ朱書						

○鐵道作業局歳入歳出年度末及年度開始前整理手續(明治卅一年三月十五日)

明治卅一年三月十五日
第七號(長官達)
達ニテ改
號ニテ改
正追加

- 第一條 鐵道作業收入及官設鐵道用品賣拂代收ノ徵收要求書ハ毎年度三月二十六日迄ニ提出スヘシ
但同日以後ニ生シタル歳入ノ徵收要求書ハ三月三十一日迄ニ提出スルコトヲ得
- 第二條 鐵道作業費及官設鐵道用品費ノ仕拂要求書ハ毎年度三月二十八日(新橋主任仕拂官吏ニ對スルモノハ三月二十五日)迄ニ提出スヘシ
但同日以後ニ生シタル歳出ノ仕拂要求書ハ翌年度四月七日迄ニ提出スルコトヲ得
- 第三條 鐵道建設費及官設既成鐵道改良費淀川新流架橋費ノ仕拂要求書ハ翌年度四月二十五日迄ニ提出スヘシ
但同日以後ニ生シタル歳出ノ仕拂要求書ハ翌年度四月二十五日迄ニ提出スルコトヲ得
- 第四條 第二條ノ期限迄ニ仕拂要求書ヲ提出シ難キ正當ノ理由アルモノハ第一號式ニヨリ每件其科目金額債主氏名及事由ヲ詳記セル調書ヲ製シ鐵道作業費及官設鐵道用品費ハ翌年度四月七日迄ニ仕拂命令官若クハ當該主任仕拂官吏へ鐵道建設費及官設既成鐵道改良費淀川新流架橋費ハ四月二十五日迄ニ仕拂命令官ニ提出スヘシ
但鐵道建設費官設既成鐵道改良費又ハ淀川新流架橋費ノ調書中過年度支出トスルノ必要ナシト認ムルモノアルトキハ計理部長ニ於テ當該要求者ニ其仕拂ヲ要求セシムルコトヲ得
- 第五條 鐵道作業費及官設鐵道用品費ノ前渡金請求書及同追渡請求書ノ提出ハ毎年度三月十八日限り提出スヘシ
鐵道建設費及官設既成鐵道改良費ノ前渡金請求書及同追渡請求書ノ提出ハ翌年度四月十五日限り提出スヘシ
各費途ノ年度開始前前渡請求書ハ毎年三月十六日限り提出スヘシ
但鐵道作業費及官設鐵道用品費前年度内仕拂未済額ヲ本項前渡金ヨリ仕拂ヒタルトキハ其相當額ヲ仕拂未済用ニ更正ノ手續ヲナスヘシ

第六條 主任仕拂官吏ハ毎年度三月二十五日(新橋主任仕拂官吏ハ三月二十八日)迄ニ受付ケタル鐵道作業費及官設鐵道用品費ノ仕拂要求書ヲ限度トシテ其月内ニ必ス仕拂チテシ得ヘキモノヲ即日調査確定シ其金額ヲ前渡金現在額ヨリ控除シ其殘額ヲ仕拂殘餘トシテ各目ヲ分チ直ニ計理部長及當該要求者ニ報告スヘシ

但計理部長ヘノ報告ハ各要求官ノ區分ヲ要ス

鐵道建設費及官設既成鐵道改良費ノ前渡金ニシテ過剩トナルヘキ金額ハ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ決定シ前項ノ例ニ準シテ報告スヘシ

但四月底日マテニ仕拂チ了シ難キモノハ五月十日マテ其仕拂チ爲シ同月一日ヨリ十日マテノ受拂對照表ヲ提出スヘシ
若シ五月十日マテニ仕拂チ了シ難キモノアルトキハ其旨計理部長及當該要求者ニ詳細急報スヘシ

第六條ノ二 各要求者ニ於テ第六條第一項又ハ第二項ノ報告ヲ受ケタルトキハ即時ニ戻入要求書ヲ發行スヘシ

但シ第四條但書ニ依リ當該仕拂官吏ニ對シ更ニ仕拂チ要求スヘキモノアルトキハ該金額ヲ存置シ其殘額ヲ戻入セシムヘシ

第六條第一項ノ報告ニ對シ第十二條ノ追報告ヲ受ケタルトキハ歲入ニ徵收ノ要求書ヲ發行スヘシ

第七條 計理部長ニ於テ第六條ノ報告及戻入要求書ヲ受ケタル時ハ直ニ返納告知書發行ノ手續ヲ爲スヘシ

但鐵道作業費及官設鐵道用品費ノ如キ戻入期日ノ切迫セルモノニシテ之ヲ主任仕拂官吏ニ送付シ返納セシムヘキ猶豫ナキモノハ便宜留メ置キ第八條ノ振換拂證書ノ到達ヲ待テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 地方在勤主任仕拂官吏ニ於テ第六條ノ報告ヲシタルトキハ其第一項ニ屬スル現金ハ返納告知書ノ到達ヲ待タズ直ニ中央金庫ニ對シ各主管金庫ヘ振換納チナシ其振換拂證書ヲ三月廿九日迄ニ到達スヘキ様計理部長ニ宛テ貴重品取扱列

車便又ハ書留郵便ヲ以テ發送スベシ其第二項ニ屬スルモノハ返納告知書ノ到達ヲ待テ振換納チナシ其振換拂證書ヲ返納告知書ト共ニ之ヲ計理部長ニ送付スヘシ

第九條 主任仕拂官吏ニ於テ三月二十五日(新橋主任仕拂官吏ハ三月二十日)迄ニ受理シタル仕拂要求書中仕拂未濟ニ屬シタルモノ及同日以後ニ受理シタル要求書ト第四條ノ調書ニ依ルモノトチ合シ第二號式ニ準シ年度内仕拂未濟額表及同付屬書正副二通

ヲ製シ四月十二日迄ニ計理部長ニ提出スヘシ

第十條 主任仕拂官吏ニ於テ本手續ノ期限ニヨリ整理スレハ第八條ノ期日ニ振換拂證書ノ計理部長ニ到達シ難シト見認ムルトキハ計理部長及各要求官ニ通知ノ上便宜繰上ルコトヲ得

三月三十日三十一日兩日中土曜日若クハ休日ニ當ルトキハ第二條(但書ヲ除ク)第五條第一項第六條第一項及第八條ノ期日ヲ各二日間繰上ルモノトス

第十一條 各驛分任仕拂官吏毎年度三月三十一日ノ仕拂殘金アルトキハ同月分ノ受拂對照表備考ニ該殘金返納ノ旨ヲ記載シ其殘金ハ該對照表ニ添ヘテ之レヲ主任仕拂官吏ニ返納スヘシ

第十二條 主任仕拂官吏ハ前條ノ年度内仕拂殘金返納ヲ取纏メ第六條第一項ノ追報告トシテ其金額ヲ計理部長及前渡金請求者ニ報告シ現金ハ成規ニ依リ之ヲ保管シ納入告知書ノ發行ヲ待テ之ヲ歲入ニ納付スヘシ

第十三條 仕拂命令官宛鐵道作業費又ハ官設鐵道用品費ノ仕拂要求書中三月三十一日マテノ日附ニ係ル要求書ニシテ年度末仕拂未濟トナリタルモノハ出納掛長ニ於テ其番號金額及仕拂未濟ノ事由ヲ取調ヘ四月十日マテニ當該要求者ニ通知ス

科目	債主氏名	費 途	金 員		要求書發行ニ至ラサル事由	要求書發行見込期日
			何 月 何 日	何 員		
何項	何 某	何月日給料又ハ何々	0		何々事由ニヨリ發行未済	何年何月日
何目	何 某	何々代	0			
何目	何 某	何 々	0		"	"
何目	何 某	何 々	0			
計			0			
何項	何 某	何 々	0		何 々	何年何月日
何目	何 某	何 々	0			
何目	何 某	何 々	0		何 々	"
何目	何 某	何 々	0			
計			0			
合計			0			
何年度何費要	求書發行	未済額上表ノ	通相違無	之候也		
年 月 日		何	部課所長	官 氏 名 印		
任拂命	令官若ク	ハ任拂官吏宛				

(壹號式)

何 年 度 何 費

要求費發行未済額報告表

何 部 課

(貳號式)

何年度何役

年度內仕拂未濟額表

何所

科目	何部要求	何課要求	何所要求	合計
何項目				
何項目計				
何項目				
何項目計				
合計				

何年度	何費年度內仕拂未濟額上表ノ通相違無之候也
年 月 日	何所仕拂官吏 官 氏 名 印
	仕拂命令官々 氏名宛

(貳號式附屬)

何年度何費

年度内仕拂未済額表附屬明細書

何所

○金澤出納事務所長伺 (明治三十七年三月十四日金出第三七八號)

今回歳入歳出年度末整理手續改題及條項中改正相成候へ共同第六條及第八條ノ手續ハ事實ニ於テ多ク從前ト異ナルコトナク即チ本月二十五日迄ニ確定シヨル前渡金仕拂殘餘ハ直チニ返納ヲ爲スヘキニヨリ廿六日以後三十一日迄ハ仕拂要求書ヲ受理スルニ不拘仕拂フコトヲ得サルモノナリ然シテ此仕拂不能ハ規程上自然ノ結果ニ付本年公達第一號第九條ニ依ル期間經過報告ハ提出ヲ要セザル義ト心得可然哉或ハ提出スベキモノトスルモ期間經過ノ事由ハ全ク同一(報告書凡例第四號ニ該當スル)ナルニ依リ報告書中納入又ハ債主氏名ノ欄ニ何某トアルヲ何某其外トシ壹日分毎ニ受付タル要求書ノ金額ヲ併算掲記スルニ止メ差支無之哉

計理部長指令 (明治三十七年三月十八日鐵計庶務發第四四六號ノ一) 前段意見ノ通

○山形出納事務所長心得照會 (明治三十七年二月廿三日山出第一二一號)

當局年度末年度開始前整理手續ニ於テ作業費及用品費ハ三月廿五日ヲ區切り前渡金ハ返納スルヲ以テ其後ニ生シタル債務ニ對シテハ仕拂ニ充當スヘキ前渡金ナキモ仕拂要求書ヲ發行スヘキ哉寧ロ公達第一號第八條ニ基キ要求ヲ見合セ事實ノ報告ヲナシ可然哉

庶務掛長回答 (明治三十七年三月三日庶務發第一八〇號ノ一)

年度末整理手續上仕拂ニ充ツヘキ前渡金ナキニ依リ仕拂ノ要求ヲ爲サ、ルモ公達第一號第八條ニ據ル取扱期間經過ノ報告提出ニ及ハス

○八王子仕拂官吏伺 (三十五年二月十三日鐵計八第一三七號)

昨年三月爲替納金取扱順序廢止相成候ニ就テハ歳出元受金ノ殘額ヲ返納スルニハ振換拂ノ手續ニ依ルノ外途ナカルベク又振換拂ノ手續ヲ爲スニハ返納告知書ノ到達ヲ必要トスルニ付キ年度末整理手續第八條ノ現金(作業費用品費ノ殘額)モ總テ返納告知書ノ到達ヲ待テ受理スベキモノト心得可然哉

計理部長答示 (明治三十五年二月十八日鐵計出發第一〇六號ノ一)

第一類 會計通則 第二章 特別會計

年度末整理手續第八條ノ返納金ハ御申越通り振換拂ノ手續ニ依リ返納相成又該手續ハ卅三年四月金庫出納役代理第十三號達金庫相互間現金運轉順序第十條第一項ニ依ルモノニ付金庫へ請求書ノミ御提出相成候得ハ振替拂證書ヲ交付候答ニ付特別會計ノ分タリトモ振換請求ニ就テハ別ニ返納告知書ノ必要無之候

參照
 金庫相互間現金運轉順序第拾條第一項
 甲地金庫ニ於テ歳出金返納人ノ請求ニヨリ(仕拂命令官ニ氏名金額等ヲ記)乙地金庫ヲシテ定額戻入金ノ振換拂ヲ爲サシメントスルトキハ振換拂證書ヲ歳出金返納人ニ交付シ全時ニ振換拂通知書ヲ乙地金庫へ送付スルモノトス
 其書式第四號ノ如シ

第一類 會計通則 第二章 特別會計

科目	債主氏名	費途	番號	金額	仕拂未済トナリタル事由
何項目	何官何某	何年月分券給退給	1	0	調理中年度翌週ニ付キ支出未済 翌月拂ヒノ例取ナルニ付キ全上
(何部課所何職要求者)	何職何某外人	何年月日ヨリ何月日マテノ日給	2	0	
計目				0	
何項目	何官何某外人總代	何年月中食料又ハ何々	1	0	調理中年度翌週ニ付キ支出未済 何々ニヨリ同上
(何部課所何職要求者)	何某外人	何々買上代	2	0	
計目				0	
何項目	何某	何々買上代	1	0	何々ニ付キ支出未済
(何部課所何職要求者)	何職何某外人	何年月中出張又ハ赴任旅費	2	0	
計目				0	
何項目	何某	何々	1	0	"
(何部課所何職要求者)	何某	何々	2	0	
計目				0	
計合計				0	
總計				0	

備考 { 本未
 書ハ仕拂要請求書ニ記載シタル第何號ト
 書一毎ニ筆
 目番ハ之ニ
 直號ハ之ニ
 接對照シ
 併スル
 得
 記證ニ
 書憑書
 様
 爲
 何年度支出
 置クヘシ

科 目		何部要求	何課要求	何所要求	合 計
何	項 目				
	何 何 目 目 計 計				
何	項 目 目 計				
	何 何 目 目 計				
	合 計				

何年度何費年度內仕拂	未濟額上表之通相違無之候也
何 所 仕 拂 官 吏	何 所 仕 拂 官 吏
年 月 日	官 氏 名 ①
仕 拂 命 令	官 宛

何 年 度 何 費

年度內仕拂未濟額表附屬明細書

何 所

科 目	債主氏名	費 途	金 員		要求書發行ニ至ラサル事由	要求書發行見込期日
何 項	何 某	何月日給料又ハ 何々	0		何々事由ニヨリ 發行未済	何年 月 日
何 目	何 某	何々代	0		〃	〃
何 目	何 某	何々	0		〃	〃
何 目	何 某	何々	0		〃	〃
計			0			
何 項	何 某	何々	0		何々	何年 月 日
何 目	何 某	何々	0		〃	〃
何 目	何 某	何々	0		〃	〃
何 目	何 某	何々	0		〃	〃
計			0			
合計			0			

何年度何費要求書發行未済額上表之通相違無之候也

何 部 課 所 長

年 月 日 官 氏 名 印

任拂命令 官若クハ任拂官吏宛

貳 號 式

何 年 度 何 費

年 度 内 仕 拂 未 済 額 表

何 所

壹號式

何年度何費

要求書發行未濟額報告表

何部課

- 年度末會計整理ニ關スル件 (明治三十五年六月十二日鐵計出發第六二七號ノ一)
- 一 支出未濟明細書中ニ二年度以上ニ涉リ尙支出未濟トナリタルモノハ其所屬年月日ヲ該明細書ノ費途欄内ニ詳記シ
 - 要ス
 - 一 支出未濟額中期滿免除トナリタルモノアルトキハ其金額科目債主及其所屬年月日ヲ詳記シ支出未濟明細書ニ添付提出ヲ要ス

○鐵道作業局歲入歲出納規程第三條第二項ニ依リ即納セシムヘキ歲入種類

明治三十四年十二月二十七日
達第一〇九號

鐵道作業局歲入歲出納規程第三條第二項ニ依リ即納セシムヘキ歲入ノ種類左ノ通之ヲ定ム
即納セシムヘキ歲入ノ種類

- 一 手荷物用「チエツキ」紛失辨償金
- 一 停車場及列車窓硝子毀損辨償金
- 一 停車場及列車備付品毀損辨償金
- 一 招牌揭示料
- 一 貨物取扱人入場鑑札再交付手数料
- 一 乘客遺失金ノ内滿期ニ付警察署ヨリ直ニ現金ヲ送付スルモノ
- 一 物品ノ拂下代
- 一 「クレイン」使用料
- 一 「シヤレックス」使用料
- 一 神戸棧橋使用料
- 一 定期乘車券紛失ニ付書換手数料
- 一 新聞及雜誌特別運送證票料金

第一類 會計通則 第二章 特別會計

第一類 會計通則 第二章 特別會計

- 一 貨車貸切賃金ノ内前納ヲ要スルモノ
- 一 購入物品ノ圖面及仕様書等貸下料
- 一 貨車牽引料(専用私線内ニ於テ機關車ヲ以テ貨車ヲ牽引スヘキ料金)

○即納通知書ニ對スル納金書ノ件

計理課長通牒 分任收入官吏宛 (明治二十七年二月二日 鐵計第二九五號)

出納規程第三十二條即納通知書ニ依リ現金ヲ納付セシムルトキハ該納人ヨリ納金書ヲ御取置相成候様致度

○即納報告書事由記載方ノ件(明治三十四年五月七日 鐵計出發第四〇九號ノ一(各車輸事務)所長各驛長)

即納報告書事由自今左記之例ニ準シ記載相成度此段申進候也

一 招牌揭示料

何年月ヨリ何年月迄何驛何等待合所

長何尺寸分巾何尺寸分面積何平方尺何々

一 チエツキ紛失辨償金

局有又ハ何々會社所屬第何號

一 コツブ水瓶破損辨償金

局有又ハ何々會社所屬

一 客車窓硝子破損辨償金

局有又ハ何々會社所屬何等又ハ引戸、模樣付

一 定期乘車券紛失書換手数料

何年月ヨリ何年月迄何々驛間何等

大人又ハ小兒何年月新券交付

○旅客ニシテ瀝車備付品毀損シタルトキ辨償金即納ノ件(明治二十九年七月八日 鐵道局一般)

鐵道局一般

旅客ニシテ誤テ客車備付ノ水瓶コツブ客車及停車場待合所窓硝子停車場備品ヲ毀損シタル者アルトキハ辨償金トシテ即時左記ノ金額ヲ徵收スヘシ但實際辨償シ能ハサル者又ハ辨償セシムルニ忍ビサル事情アルモノニ對シテハ狀ヲ具シ運輸部長ノ指揮ヲ受クヘシ

明治三十三年七月十日
逕信省達
第一一號
ヲ以テ金額改正

- 一金二圓五十錢 局有並ニ日本、甲武、關西、奈良、川越、豐川、豆相、近江、南和、紀和、中越、北越、阪鶴、鐵道株式會社所屬客車窓硝子一枚ニ付
- 一金三圓 同上便所用模樣付窓硝子一枚ニ付
- 一金四圓五十錢 同上二等客車引戸硝子一枚ニ付
- 一金四圓五十錢 局有並ニ豐川、豆相、近江、南和、紀和、中越、北越、鐵道株式會社所屬三等客車引戸硝子一枚ニ付
- 一金四圓五十錢 但開戸硝子ハ窓硝子ニ同シ
- 一金三圓五十錢 山陽鐵道株式會社所屬一二等合造客車窓、化粧室、便所並ニホギ一客車中仕切模樣付硝子一枚ニ付(ホギ一車及小形車廢棄車共)
- 一金一圓五十錢 同上二等客車窓、便所硝子一枚ニ付(ホギ一車及小形車共)
- 一七拾錢 同上三等同上
- 一金四圓五十錢 同上ホギ一、二等客車引戸硝子一枚ニ付
- 一金貳圓 同上ホギ一三等客車引戸硝子(一枚入りノ内一枚破損ノトキ)
- 一金參圓五拾錢 同上ホギ一同上(一枚入り二枚共破損並ニ一枚入り破損ノトキ)
- 一金貳圓五拾錢 同上客車クツク室ホィイ室ノ硝子一枚ニ付
- 一金五十錢 播但鐵道株式會社所屬客車各種窓硝子一枚ニ付
- 一金貳圓二十錢 參宮鐵道株式會社同上
- 一金二圓 京都鐵道株式會社所屬一等客車窓硝子一枚ニ付

第一類 會計通則 第二章 特別會計

第一類 會計通則 第二章 特別會計

- 一金一圓五十錢 同上二等同上
- 一金一圓 同上三等同上
- 一金一圓五十錢 西成鐵道株式會社所屬一二等客車引戸硝子一枚ニ付
- 同上客車各種窓硝子一枚ニ付
- 河南鐵道株式會社所屬客車窓硝子大ノ分一枚ニ付
- 同上小ノ分一枚ニ付
- 尾西鐵道株式會社所屬一二等客車引戸硝子一枚ニ付
- 同上二等客車窓硝子一枚ニ付
- 同上三等同上
- 南海鐵道株式會社所屬一二等同上
- 同上三等同上
- 局有並ニ甲武、川越、關西、參宮、播但、奈良、豐川、豆相、近江、南和、紀和、中越、北越、山陽、日本、南海鐵道株式會社所屬客車備付水瓶一個ニ付
- 京都鐵道株式會社同上
- 局有並ニ甲武、川越、關西、參宮、播但、奈良、豐川、豆相、近江、南和、紀和、中越、北越、山陽、日本、南海、阪鶴鐵道株式會社所屬客車備付コップ一個ニ付
- 京都鐵道株式會社同上
- 阪鶴鐵道株式會社同上
- 南海鐵道株式會社同上大ノ分
- 同上小ノ分
- 局有並ニ甲武、川越、關西、參宮、播但、奈良、豐川、豆相、近江、南和、紀和、中越、北越、河南、鐵道株式會社所屬客車備付靴拭一枚ニ付
- 同上

- 一金八十五錢 山陽鐵道株式會社同上
- 一金五十錢 局有並ニ甲武、川越、關西、參宮、播但、奈良、豐川、豆相、近江、南和、紀和、中越、北越、河南、山陽、京都、西成鐵道株式會社所屬客車備付唾壺一個ニ付
- 一金三十五錢 日本鐵道株式會社同上
- 一金五圓 阪鶴鐵道株式會社同上
- 一金二圓 南海鐵道株式會社同上
- 一金二十錢 局有並ニ甲武、川越、關西、參宮、播但、奈良、豐川、豆相、近江、南和、紀和、中越、山陽、日本、京都、南海、鐵道株式會社所屬客車備付手拭一筋ニ付
- 一金四圓五十錢 局有並ニ甲武、川越、關西、參宮、播但、奈良、豐川、豆相、近江、南和、紀和、中越、日本、阪鶴、京都、西成、河南、南海、鐵道株式會社所屬客車屋根ランブ一個ニ付
- 一金四圓五十錢 關西鐵道株式會社瓦斯客車燈一個ニ付
- 一金三圓 尾西鐵道株式會社同上
- 一金七十錢 局有並ニ甲武、川越、參宮、播但、奈良、豐川、豆相、近江、南和、紀和、中越、北越、鐵道株式會社所屬電燈球一個ニ付
- 一金六十錢 局有並ニ甲武、川越、參宮、播但、奈良、豐川、豆相、近江、南和、紀和、中越、北越、山陽鐵道株式會社所屬電燈外火舎一個ニ付
- 一金七十錢 同上電燈ソケット(口金)一個ニ付
- 一金二圓 山陽鐵道株式會社所屬電燈ペンダント(取付臺)一個ニ付
- 一金二十五錢 同上客車屋根ランブ火舎一個ニ付
- 一金三十五錢 日本鐵道株式會社同上
- 一金三圓二十錢 同上湯タンポ一個ニ付
- 一金四圓 同上湯タンポ掛物一等ノ分一枚ニ付
- 一金一圓三十錢 同上二等ノ分一枚ニ付
- 一金二圓五十錢 同上茶器臺一個ニ付
- 一金一圓五十錢 同上藥罐一個ニ付

第一類 會計通則 第二章 特別會計

第一類 會計通則 第二章 特別會計

- 一金六錢五厘 同上急須一個ニ付
- 一金二錢六厘 同上石鹼一個ニ付
- 一金四十錢 停車場窓硝子一枚ニ付
- 一保管價額 同上備品
- 一金四圓五十錢 廢舊車窓硝子一枚ニ付(明治三十四年五月二十八日)
- 同上ニ關スル件 鐵道甲第二八八號

長官心得達 (明治三十三年九月二十七日、第七七號)

鐵道作業局一般

七尾鐵道株式會社所屬客車窓硝子其他ヲ旅客カ破損ノ場合ニ於ケル辨償金額ハ局有ノモノト同額ヲ徵收スヘシ
但取扱方ハ明治二十九年七月達第九號ニ依リ來十月一日ヨリ施行ス

○仕拂要求書中記載區間ノ件(明治三十一年五月二十三日 鐵計乙第一〇九九號(計理部長達))

諸拂戻金ニ對スル仕拂要求書中ニ記載スヘキ區間ハ從來當初切符ヲ發行セシ驛ノ屬スル區間ヲ記載致來候處右ニテハ整理
上錯雜ノ嫌有之候ニ付爾今拂戻スヘキ驛ノ屬スル區間ヲ記載スヘキ事ニ決定致候條此旨及通達候也

○仕拂要求書番號ニ冠記スヘキ記號ノ件(明治三十三年六月十五日 鐵計購發第七〇二號ノ一(計理部長ヨリ各出納
事務所主任ヘ通達))

出納事務所發行仕拂要求書ハ事務整理上必要ニ付左ノ記號ヲ要求書番號ニ冠記スヘシ

建設費仕拂要求書記號	設
作業費 全	上
改良費 全	上
用品費 全	上

○鐵道作業局歲入歲出納規程ニ依ル一般歲入ノ過誤納金拂戻ヲ要求スル書式

明治二十七年四月十八日 鐵道局長達

官房財務課長ヨリ別紙財第一二九二號寫ノ通牒有之候條鐵道作業局歲入歲出納規程ニ依リ一般歲入ノ過誤納金拂戻ヲ
要求スルトキハ別紙書式ニ準據候儀ト御心得可有之此段及通達候也

(別紙)

財第二一九二號

本年度以降歲入過誤納金拂戻方上請相成候節書式別紙ノ通り可有之依命此段及御通牒候也

(別紙書式)

諸拂戻金仕拂要求書

明治何年度歲入 明治何年何月何日收入済

何々(款) 何々(項) 何々(目)

一金何圓也

但何々(歲入ノ目的)何々(事由及計算ノ基)所ヲ詳記スヘシニ由リ過(誤)納ノ分但別紙正當債主(又ハ代理人)ノ
拂戻請求書何葉添付ス

右稟請候也

明治 年 月 日

遞信大臣宛

何局長氏名印

備考

要求金額二厘以上ノトキハ合計金額ヲ掲クヘシ

第一類 會計通則 第二章 特別會計

第一類 會計通則 第二章 特別會計

四〇四

正當債主事故アリテ請求又ハ拂戻金受取方代理人ヲ以テスルトキハ各々其委任狀寫ノ添付ヲ要ス
 正當債主死亡ニ方リテハ其相續人（相續人未丁年者ナルトキハ後見人）ノ請求書ニ戸籍取扱上責任アル者
 （郡、區、市、町、村長等）ノ證明書ヲ添付スヘシ

○納品代價仕拂請求書及仕譯書々式明治二十七年五月十八日（計理部長ヨリ青森、福島、
 敦賀各派出所宛照會）

本年三月中局長達第二七二號第十一條第十二條ニ該當スヘキ仕拂請求ニシテ同第十四條ニ據ルヘキ場合アルトキハ請求
 書差出方概ネ別紙第一號書式ニ準シ尙同條第二號ニ明記セル仕譯書ノ外第二號書式ノ仕譯書納品證ト共ニ御提出有之度此
 段及御照會候也

第一號式甲

明治三十一年四月十日
 鐵計乙第九號
 定以テ改

請求書	明治何年何月何日契約第何號
受負高金何圓	第何回納品代五分ノ四以内今回請求高
一金何圓也	
此實價金何圓	
此請求殘金何圓	
外	
金何圓	前回迄請求濟高
金何圓	前回迄納品代請求殘高
金何圓	未納品代

右實價ノ内譯左ノ如シ（數品ナルトキハ此内譯ヲ掲ケ前記
 第何回納品ノ下何程及但書ヲ略ス）

品名	員數	單價	價金	員數

第一號式乙

受負金高何圓					今回納品代金及前回迄納品代殘金請求書	明治何年何月何日契約第何號
一金何圓						請求總額
內譯						
金何圓					第何回何々納品代但何程ニ付	
金何圓					前回迄納品代請求殘	
外						
金何圓					前回迄納品代請求高	
金何圓						
金何圓						
右實價ノ内譯左ノ通						
品名	員數	單價	代價	總價		

第二號書式甲

第何回何々納品代仕譯書										

所ヨリ隔遠ノ地ニ在ルモノヨリ代金支拂ノ請求ヲ爲スモノ往々有之從テ要求書作製ノ場所契約書ノ保管場所及既納分調書ノ送届場所等ニモ種々異動ヲ生スヘキニ付今後ハ命令官拂ト前渡官拂トニ係ラス債權者ノ請求ニ依リ債權者ノ尤モ便宜トスル場所ニ於テ支拂要求書ヲ作製スルヲ取計可然哉

追テ右御決裁ノ上ハ現在契約濟ノ分并ニ今後契約スヘキ分ニ對シテハ契約書第八條ノ届書ト共ニ竄込入ヨリ代金請求場所ヲ併セテ届出テシムルヲ取計見込ニ有之候

○工事番號ノ件 明治三十二年七月七日 (計理部長ヨリ工務部長、汽車部長)
鐵計出發第二〇九號ノ一 (福島、青森兩出張所長へ通牒)

今般達第四四號ヲ以テ達相成候歳入歳出納必要書類中仕拂要求書及附屬請求書又ハ仕譯書ニ附記可相成工事番號ハ物品代ノ仕拂要求書及附屬書ニモ附記スヘキ旨ニ付右番號ハ最初該工事設計相成候際之ヲ附シ該工事ニ要スル物品ノ請求券ニモ附記相成度此段及御通牒候也

追テ右番號ハ主管部所名及歳出科目ノ目名ノ頭字并ニ年度ノ區別ニ依リ十二支ヲ記號トシテ附記相成度此段申添候也

○鐵道作業局歳入歳出々納必要書類ニ依リ調製スヘキ書式 明治三十三年五月一日
(計理部長ヨリ各部所長) 及出納官吏へ通牒

當局歳入歳出々納必要書類ニ依リ調製スヘキ各目金額仕譯書及工事番號内譯書々式左記ノ通り改正増補候條右様御承知相成度此段及通牒候也

追テ御部内各仕拂要求官へハ貴部ヨリ本件御通牒相成度此段申添候也

甲號書式 (第一目)

(「内」ハ朱書)

高金 何程	各目金額仕譯書
-------	---------

一金 何程

(目) 何々費

内 譯	工 事 番 號		名 稱	數 量 (人 員)	單 價 (賃 格)	金 額
	何 號	何 號				
何	號	何	々	何		、
何	號	何	々	何		、
外						
金 何 程						(目) 何々費
右ノ通						
年 月 日						
(仕拂要求者) 官 氏 名 印						

乙號書式 (第二目以下)

高金 何程	各目金額仕譯書
一金 何程	(目) 何々費
但關係書類ハ(目)何々費ニ添付ス	
内 譯	

第一類 會計通則 第二章 特別會計

工事番號	名	稱	數量(人員)	單價(價格)	金	額
何	號	何	々	何	程	、 、 、 、
何	號	何	々	何	程	、 、 、 、
右ノ通						、 、 、 、

(仕拂要求者) 官 氏 名 印

丙號書式 (第一目)

各目金額仕譯書

高金 何程						
一金 何程	(款)何々費(項)何々費(目)何々費					
内譯						
工事番號	名	稱	數量(人員)	單價(價格)	金	額
何	號	何	々	何	程	、 、 、 、
何	號	何	々	何	程	、 、 、 、
外						
金 何程	(目) 何々 費					
金 何程	(款)何々費(項)何々費(目)何々費					

丁號書式 (第二目以下)

各目金額仕譯書

右ノ通		
年月日	(仕拂要求者) 官 氏 名 印	
(第二目以下)		
各目金額仕譯書		
高金 何程		
一金 何程	(目) 何々 費	
但關係書類ノ(款)何々費(項)何々費(目)何々費ニ添付ス		
右ノ通		
年月日	(仕拂要求者) 官 氏 名 印	

戊號書式

工事番號内譯書

高金 何程		
工事番號内譯書		

第一類 會計通則 第三章 特別會計

備考

- 一 作業費支辨一廉ノ費額千圓以上ノ直營工事ニ關スル經費ノ支拂ニ添付スル各目金額仕譯書及工事番號内譯書ハ左ノ各項ニ依リ調製添付スベシ
 - 一 請求書ニシテ全項中二目以上ニ涉リ各工事番號ノ附記ヲ要シ且ツ全部ノ仕拂ナルトキハ第一目ニ對シテハ甲號式第二目以下ニ對シテハ乙號式ニ準シ又ニ款若シクハ二項以上ニ涉リ尚二目以上ニ分ル、トキハ丙丁號式ニ準シ各目金額仕譯書ヲ調製シ丙號式ノ分ハ第一款若シクハ第一項第一目ニ丁號式ノ分ハ第二款若シクハ第二項第二目以下ニ之レヲ添付スベシ
 - 一 請求書ニシテ二目以上ニ涉リ第一目ノ一方ニミ工事番號ヲ付スヘキモノアルトキハ他ノ一方ノ各目仕譯書ニハ内譯ヲ要セス又一目ノ一部ニ之ヲ附スヘキモノアルトキハ部分拂ノモノナルトキハ其目ノ内譯ヲ附セスシテ戊號式ニ準シ工事番號内譯書ヲ添付シ最終ノ場合ニ於テ前回迄ノ請求殘金ヲ仕拂フトキニ限り戊號式ノ外尙已號式ノ工事番號内譯書ヲ添付スベシ
 - 一 請求書全目ニシテ工事番號二號以上ニ涉リ又ハ一部ニ之レヲ附セサルモノアルトキハ單ニ戊號式ノ工事番號内譯書ヲ添付シ部分拂ノモノニ對シテ最終ノ場合ニ於テ前回迄ノ請求殘金ヲ仕拂フトキニ限り戊號式ノ外尙已號式ノ内譯書ヲ添付スベシ
 - 一 高金ハ各目金額仕譯書ニ於テハ請求書ノ金額工事番號内譯書ニ於テハ戊號式ノ分ハ今回使役濟ノ賃金若シクハ納品濟ノ實價已號式ノ分ハ前回迄ノ仕拂殘額ヲ記載スベシ
 - 一 外金ハ工事番號ヲ附セサルモノアルトキニ限り其金額又工事番號ノ欄ハ番號毎ニ各計ヲ何レモ未記スヘシ
 - 一 數量又ハ人員單價又ハ價格ノ欄ハ材料ニ對シテハ數量、單價トシ工費ニ對シテハ人員、賃

格トシ右其員數金額ヲ記載スヘシ
 金額ノ欄ハ今回使役濟ノ賃金若シクハ納品濟ノ實價ヲ名稱毎ニ又前回仕拂殘高ハ工事番號毎ニ各之ヲ記載スヘシ

- 二 鐵道建設費、官設既成鐵道改良費、官設鐵道用品費、淀川新流架橋費及一廉ノ費額千圓以上ノ直營工事ニ關スル經費ヲ除ク他ノ作業費等ノ仕拂ニ要スル各目金額仕譯書ハ甲號乃至丁號書式中内譯ヲ除キ他ハ總テ之レニ準シ調製スヘシ

○直營工事費仕拂書ニ關スル件

計理部長ヨリ各主任仕拂官吏へ通牒 (明治三十三年五月十七日 鐵計出發第三二二號ノ二)
 當局歳入歳出納必要書類ニ依リ調製スヘキ各目金額仕譯書及工事番號内譯書々式改定致候ニ付テハ客年七月鐵計出發第二一〇號ノ一ヲ以テ及通牒候作業費支辨一廉千圓以上直營工事費仕拂書ニハ工事番號ノ區別ニ依リテ之ヲ掲ケ該金額中ニ五分ノ一以上ノ金額含有スルトキハ其旨備考ニ記載相成度隨テ改正已號書式工事番號内譯書ノ分(即チ前回支拂殘高)ハ掲載ヲ要セス候間右様御承知相成度此段及通牒候也

(參看)

計理部長ヨリ各主任仕拂官吏へ通牒 (明治三十二年七月七日 鐵計出發第二一〇號ノ一)
 先般仕拂證明規程改正相成候處尙今般當局歳入歳出納必要書類中改正相成候ニ付テハ仕拂證明上別紙ノ通御了承相成度此段及御通牒候也

(別紙)

- 一 受貨工事又ハ物品購買ニ關スル契約書類ハ證書ト各別ニ編纂スヘシ
- 一 證書中二目以上ノ仕拂科目ニ跨ルモノハ歳入歳出納必要書類ニ依リ仕拂要求者ニ於テ調製スル各目金額仕譯書ヲ相當ノ部ニ編入整理シ且第二目以下ノ仕譯書ニハ本證書ノ所在ヲ明記スヘシ
- 一 各目證書中廳中用品雇員給備人料諸職工給料賄料旅費材料費等ノ如キモノハ類集編纂スヘシ

- 一 旅費概算簿ニ對スル精算證書ハ其概算簿ヲ爲シタル月ヲ以テ區分編纂スヘシ
- 一 證明規程第十二條ノ書類ハ總テ仕拂命令官ヨリ提出スルニ依リ仕拂官吏ヨリ提出ヲ要セス
- 一 證明規程第十六條ノ保證書ハ歳入測定官ヨリ交付シタルモノヲ提出スヘシ
- 一 歳入歳出納必要書類契約書ハ別ニ之ヲ保存シ證明ニ提出ヲ要セス
- 一 工事番記號ノ記載アル仕拂要求書ニ依リ仕拂ヲ爲シタルトキハ別紙様式ニ準據シ毎月報告書ヲ作り仕拂計算書ニ添付シ仕拂命令官ニ提出スヘシ
- 但仕拂ノアラサル月ハ其旨報告スヘシ
- 一 延納處分ニ關スル書類ノ提出ヲ受ケタルトキハ從前ノ通明治二十九年八月鐵計乙第一、五六五號通牒乙號書式ニ準シ代價仕拂後延納處分報告書ヲ調製シ會計検査院ニ提出スヘシ

○仕拂元受金組換ノ件 明治二十七年二月十六日(鐵道局長ヨリ大藏省主計局ヘ照會再度往復)

客年十二月二日乾第五二六二號ヲ以テ作業費仕拂元受金組換方ノ義ニ付貴省大臣ヨリ當省ヘ御照會ノ趣モ有之候ニ付仕拂命令官ハ收入官吏ヨリ毎日金庫ノ歳入金收入濟額ヲ報告セシメ又收入官吏ヨリ拂込タル分仕拂元受金整理可致義ニ候處金庫ハ其後同月十一日貴省訓令第五十三號作業及鐵道會計金庫出納事務規程第二條ニ依リ各地本金庫ニ於テ領收シタル分ハ每五十ノ日ニ中央金庫ノ仕拂元受金ヘ組換トシテ拂出シ中央金庫ハ其報告ニ依リ右元受ニ組換相成候ニ付中央金庫ノ組換額ト仕拂命令官ノ元受額トハ毎月自然符合不致月計對照上差支候ニ付自今中央金庫ニ於テ元受ニ組換候分ハ其時々組換濟報告書ヲ仕拂命令官ニ送附相成候様致度此段及御照會候也

大藏省主計局長回答 (明治二十七年二月二十一日)

右御照會鐵道歳入仕拂元受ニ組換濟報告方ノ件ハ金庫トノ月計對照上必要トノ義ニ付別紙寫ノ通金庫ヘ照會致置候此段及御回答候也

(別紙)

靜岡外七金庫ニ收入シタル鐵道歳入金申毎月末日迄ニ中央金庫ニ於テ仕拂元受金ニ受入レタル員額ハ靜岡外七金庫ニ於ケル何日分迄ノ鐵道歳入ナルコトヲ翌月五日迄ニ當該仕拂命令官ヘ通知相成候様御取計相成度此段及御照會候也 明治二十七年二月二十一日大藏省主計局長ヨリ金庫出納役宛

○仕拂元受金組換ノ件 明治二十七年四月廿日(鐵道局長照會)

鐵道歳出仕拂元受金組換濟金庫ヨリ報告方ノ儀ニ付本年二月中鐵第一六四號ヲ以テ及御照會候處右ハ翌月五日迄ニ金庫ヨリ報告可致様金庫ヘ御通達濟ノ旨當時御回答ノ趣モ有之候ニ付右ニ依リ二月分對照致候處金庫ハ月計對照表ニ附箋ノ上夫々報告相成候得共何分符合不致畢竟金庫ト仕拂命令官トハ常ニ各別ノ書類ニ依リ元受ノ記帳ヲ爲シ且其期限モ一定不致候ニ付互ニ帳簿上ノ結果ヲ異ニスル儀ト被存候間本年度ヨリ中央金庫ニ於テ元受組換濟ノ節ハ其時々該金額及收入月ハ金庫名等ヲ仕拂命令官ニ報告相成候方又ハ中央金庫領收ノ分ハ其月末日迄各地金庫領收ノ分ハ其月二十五日迄ノ分ヲ必ス其月ノ元受ニ組換可相成事ニ一定相成候様致度此段及御照會候也

大藏省主計局長回答 (明治二十七年四月十八日)

右ハ御申越ノ如ク仕拂元受ニ組換ノ都度金庫ヨリ報告セシムルハ徒ニ手數ヲ要シ差支有之又毎月何日迄ノ歳入金ニ限リ其月ノ支拂元受ニ組換フヘキモノト一定スルモ郵便遲着等ノ事故アル爲メ實際行ハレ難キ場合モ有之却テ行違ノ原因トモ可相成ニ付更ニ別紙寫ノ通金庫ヘ照會致置候同貴局ニ於テモ各主任收入官吏ヨリ現金拂込ヲナシタル日附ト金額トヲ通知セシメラレ對照相成候様御取計有之度此段及御回答候也

(別紙)

本年二月二十一日付地第七四一號ヲ以テ中央金庫ニ於テ支拂元受ニ組換タル靜岡外七金庫鐵道歳入金收入日通知方ニ付及御照會置候處右ハ靜岡外七金庫ヨリ送附スル毎月二十五日ノ鐵道歳入金收支報告表ニ限リ該表中掲載セル鐵道歳入金拂込ニ際シ金庫ヨリ收入官吏ニ交附シタル各領收證書ノ金額及日附(日附ノ同一ナルトキハ數)附箋セシメ中央金庫ハ該附箋ニ依リ其月末日迄ニ仕拂元受ニ組換タル員額ハ靜岡外七金庫ニ於テハ何日分迄ノ鐵道歳入金ナルコトヲ當該仕拂

第一類 會計通則 第二章 特別會計

四二〇

命令官ニ通知相成候様御取計相成度此段重テ及御照會候也
 明治二十七年四月十八日

金庫出納役
 日本銀行總裁川田小一郎殿

大藏省主計局長 松尾 臣 善 印

○工務部長發行徵收要求書ニ對スル納入告知書收入濟通知ノ件(明治三十一年四月二十九日鐵計乙第九〇號)

九〇(計理部長通牒静岡、名古屋、神戸、福井、金澤、長野、主任收入官吏宛)

工務部長徵收要求書ニ對スル納入告知書之内要求第何號收入濟通知ヲ要ストアル下ニ何事務所所管ト記載アル分ハ別紙書式ニ準シ以來當該事務所ヘ直ニ通知書御送附相成度此段及御通達候也

第 號 收入濟報告		徵收要求書 金 員			納付者氏名		收入濟月日		事		由		
番		號		員		氏名		月日		事		由	
右報告候也													
明治 年 月 日													
新橋計理部主任收入官吏													
官 氏 名 印													

工務部長 宛

參看

工務部長照會 (明治三十一年四月二十六日 鐵工第九五一號)

不用物品(石炭焚殼雜草屎尿其他)拂下代金ハ從來其收入濟ノ儀ヲ各所收入官吏ヨリ小官宛通知致シ來リ右ニ基キ關係保線事務所ヘ通達シ現品爲引取居候處有ニテハ日子ヲ要シ拂受人ニ於テ迷惑ノ場合モ可有之ニ付以後ハ收入官吏ヨリ(小官宛ニシテ)關係保線事務所ヘ直ニ送附相成候様夫々御通達相成度此段及御照會候也

計理部長回答 (明治三十一年四月二十九日 鐵計第九〇四號)

鐵工第九五一號ヲ以テ收入濟通知書之儀收入官吏ヨリ直ニ關係事務所ヘ送附方之儀御照會了承夫々通達可致付テハ以來右ニ係ル徵收要求書ヘ關係事務所御記載相成度此段御答旁中進候也

○鐵道作業局歳入歳出外現金取扱規定(明治三十五年九月六日 達第五號)

鐵道作業局 一般

鐵道作業局歳入歳出外現金取扱規程

第一條 歳入歳出外現金ノ領收ヲ要スルトキハ主管部課所長ハ第一號書式ノ入札保證金納付書ヲ當該出納官吏ニ送附スヘシ

第二條 歳入歳出外現金出納官吏前條ノ入札保證金納付書ヲ受ケタルトキハ現金ト對照シ第二號書式甲ノ領收證書ヲ交附シ出納簿ノ受ニ記帳スヘシ

第三條 前條ノ規定ニヨリ領收シタル現金ノ拂戻ヲ要スルトキハ主管部課所長ハ第二號書式甲中適宜ノ箇處ニ(拂戻ヲ要ス)ノ印ヲ捺捺シ受入ト同様檢印ノ上當該出納官吏ニ送附スヘシ

第四條 歳入歳出外現金出納官吏前條第二號書式甲ヲ受ケタルトキハ第二號書式乙ニ記名調印セシメ現金ヲ拂戻シ同時ニ

第一類 會計通則 第二章 特別會計

四二一

明治三十一年四月十日
 鐵道作業局
 第三號書式
 及第一號書式
 正

出納簿ノ拂ニ記帳スヘシ

第五條 入札保證金ニシテ數日內ニ拂戻ノ見込ナキモノ若クハ契約締結ナサズ沒收處分トナルヘキモノハ主管部課所長ハ直ニ當該出納官吏ニ其旨通知スヘシ

第六條 歳入歳出外現金出納官吏前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其拂戻又ハ沒收處分結了迄第四號書式ノ送附書ヲ製シ之ヲ現金ニ添ヘ金庫ニ送附シ同時ニ其金額ヲ出納簿ノ拂ニ記帳スヘシ

第七條 第五條ニ規定セル數日內ニ拂戻ノ見込ナキモノニシテ他日權利者ニ拂戻ヲ要スルトキハ主管部課所長ハ其拂渡ヲナスヘキ適宜ノ證明書ヲ權利者ニ交付スヘシ

權利者ニ於テ前項ノ證明書ヲ當該出納官吏ニ提出シ拂戻ヲ請フトキハ出納官吏ハ該證明書ニ依リ第五號書式ノ拂渡證書ヲ製シ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

第八條 沒收處分ニ依リ作業及用品資金歳入ニ編入スヘキモノハ主管部課所長ニ於テ徵收要求書ヲ發行シ其一般歳入ニ編入スヘキモノハ其旨歳入歳出外現金出納官吏ニ通知スヘシ

歳入歳出外現金出納官吏前項ニ依リ納入告知書ヲ受ケタルトキハ第五號書式ノ拂渡證書ヲ添ヘ收入官吏ニ交付シ收入官吏ハ之ヲ金庫ニ拂込ノ手續ヲナシ又前項通知書ヲ受ケタルトキハ當該出納官吏ニ於テ直ニ其歳入ニ編入ヲ要スル旨ヲ金庫ニ通知スヘシ

第一號書式

<p>受入ヲ要ス</p> <p>入札保證金納付書</p> <p>一金「何圓也」</p> <p>但「何」年「何」月「何」日入札執行「何々」品入札保證金</p> <p>右入札人心得書承諾ノ上納付候也</p> <p>明治「何」年「何」月「何」日</p> <p>鐵道作業局</p> <p>歳入歳出外現金出納官吏</p> <p>鐵道書記「何々誰殿」</p>	<p>部課所長ノ印</p> <p>入札取扱者ノ印</p> <p>「住所」</p> <p>入札人 「何」々 誰</p>
---	--

備考

- 一 「内」ノ文字ハ渾テ入札人ニ於テ記入スヘシ
- 一 入札人ニ於テ記入調印ノ上入札取扱者ニ提出シタルトキハ式ノ如ク受入ノ印ヲ捺捺シ部課所長及入札取扱者檢印シ直ニ出納官吏ニ送付スヘシ

第一類 會計通則 第二章 特別會計
第二號書式甲

第 號	納 人	一金
		但
明治 年 月 日 領收		

此證書與買賣又或入質入ス得ス

乙

第 號	納 人	一金
		但 右領收候也
年 月 日		
鐵道作業局 歳入歳出外現金出納官吏 官 氏 名 宛		
前書金額御下戻相成正ニ領收候也		
年 月 日		
鐵道作業局 歳入歳出外現金出納官吏 官 氏 名 宛		

第一類 會計通則 第二章 特別會計

送附書

一金

保管スヘキ法律規則ノ條項(明治二十二年四月勅令第六十號)第六十九號

保管ノ事由(入札保證金ニシテ數日內ニ仕拂見込ナキモノ)

權利者ノ氏名

期滿失効ノ年月日(未定處分ノ決定ヲ待テ金庫ニ通知スヘシ)

右保管ノ爲メ及御送附候也

何々出納事務所(附印)

歳入歳出外現金出納官吏

官 氏 名 印

年 月 日

何地金庫宛

明治三十
五年十二
月達第五
號ヲ以テ
改正

領收證書番號

拂渡證書 領收證書ノ年月日領收證書ニ記載アル期滿失効ノ年月日

一金

權利者何々誰殿

前書之金額本證書引換ニ拂渡スコトヲ要ス

何々出納事務所(附印)

歳入歳出外現金出納官吏

官 吏 名 印

年 月 日

何地金庫宛

○本規程第八條ノ手續ニ關スル件明治三十六年三月十四日 鐵計出發第一號ノ三建設、工務兩部長へ通牒

當局歳入歳出外現金取扱規程第八條ノ手續ニ關シ大藏省ト協議ノ結果作業歳入及用品資金歳入ニ屬スルモノハ出納官吏ニ於テ納入告知書ヲ受ケ之ニ拂渡證書ヲ添ヘ收入官吏ニ交付シ該官吏ハ之ヲ金庫ヘ拂込ノ手續ヲナシ一般歳入ニ屬スルモノハ納入告知書ヲ省略シ單ニ部課所長ノ通知ニ依リ直ニ其歳入ヘ編入ヲ要スル旨金庫ヘ通知セシムル事ニ相成候條此段及御通牒候也

神戸出納事務所長伺 (明治三十五年十二月二十六日 神出第三七〇二號)

入札保證金ニシテ數日內ニ拂戻シノ見込ナキモノ有之ヲ以テ本年九月達第五號當局歳入歳出外現金取扱規程第五條ニ依リ取扱ヲ爲シタルモノニ對シ第八條ニ依リ納入告知書(金庫へ納付スル分)ノ送付ヲ受ケタル場合ニハ歳入ヘ編入ノ旨ヲ金庫ニ通知シ納入告知書ニ該規程中第五號式ノ拂渡證書ヲ作製添付スヘキ様被存候處第五號式ノ拂渡證書ヲ作製候上ハ假令現金ノ受授ヲナサザルモ歳入歳出外出納官吏ハ一旦受入ノ記帳ヲ爲スヘキ義ニ候哉果シテ然リトセハ受入ニ對スル證明書ハ如何ナル書類ヲ以テ證明可然歟

計理部長指令 (明治三十六年一月九日 鐵計出發第一號ノ一)

第八條ニ依リ歳入ヘ納付スヘキ場合ハ右通知書ニ該納入告知書ヲ添付金庫ニ送付シ別ニ第五號書式ノ拂渡證書ノ作成ヲ要セス隨テ受入ノ記帳ヲナサス

○納入告知書ニ納入住所記載ノ件明治二十七年七月九日 (計理課長通牒各主任收入官) 鐵計第二六六五號 東宛新橋、福島、青森ヲ除ク

納入告知書ニハ納入住所ヲ記入スヘキ筈ニ有之候處官舎宿代、各驛倉庫ノ貸下又ハ出店營業、下掃除等ノ如キ毎月定期收入トナルヘキモノハ當初徴收ノ月ノ住所ヲ記入シ翌月分ヨリハ便宜上右肩書ヲ省略シテ發行可相成候條此段豫テ及御通牒候也

○出納事務所徴收要求手續明治三十四年六月十七日 鐵計購發第一二八三號ノ一

- 第一條 徴收要求書ヲ發行スル場合ニ於ケル書類ノ整理方ハ別ニ規定ノアルモノハ本手續ニ依ルヘシ
- 第二條 入札保證金及契約保證金ノ徴收ニ係ルモノハ別紙第一號様式ニ依リ仕譯書ヲ調製スヘシ
- 第三條 延滞償金ノ徴收ニ係ルモノハ別紙第二號様式ニ依リ仕譯書ヲ調製スヘシ
- 第四條 過誤拂金ノ徴收ニハ別紙第三號様式ニ依リ仕譯書ヲ調製スヘシ
- 第五條 徴收金ノ收入濟チ了知スルノ必要アルトキハ徴收要求書面ニ其旨(收入濟通)ヲ記載スヘシ
- 第六條 一ノ會計ヨリ他ノ會計ニ收入スヘキ場合ニ於テ徴收要求書ニ掲クヘキ納入ハ仕拂命令官トスヘシ
- 第七條 入札保證金沒收トナリタル場合ニ於テ徴收要求書ニ掲クヘキ納入ハ當該出納官吏トスヘシ
- 第八條 契約保證金ノ沒收トナリタル場合ニ於テ徴收要求書ニ掲クヘキ納入ハ該保管證書ノ保管者タル部長又ハ出納事務所長トナスヘシ

但有價證券ヲ差入レタル場合ニ於テ別ニ現金ニテ納付セントスルモノアルトキハ其本人ヲ以テ納入ト爲スコトヲ得

第九條 入札保證金及契約保證金沒收トナリタル場合ニ於テ該保證金有價證券ナルトキハ現金ト引換ノ手續ヲ了シタル後徴收要求書ヲ發行スヘシ若シ其本人ニ於テ引換ヲ爲サ、ルトキハ其旨ヲ稟申スヘシ

第壹號様式

徴收金仕譯書

納入

一金

但 役所屬

右ハ明三〇年 月 日契約(入札)契第 號 賣込人

ヨリ 年 月 日該契約ノ 部解除(契約ノ締結ヲ辭スル旨)之義願出ニ對シ

第一類 會計通則 第二章 特別會計

明治 年 月 日 契約第 號

延滞價金徴
費 所

第一類 會計通則 第三章 特別會計

品 名	延滞 員 數	單 價	代 價	契約 期限	納入 月日
	上	記 之 通	候 也		
		明 治	年 月 日		

四三〇

收仕譯書

第二號様式

納人

屬

延 代 價	延滞 日數	價 金 額	記 事
出 納			事務所長 印

第一類 會計通則 第三章 特別會計
月 日 聽許契約(入札)保證金ノ 部沒收處分濟ニ付徴收ヲ要ス
右之通
明治三十年 月 日
(備考)
朱書ハ入札保證金ノ場合ニ適用ス

出納事務所長 氏 名 印

四三〇

第一類 會計通則 第二章 特別會計

仕 譯 書

四三二

一金

仕 拂 年 度

仕 拂 要 求 書 番 號、發 行 年 月 日

仕 拂 科 目 款 項 日

仕 拂 官 吏 官 氏 名

仕 拂 濟 年 月 日

右ハ何々(事由ハ計算ノ基ク處ヲ詳記スヘシ)仕拂タルハ誤リニ付差引前記金額返納ヲ要ス
右之通

年 月 日

出納事務所長 氏 名 印

納 人 住 所 氏 名

○歳入歳出外現金領收及下戻ノ際授受證書様式
明治三十四年七月八日(現金出納官)
鐵計出發第七〇三號ノ一(吏へ通達)
歳入歳出現金ノ領收及下戻ノ際授受スヘキ證書ハ自今別紙様式ノ通改定候條此段及通達候也

第	號
者 付 納	

一金

但

明 治 三 十 年 月 日 領 收

此證書ハ買賣讓與ノ書ハ實入スルヲ得ス

第 號	納 付 者	一金
		但
		右領收候也
		明治三十年 月 日
		鐵道作業局 歲入歲出外現金出納官吏 鐵道書記
		前書金額御下戻相成正ニ領收候也

明治三十年 月 日

住 所

氏 名

鐵道作業局

歲入歲出外現金出納官吏

鐵道書記

○收入計算書及歲入歲出外現金出納計算書ニ關スル件

明治三十四年四月十日(遞信大) 會第四八九號

鐵道作業局

收入計算書及歲入歲出外現金出納計算書ハ自今下検査官ヨリ直ニ會計検査院ニ送付スヘシ

○計算書保證書調製ノ件

明治三十五年五月五日 鐵計庶發第七四五號ノ一

收入計算書及歲入歲出外納計算書ノ保證書ハ客歲十二月鐵計庶發第一六九二號ノ一ニ據リ調成可有之此段通達候也

鐵計庶發第一六九二號ノ一(明治三十四年十二月二十六日)

自今仕拂計算書ニ添付セル保證書ハ所長ニ於テ調製提出可有之此旨通達候也

追而他ノ出納事務所長兼務ノ爲メ又ハ詰所出納官吏ノ分ニシテ所長ニ於テ作成難相成モノハ其地在勤出納官吏ノ次席者(出納事務ヲ取扱フ者)ニ於テ調製候様通達可有之候也

○官設鐵道特別會計收入合計表其他番號記入ノ件 明治二十六年三月二日(大藏省主計局 長ヨリ鐵道事務官へ) 照會

官設鐵道特別會計收入合計表、收入報告書、支出合計表、支出報告書並ニ測定總計額報告書、測定額報告書ノ儀二十六年度分ヨリ其上段欄外右側へ送附ノ順ヲ追ヒ番號記入ノ種類毎ニ區別シ候様致度此段及御照會候也

○運輸收入中目以上更正ヲ爲スニ際シ金庫領收濟通知ニ添附スル説明書ノ

件 明治二十七年八月十七日(計理課長通牒各主任收入官) 鐵計第三一六四號 (吏宛新橋、福島、青森ヲ除ク)

本年六月二十八日附鐵計第二五三〇號追書ヲ以テ運輸收入ノ中目以上ノ更正ヲ爲スニ當リ金庫領收濟通知書ニ添附スヘキ説明書例及御照會其後右説明書御提出ニ相成候得共書檢尙區々ニ相涉リ候ニ付可成一定ニ相成候様致シ度候間右書例ノ説明左ニ重ネテ申進候也

例ハ五月三十一日拂込客車收入金高壹千圓ニシテ此内ヨリ金壹圓ヲ貨車收入ヘ又金壹圓ヲ雜入ニ更正スル場合ニ於テ右説明書例ニ依レハ

客車收入ニ於テハ第一ニ最前拂込ノ客車收入高即チ金壹千圓ヲ明治二十七年五月三十一日拂込客車收入高トシテ朱書シ第二ニ此内ヨリ貨車收入及雜入ニ更正スル所ノ金貳圓ヲ引キ去リタル殘額即チ九百九十八圓ヲ客車收入訂正高トシテ墨書ス貨車收入ニ於テハ第一ニ最前拂込ノ貨車收入高ヲ朱記シ(若シ該日貨車收入金ナキトキハ此限リニアラス)第二ニ此金高ニ客車收入高ノ内ヨリ貨車收入ニ更正スル所ノ金壹圓ヲ加算シタル金高ヲ貨車收入訂正高トシテ墨書ス 雜入ニ於テハ該日最前拂込金アルトキハ貨車收入ノ場合ト同趣ノ書式ヲ用ヒ若シ當日ノ收入金ナキトキハ客車收入金ノ内ヨリ更正スル所ノ金壹圓ヲ直ニ雜入訂正高トシテ墨書ス 以上三目ノ説明書ハ各目別紙ニ記載相成度旨趣ニ有之候

○前渡金請求ノ際科目更正方ノ件 明治三十三年五月四日 長官達第三一號

鐵道作業局一般

甲目ニ對シ前渡金ヲ請求スルニ方リ乙目ニ於テ若シ其月内ニ仕拂ヲ要セサルヘキ金額ヲ存スルトキハ成ルヘク該乙目ヨリ甲目ニ科目更正ヲ請求スヘシ

但甲ノ仕拂要求者ニ於テ前渡金ヲ請求スルニ當リ乙ノ仕拂要求者ノ請求ニ係ル前渡金中同目ノ分ニ於テ若シ餘裕アルトキハ甲乙要求者連署シテ乙請求ノ前渡金中ヨリ甲請求ノ前渡金ニ振換方ヲ當該仕拂官吏ニ通知シ同時ニ其旨ヲ仕拂命令官ニ届出ツルコトヲ得 前項ノ通知ヲ受タル仕拂官吏ハ要求者區別受拂簿ニ其振換ヲ記入シ尙受拂對照表ノ備考ニ其旨ヲ附記スヘシ

○横須賀、武豊、敦賀線ヲ東京神戸ノ區間トシ鐵道歲入報告書調製ノ件 明治二十七年五月十一日鐵計第(計理課長通牒主任收入官) 一八五八號 (吏宛福島、青森ヲ除ク)

大船横須賀間大府武豊間及米原敦賀間ハ從來各一ノ事業區間トシテ收入取扱來候處自今總テ東京神戸間ニ編入シ鐵道歲入報告書調製相成儀ト御承知有之度此段申進候也

○歲入金納入金庫指定ノ件 明治三十四年四月十日 公達第二九五號

遞信部内一般

爾今歲入金ハ金庫出納區域ニ關セス歲入徵收官ニ於テ適宜納入金庫ヲ指定スルコトヲ得

○同上ニ關スル件 明治三十四年五月十七日大藏省主計局長ヨリ本省會計課長ヘ宛通知

自今歲入金ハ金庫出納區域ニ關セス歲入徵收官ニ於テ適宜納入金庫ヲ指定シ得ル旨本年三月二十六日乾第四五二號乙ヲ以

テ當省大臣ヨリ貴省大臣宛御通知ノ次第モ有之候處甲官廳乙官廳ニ對シ乙官廳所在地ノ金庫ヲ指定シテ告知書ヲ送附シタル場合ニ於テハ乙官廳ハ右ニ對スル仕拂命令ヲ發行シ告知書ニ添ヘ該金庫ニ送附シ納入ノ手續ヲ了スヘキ儀ニ候條爲念此段及御通知候也

○歲出金仕拂上詐取ニ罹リタル場合報告ニ關スル件 明治三十五年三月十一日 公達第一六〇號

仕拂命令官ニ於テ其所管ニ係ル歲出金仕拂上詐取ニ罹リタル事實ヲ發見シタルトキハ直ニ詳細報告スヘシ

○私設會社ニ對スル徵收及仕拂要求書送付期限 明治三十五年一月二十日 達第三號

鐵道作業局一般

私設鐵道株式會社ニ對スル收支ノ徵收及仕拂要求書ハ毎月十五日限リ計理部ニ送付スヘシ

第二類 豫算

○豫定經費算出概則 明治二十二年六月十日 閣令第一九號

- 第一條 經費ヲ算出スルニハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示スヘシ
- 第二條 經費中其給與ニ屬スルモノハ一人當リノ給額ヨリ積算シ又其物件ニ屬スルモノハ一箇當リノ費用ヨリ積算スヘシ
- 第三條 一人當リノ給額ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基トシ又規定ノ給額ナキモノハ各々其據ル所ヲ示スヘシ
- 第四條 一箇當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其價格ヲ基トシ又規定ノ價格ナキモノハ時々ノ相場ニ依リ其據ル所ヲ示スヘシ
- 第五條 給與ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ定員ヲ限度トシ定員ナキモノハ前年度四月一日ノ現員ヲ標準トスヘシ但事務ノ繁閑ニ隨ヒ臨時傭入及解傭ヲナス人員ハ前々年度以前三箇年度ノ人員ノ平均ヲ標準トスヘシ
- 第六條 物件ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ箇數アルモノハ規定ノ箇數ヲ限度トシ規定ノ箇數ナキモノハ前々年度以前三箇年度間ニ實際使用ニ供シタル箇數ノ平均ヲ標準トスヘシ
- 第七條 國債償還ノ金額 (定期アル者ヲ除ク) ハ財政ノ都合ニ依リ其利子及手数料ハ定規ニ依リ之ヲ豫算スヘシ
- 第八條 常例ノ旅行ニ屬スル旅費ハ各用務毎ニ人員、旅費等級、里程及滞在日數ヲ概定シテ豫算スヘシ
- 第九條 法律命令契約ニ依リ支出スヘキ總金額ノ定リタルモノハ其總金額ヲ以テ豫算額トスヘシ
- 第十條 前各條ニ據ルヘカラサル經費ハ最モ適實ノ方法ヲ以テ豫算シ其計算ノ基ヲ示スヘシ

○歲入歲出豫算概定順序 明治二十二年二月二十七日 閣令第一二號

第一條 歲入ノ事務管理廳ハ毎年度歲入概算書ヲ調製シ前年度五月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送附スヘシ (明治二十六年令第二號ヲ以テ本條中改正)

第二類 豫算

某年度歳入概算

要 金 庫	何 年 四 月 分		五 月 分	六 月 分	七 月 分	八 月 分
	円	銭	円	銭	円	銭
中央金庫 <small>(何 地 不 庫)</small>	300	000	100	000	150	000
何地支金庫	0		0		0	
	300	000	100	000	150	000
					明	治
						大

月 額 金 庫 區 分 表

九 月 分		十 月 分		十 一 月 分		十 二 月 分		何 年 一 月 分		二 月 分	
円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
300	000	200	000	250	000	100	000	150	000	200	000
0		0		0		(0		0	
300	000	200	000	250	000	100	000	150	000	200	000
年		月		日		官		氏		名	
藏		大		臣		宛					

第二類 豫算

摘 取
廳 廳
某某

○繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ要スルモノハ當初ニ於テ議會ノ議ニ附スル件
明治二十五年十月十一日
内閣通牒送第二四號

繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ要スルモノハ今後當初ニ於テ年限及各年度ノ金額及款項ヲ定メタルモノヲ以テ議會ノ議ニ附ス但其費途ノ性質ニ於テ此常例ニ依リ難キ特別ノ理由アルモノハ此限ニアラス
右ノ通り閣議決定相成候條此段及通牒候也

○明治二十七年年度以降歳入豫定計算書及同月額金庫區分表進達方
明治二十六年一月二十八日大藏省訓令
第一號

北海道廳 府縣 各稅關

明治二十五年二月大藏省訓令第十號歳入豫定計算書及月額金庫區分表ハ明治二十七年年度以降左ノ様式ニ依リ調製スヘシ
但租稅外諸收入ニ關スル月額金庫區分表ハ項別ヲ要セス
前項豫定計算書ニハ説明書ヲ要セス若シ特ニ注意ヲ要スルモノアルトキハ便宜末尾ニ掲載スヘシ

(用紙美濃紙)

明治何年度歳入租稅(租稅外諸收入)豫定計算書		廳 名	
款	項	目	額
第一款 租 稅	第一項 地 租	第一目 田 租	

(用紙美濃紙)

明治何年度歳入租稅(租稅外諸收入)豫定月額金庫區分表		廳 名	
稅得所	租 地	款 項	
		金庫	月
	何本金庫	四月	
	何支金庫	五月	
	計	六月	
		七月	
		八月	
		九月	
		十月	
		十一月	
		十二月	
		一月	
		二月	
		三月	
		計	

以下此例ニ倣フ

○遞信省歳入豫算調理規程 明治二十七年七月二十三日(明治三十年四月二日財第 一四九八號ヲ以テ改正)

第一條 本省各局課所長(官房財務課長、鐵道作業局長、官、通信局長、管船)ハ每年歳入概算書(第一號)歳入豫定計算書(第一號)歳入豫定計算書各目明細書(第二號)及歳入起因ニ關スル法令等取調書(第三號)ヲ調製シ概算書ハ前年度五月五日迄ニ豫定計算書、豫定計算書各目明細書及歳入起因ニ關スル法令等取調書ハ前年度八月五日迄ニ官房財務課長ニ送附スヘシ

但歳入起因ニ關スル法令等ハ三十二年分已降其改廢新設ニ係ルモノ、ミチ取調書ニ掲クヘシ

第二條 本省各局課所長ハ左ノ區分ニ依リ歳入概算書、歳入豫定計算書、歳入豫定計算書各目明細書及歳入起因ニ關スル

第二類 豫算

第二類 豫算

法令等取調書ヲ調製スヘシ

一 大臣官房財務課長ハ本省ニ於テ收入スル收入

但郵便電信收入ノ項ニ屬スルモノヲ除ク

一 電信燈臺用品製造所長ハ電信燈臺用品製造所益金

一 鐵道作業局長官ハ鐵道益金其他鐵道局ニ於テ收入スル收入

一 通信局長ハ本省ニ於テ收入スル郵便電信收入並ニ郵便及電信局電話交換局郵便爲替貯金管理所東京郵便電信學校ニ於テ收入スル收入

一 管船局長ハ航路標識管理所船舶司檢所及商船學校ニ於テ收入スル收入

第三條 歳入概算書、歳入豫定計算書、歳入豫定計算書各目明細書及歳入起因ニ關スル法令等取調書ハ經常臨時ニ大別シ更ニ款項目ニ區分スヘシ

但各目明細書ハ項毎ニ紙ヲ改メ調製スヘシ

第四條 (削除)

第五條 算出方法ハ別冊歳入豫算算出標準ニ據ルヘシ

第六條 算出上厘位未滿ノ金額ハ四捨五入シ其捨入シタル金額ハ朱書ヲ以テ記載スヘシ

目ニ於テ圓位未滿ノ金額ヲ生スルトキハ之ヲ切上ケ圓位ニ止ムヘシ

第七條 科目ノ變更ヲ要スルモノアルトキハ前年度豫算ヲ本年度ノ相當科目ニ組換調製スヘシ

第八條 小包郵便ニ關スル郵便電信收入及電話ニ屬スル郵便電信收入ハ各別冊ニ調製スヘシ

第九條 財務課長ハ遞信省所管全體ノ歳入概算書、歳入豫定計算書、歳入豫定計算書各目明細書及歳入起因ニ關スル法令等取調書ヲ調製シ規定ノ期日內ニ大藏省ヘ送附スルノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 本規程ハ明治二十七年七月一日ヨリ施行ス

(第一號書式)

明治何年度歳入概算(豫定計算)書

部 局

科 目		明治何年度歳入概算(豫定計算)		比較ノ差 △減 増	備 考
經 常 部	目	何年度概算高 (豫定)	何年度豫算高		
款 目					
款 目					
項 目					
項 目					

第二類 豫算

第二類 豫算

臨時部合計	臨時部	臨時部合計	臨時部	臨時部合計

△(規程第七條ノ組織ヲ爲シタルトキハ其事由金額等ヲ備考ニ明記スヘシ)
何年度歳入概算(豫定計算)説明

本年度ニ於テハ何年月日何號ノ法律或ハ勅令等ニ依リ何々ノ規則ヲ制定又ハ改正シ何年月日以降之ヲ實施スルカ爲メ
何々項ヲ設置シ又ハ何々ノ事由ニ依リ何々項ヲ刪除シ何々項ヲ設ク

歳入經常部

第何款 何々

第何項 何々

増(減) 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

何々事由ニ依リ何目ハ何目ハ何ニ於テ

ヲ増シ何々事由ニ依リ何目ニ於テ

ヲ増シ

合計

ヲ増スト雖モ何々事由ニ依リ何目ハ何目ハ何ニ於テ

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

ヲ減シ

合計

ヲ減スルカ爲メ

差引

ノ増加(減少)ヲ見ル

第何項 何々

増(減) 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

何々、

第何款 何々

第何項 何々

増(減) 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

何々、

歳入臨時部

第何款 何々

第何項 何々

増(減) 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

何々

第二類 豫算

(第二號書式)

明治何年度歳入豫定計算書各目明細書

部
局

歳入經常部(歳入臨時部)

第何款 何々

第何項 何々

説明

、、、、、、即ち左表ノ如シ

算出内譯表

第何目 何々

何	何	何	何
計	々	々	何
			年
			度
			何
			年
			度
			何
			々
			何
			々
			豫
			定
			額

第何目 何々

何	何	何	何
計	々	々	何
			年
			度
			何
			年
			度
			何
			々
			何
			々
			豫
			定
			額

第何目 何々

第一 何々

何	何	何	何
計	々	々	何
			年
			度
			何
			年
			度
			何
			々
			何
			々
			豫
			定
			額

第二類 豫算

第二 何々

四五四

何 何									
計	々 々	何 年 度	何 年 度	何 々	何 々	何 々	何 々	豫 定 額	

表式ハ概略ヲ示スモノナレハ其種類ニヨリ便宜提出スヘシ
各表ニ就キ算出方法等特ニ説明ヲ要スルトキハ備考トシテ表尾ニ記載スヘシ

(第三號書式)

明治何年度歳入起因ニ關スル法令等取調書

部 局

歳入經常部(歳入臨時部)

第何款 何々

第何項 何々

第何目 何々

明治何年何月何第何號何々(主タル法令等)

明治何年何月何第何號何々規則又ハ何々ノ件(主タル法令等ニ
附隨スル命令等)

第何目 何々

明治何年何月何第何號何々(明治何年何月何第
何號ヲ以テ改正)

(備考)

同一ノ法令契約等ニシテ數目ノ起因トナリ各條項ヲ異ニスルモノアルトキハ其條項ヲ明記スヘシ
數目ヲ通シテ其起因全ク同一ナルトキハ該目ヲ列記シ其後ニ法令契約等ヲ掲記スルモ妨ケナシ

歳入豫算算出標準

第二類 豫算

四五五

第二類 豫算

歳入豫算出標準

- 一 歳入概算書ハ可成此算出標準ニ依リ實數等ノ確定セサルモノハ適宜ノ方法ヲ設ケ歳入豫定計算書ノ金額ト大差ナキ金額ヲ算定スヘシ
- 二 歳入豫定計算書ハ此算出標準ニ依リ算定スヘシ
- 三 此標準ニ依リ難キモノアルトキハ適宜ノ方法ヲ設ケ算定シ其算出ノ基ク所ヲ詳記スヘシ
- 四 切手賣下代ノ如ク數種目ニ分カル、者ハ前々年度以前ノ收入濟額ヲ各種目ニ區分シ記載スヘシ

種目	算出標準
經常部	
官業及官有財産收入	
郵便電信收入	
切手賣下代	
郵便部	
通常郵便料	前々年度以前三箇年度ノ取扱物數ヲ平分シタルモノヲ以テ豫定取扱數トシ此取扱數ニ規定ノ送達手數料ヲ乘シテ算定スヘシ
	前記ノ如ク算出ノ標準ヲ定ムト雖モ前々年度以前三箇年度ノ取扱物數毎
	年増加シ尙次年度以降ニ於テモ増加ノ見込アルトキハ通常郵便料ノ例ニ依リ算出スヘシ
	但以下郵便電信收入ノ項ニ屬スルモノニシテ三箇年度ノ平均額ニ基ク
	モノハ皆同シ
	通常郵便料ト同一ノ方法ヲ以テ取扱物數ヲ算出シ之ニ規定ノ料金ヲ乘シ
	テ算定スヘシ
	通常郵便料ノ例ニ依ルヘシ但小包郵便法ノ實施日淺キニ依リ財務課ト通
	信局ト協議ノ上適宜ノ方法ヲ以テ算定スヘシ
	前々年度以前三箇年度ノ收入濟額ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
	前々年度以前四箇年度ノ切手消印高ニ就キ通常郵便料ト同一ノ方法ヲ以
	テ算定スヘシ
	前々年度三箇年度ノ消印高(切手ニ改正以前)ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
	一局毎ニ前々年度以前三箇年度間ノ切手消印高ヲ一年度毎ニ當該年度ノ
	加入者人員(人員一人トハ全一箇年度間ノ加入ヲ以テシ)ニテ除シ得タル
	數ヲ平分シ現在加入者人員ニ乘シテ算定スヘシ
	前々年度以前三箇年度ノ増減平均額ヲ前々年度ノ收入濟額ニ加除シテ前
	年度假定豫算額ヲ算定シ更ニ前々年度以前三箇年度ノ増減平均額ヲ前年度
	ノ假定豫算額ニ加除シ算定スヘシ

訴訟書類送達手數料

配送證明手數料	前々年度以前三箇年度ノ取扱物數ヲ平分シタルモノヲ以テ豫定取扱數トシ此取扱數ニ規定ノ送達手數料ヲ乘シテ算定スヘシ
内國小包郵便料	前記ノ如ク算出ノ標準ヲ定ムト雖モ前々年度以前三箇年度ノ取扱物數毎
	年増加シ尙次年度以降ニ於テモ増加ノ見込アルトキハ通常郵便料ノ例ニ依リ算出スヘシ
	但以下郵便電信收入ノ項ニ屬スルモノニシテ三箇年度ノ平均額ニ基ク
	モノハ皆同シ
	通常郵便料ト同一ノ方法ヲ以テ取扱物數ヲ算出シ之ニ規定ノ料金ヲ乘シ
	テ算定スヘシ
	通常郵便料ノ例ニ依ルヘシ但小包郵便法ノ實施日淺キニ依リ財務課ト通
	信局ト協議ノ上適宜ノ方法ヲ以テ算定スヘシ
	前々年度以前三箇年度ノ收入濟額ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
	前々年度以前四箇年度ノ切手消印高ニ就キ通常郵便料ト同一ノ方法ヲ以
	テ算定スヘシ
	前々年度三箇年度ノ消印高(切手ニ改正以前)ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
	一局毎ニ前々年度以前三箇年度間ノ切手消印高ヲ一年度毎ニ當該年度ノ
	加入者人員(人員一人トハ全一箇年度間ノ加入ヲ以テシ)ニテ除シ得タル
	數ヲ平分シ現在加入者人員ニ乘シテ算定スヘシ
外國小包郵便料	前々年度以前三箇年度ノ收入濟額ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
電信料	前々年度以前四箇年度ノ切手消印高ニ就キ通常郵便料ト同一ノ方法ヲ以
	テ算定スヘシ
	前々年度三箇年度ノ消印高(切手ニ改正以前)ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
	一局毎ニ前々年度以前三箇年度間ノ切手消印高ヲ一年度毎ニ當該年度ノ
	加入者人員(人員一人トハ全一箇年度間ノ加入ヲ以テシ)ニテ除シ得タル
	數ヲ平分シ現在加入者人員ニ乘シテ算定スヘシ
電報局波料	前々年度以前三箇年度ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
既設局前年度ヨリ繼續加入者ニ對スル通信料	前々年度以前三箇年度ノ平均額ニ依リ算定スヘシ

第二類 豫算

第二類 豫算

既設局新規加入者 ニ對スル通信料	既設局通信料	爲替貯金ノ分	内國爲替料	通常爲替料	電信爲替料	小爲替料	爲替拂渡濟通知料	外國爲替料	貯金通帳書換手數料	封皮賣下代
---------------------	--------	--------	-------	-------	-------	------	----------	-------	-----------	-------

豫定加入者人員ニ付前項ト同一ノ方法ヲ以テ一箇年度ニ滿タル加入者ハ一人當リノ金額ヲ其月數ニ應シ算定スヘシ
前項ニ同シ
但乘數ハ既設局ノ分ニ參照シ相當額ヲ見込ムヘシ

爲替料ノ割合ニ從ヒ區分シ各前々年度以前四箇年度ノ振出枚數ニ就キ一年度毎ニ其前年度ニ對スル差額ヲ算出シ此差額參個ヲ平分シ得タル數ヲ四箇年度中ノ最後年度即チ前々年度ノ振出枚數ニ加算シ之ヲ假リニ前年度ノ豫定枚數ト見做シ又此前年度以前四箇年度間ノ振出枚數ニ就キ一年度毎ニ其前年度ニ對スル差額ヲ算出シ此差額三個ヲ平分シテ得タル數ヲ前年度豫定枚數ニ加算シ之ニ規定ノ料金ヲ乘シタルモノヲ以テ豫算トスヘシ
通常爲替料ト同一ノ方法ヲ以テ算定スヘシ
前々年度以前四箇年度ノ振出枚數ニ就キ通常爲替料ト同一ノ方法ヲ以テ算定スヘシ

切手消印高ニ就キ通常爲替料ト同一ノ方法ヲ以テ算定スヘシ
通常爲替料ト同一ノ方法ヲ以テ振出枚數ヲ算出シ之ニ前々年度以前三箇年度間ノ平均一枚ノ切手消印高ヲ乘シテ算定スヘシ
前々年度以前三箇年度切手消印高ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
前々年度以前四箇年度間ノ收入濟額ニ就キ切手賣下代郵便ノ分通常郵便

葉書賣下代	私書函料	約束郵便料	定額約束料	新聞約束料	外國郵便物遞送料差金	爲替證書書換手數料	外國爲替歩合金	爲替沒收金	外國爲替貨幣交換差増	貯金公債證書購入手數料	海外電報料
-------	------	-------	-------	-------	------------	-----------	---------	-------	------------	-------------	-------

料ト同一ノ方法ヲ以テ算定スヘシ
同前
同前

最近ノ現在約束額ヲ以テ算定スヘシ
但約束額ノ現在月日及約束先キ一箇所毎ノ區分ヲ明記スヘシ
前々年度ノ收入濟額ニ依リ算定スヘシ
但一新聞社毎ニ明記スヘシ

萬國郵便條約實施細目規則第二十三條ニ據リ實際收入スヘキ額ニ依リ算定スヘシ
前々年度以前三箇年度收入濟額ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
切手賣下代郵便ノ分通常郵便料ト同一ノ方法ヲ以テ算出スヘシ
前々年度以前三箇年度ニ於ケル失効公告濟額中没入期ニ達スル金額ニ對スル没入金(收入濟額)ノ平均歩合ヲ算出シ之ヲ前年度没入金ノ歩合トシ更ニ前年度以前三箇年度ノ没入金(收入濟額)平均歩合ヲ算出シ以テ之ヲ當該年度ノ没入期ニ達スヘキ金額ニ乘シ算定スヘシ
前々年度以前三箇年度收入濟額ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
同前
前々年度以前四箇年度間實際取扱フタル電報(二等局以下取扱切手貼用ノ分ヲ除ク)ニ對スル料金ニ就キ切手賣下代郵便ノ分通常郵便料ト同一

第二類 豫算

第二類 豫算

略號常用料	電 話 用 料	既設局前年度ヨリ	既設局新加入者ノ分	新設局ノ分	加入者市外電話料	既設局前年度ヨリ	既設局新加入者ノ分	既設局新規加入者ノ分	新設局ノ分	電話機費用償戻金	既設局前年度ヨリ	既設局新加入者ノ分	新設局ノ分	電話取扱料
-------	---------	----------	-----------	-------	----------	----------	-----------	------------	-------	----------	----------	-----------	-------	-------

ノ方法ヲ以テ算定スヘシ
 前々年度以前四箇年度ノ收入濟額ニ基キ切手賣下代郵便ノ分通常郵便料
 ト同一ノ方法ヲ以テ算定スヘシ
 一局毎ニ現金ノ加入者人員ニ規定ノ料金ヲ乘シ算定スヘシ
 豫定加入者人員ニ就キ前項ト同一ノ方法ヲ以テ算定スヘシ
 前項ニ同シ
 一局毎ニ前々年度以前三箇年度間ノ收入濟額ヲ一年度毎ニ當該年度ノ加
 入者人員(人員一人トハ全一箇年度間ノ加入者ヲ以テシ)ニテ除シ得タル
 數ヲ平分シ現在加入者人員ニ乘シ算定スヘシ
 豫定加入者人員ニ就キ前項ト同一ノ方法ヲ以テ算定スヘシ
 但乘數ハ繼續加入者ノ分ニ參照シ相當額ヲ見込ムヘシ
 前項ニ同シ
 電話料加入者市外電話料ト同一ノ方法ヲ以テ算定スヘシ
 最近ノ現在締約額ヲ以テ算定スヘシ

電 信 修 繕 料	電 信 柱 移 轉 料	官 有 物 貸 下 料	建 物 貸 下 料	鐵 道 益 金	鐵 道 益 金	電信燈臺用品製造所益金	電信燈臺用品製造所益金	維 修 費 入	毀損紛失物品辨償金	訴訟入費償却金	遠 約 金	出納官吏辨償金
-----------	-------------	-------------	-----------	---------	---------	-------------	-------------	---------	-----------	---------	-------	---------

但締約額ノ現在月日及約束先キ一箇所毎ノ區分ヲ明記スヘシ
 最近ノ現在約束額ヲ以テ算定スヘシ
 但約束額現在月日及委託者毎ノ區分ヲ明記スヘシ
 前々年度以前三箇年度ニ於ケル移轉柱數ノ電信柱總數ニ對スル歩合ヲ當
 該年度ノ電信柱總數ニ乘シ當該年度ノ移轉柱數ヲ算出シ之ニ前々年度以
 前三箇年度調定額ノ移轉柱數ニ對スル平均一本ノ金額ヲ乘シ算定スヘシ
 電信柱移轉料ニ同シ
 前々年度三月末日現在有料建物ノ料金高ニ依リ算定スヘシ
 鐵道會計歳入豫算ノ過剩額ニ依リ算定スヘシ
 作業會計歳入豫算ノ過剩額ニ依リ算定スヘシ
 前々年度以前三箇年度收入濟額ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
 同前
 同前
 同前

第二類 豫算

第二類 豫算

盜難品賠償金	同前
電信修繕費辨償金	同前
郵便違犯物取扱料	同前
裁判所出頭費用辨償金	同前
雜	
返納金	前々年度以前三箇年度收入濟額ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
經費過誤拂返納金	前々年度以前三箇年度收入濟額ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
學資返納金	卒業生ノ返納スヘキ額ニ依リ算定スヘシ
諸收入集計差金	前々年度以前三箇年度收入濟額ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
官吏遺族扶助法納金	歳出俸給豫算額ニ依リ算定スヘシ
官吏遺族扶助法納金	歳出俸給豫算額ニ依リ算定スヘシ
臨時部	
官有物拂下代	前々年度以前三箇年度收入濟額ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
地所拂下代	前々年度以前三箇年度收入濟額ノ平均額ニ依リ算定スヘシ
建築物拂下代	同前
物品拂下代	同前
物品拂下代	同前
畜産拂下代	同前

鐵道作業歳入歳出豫算々出概則

製家畜拂下代	同前
製艦費補足金	同前
納附金	歳出俸給豫算額ニ依リ算定スヘシ

歳入

- 第一條 既成鐵道線路ニ對スル運輸收入中客車及貨車純收入(貨物發着手)ハ既往最近年度ニ於ケル旅客人哩及貨物噸哩ヲ以テ其年度間ノ實收額ヲ各平均シ得タル一哩ノ實收額ヲ豫定人哩及噸哩ニ乘シテ算出スヘシ但シ豫定人噸哩數ハ營業一哩ニ對スル人噸哩ノ統計ニ依リ圖表ヲ製シ其増減ノ傾向ヲ考證シ之ニ豫定營業哩數ヲ乘シテ算出スヘシ
- 既成線路ニ接續スル延長線路ニ對シ算出スル客車及貨車純收入(貨物發着手)ハ前項ニ於ケル當該線路ノ豫定人噸哩ニ其見込額ヲ加算シテ算出スヘシ
- 第二條 新タニ運輸ヲ開始スヘキ線路(既成線路ニ接續セサル線路)ニ對スル客車及貨車純收入(貨物發着手)ハ既成線路中可成其狀況ノ類似セルモノヲ撰ミ之ニ屬スル最近年度ノ一營業哩ニ對スル人噸哩ヲ以テ豫定營業哩ニ乘シ得タル人噸哩ニ豫定ノ貨率ヲ乘シテ算出スヘシ
- 第三條 私設鐵道會社トノ連帶收入拂戻及過誤納拂戻金ニ相當スル運輸收入ハ既往最近年度實收額ノ其年度間ニ於ケル客車及貨車收入額(連帶收入拂戻及過誤納拂戻金ニ相當)ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定客車及貨車收入額(上)ニ乘シテ算出スヘシ
- 第四條 運輸收入貨車收入中託送者納金高割戻金ニ相當スル收入ハ既往最近年度實收額ノ其年度間ニ於ケル貨車純收入額(貨物發着手)ニ對スル割合ヲ算出シ之ヲ豫定貨車純收入額(貨物發着手)ニ乘シテ算出スヘシ
- 第五條 運輸收入貨車收入中貨物發着手敷料純收入ハ既往最近年度ノ輸送貨物噸數ヲ以テ其年度間ニ於ケル實收額ヲ除シ

第二類 豫算

得タル一噸ノ料率ヲ豫定貨物噸數ニ乗シテ算出スヘシ

貨物發着手数料連帶收入及其過誤納金モ亦前項ノ方法ニ據リ算出スヘシ

第六條 運輸收入中ノ雜入(第七條及第八條ノ收入ヲ除ク)ハ既往最近年度實收額ノ其年度間ニ於ケル客車及貨車總收入ニ對スル割合ヲ

求メ之ヲ豫定客車及貨車總收入ニ乘シテ算出スヘシ

第七條 運輸收入雜入諸車使用料中直通列車ニ對スル使用料并ニ雜收中直通列車ニ係ル割合金ハ其契約シタル區間毎二一

ケ年度ノ前者ハ車輛後者ハ列車延哩數ヲ豫定シ之ニ各契約料金ヲ乘シテ算出スヘシ

第八條 運輸收入雜入中停車場使用料ハ既往最近年度ニ於テ其驛ヲ通過シ又ハ發着シタル旅客人員并ニ通過貨物噸數ヲ基

礎トシテ各驛毎ニ其總數ヲ豫定シ之ニ一人噸ニ對スル契約料金ヲ乘シテ算出スヘシ

第九條 雜收入中雜收入ノ目ニ屬スル收入ハ既往三ケ年度間ノ實收平均額ニ依ル

第十條 雜收入中工作收入ノ目ニ屬スル收入ハ當該年度工作費豫算高ノ内ヨリ作業所屬物件ノ改製及修理費ニ割掛ヘキ諸

費ニ相當スル豫定金額(第二十四條第三號)ヲ差引更ニ生産品原價ニ割掛ヘキ豫定金額ヲ加算シテ算出スヘシ

歲 出

第十一條 官吏ノ俸給ハ定員ニ對シ既定ノ標準額ヲ乘シテ算出スヘシ但シ定員ニ増加ヲ要スルトキハ之ヲ區分シテ調理スヘシ

第十二條 退官賜金并ニ死亡賜金ハ既往三ケ年度間支給額ノ其年度間ニ於ケル俸給總額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定俸給總額ニ乘シテ算出スヘシ

第十三條 死傷手当并ニ賠償及訴訟費ハ既往三ケ年度間ニ於ケル遞増若クハ遞減割合ヲ算出シ其割合ノ平均割合ヲ最近年度ノ實費額ニ乘シ得タル數ヲ該年度ノ實費額ニ加算シ若クハ實費額ヨリ減額シテ算出スヘシ

第十四條 諸拂戻及缺損補填金ハ左ノ方法ニ據リ算出スヘシ

- 一 連帶及過誤納運輸收入拂戻金ハ第三條ニ據リ算出シタルモノヲ以テ之ニ充ツヘシ
- 二 貨車收入中託送者納金高割戻金ハ第四條ニ據リ算出シタルモノヲ以テ之ニ充ツヘシ

三 貨車收入中貨物發着手数料拂戻金ハ第五條第二項ニ據リ算出シタルモノヲ以テ之ニ充ツヘシ

四 運輸收入中ノ雜入并ニ雜收入中ノ過誤納下戻金及缺損補填金ノ算出方ハ既往三ケ年度間ノ實費平均額ニ據ル

第十五條 事業費中總保費保存費汽車費運輸費及工作費ノ各執業費ハ左ノ方法ニ據リ算出スヘシ

一 器具、雜機械、雜品費、圖書購買費、製本費、印刷費、用紙、諸帳簿、筆墨印肉類、硯小道具類、薪炭油類、雜用品、郵便電信料及旅費ハ既往三ケ年度間實費額ノ各年度末ニ於ケル現在職員(本官及雇員ヲ云フ但シ雇員扱ヲ含マズ)ノ合計數ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定職員ノ數ニ乘ス

二 雇員給ハ豫定ノ人員ニ對シ事務雇ト技術雇トニ分チ既定ノ標準額ヲ乘ス但シ前年度豫定員ニ對シ増減ヲ要スルトキハ之ヲ區分シテ調理スヘシ

三 守衛、工場取締、小使、諸番人、職工其他各執業費ノ内ニ於テ支辨スヘキモノ、給料ハ各職名毎ニ人員ヲ豫定シ之ニ既定ノ標準額ヲ乘ス但シ前年度豫定員ニ對シ増減ヲ要スルトキハ之ヲ區分シテ調理スヘシ

四 被服費ハ所要ノ各種人員ニ對シ每年定ムル所ノ各品種ノ價格ヲ乘ス

五 雜事手當ハ官吏雇員及傭人(手當ヲ支給スヘキ資格ヲ有スル傭人)ヘ支給スヘキ總給額ニ對シ既定ノ割合ヲ乘ス

六 電話機使用料ハ規定ノ料額ニ據ル但シ市外電話料ハ第十三條ノ例ニ據ル

七 運搬費、寫字料、諸謝金、家屋其他借料、電燈及瓦斯費、廣告料、試驗費并ニ雜費ノ類ハ第十三條ノ例ニ據ル但シ家屋其他借料并ニ電燈及瓦斯費ニシテ契約アルモノハ其契約ニ基キ又局内發電所ニ於テ要スル電燈費ハ同所ノ豫定額ニ基キ各調理スヘシ

八 囑託手當ハ月額ヲ以テ支給スルモノハ其月額ヲ所要人員ニ乘シ又臨時ニ屬スルモノハ第十三條ノ例ニ據ル

九 修技生手當ハ人員ヲ豫定シ之ニ所定ノ手當額ヲ乘ス但シ前年度豫定員ニ對シ増減ヲ要スルトキハ之ヲ區分シテ調理スヘシ

十 水料ハ既往最近年度ニ於ケル使用水量ヲ基礎トシテ其使用スヘキ水量ヲ豫定シ之ニ各水道事務所々定ノ料金ヲ乘ス

第二類 豫算

四六六

但シ水量ニ依ラスシテ單二月其他ニ依テ料金ヲ契約シタルモノハ其料金ニ依ル又水量ハメートル、ガロン及石等各水道事務所々定ノ稱呼ニ依リ計算スヘシ

十一 郵便受渡機ノ費用ハ其約束アルモノハ約束其數ニ又新タニ契約ヲ要スルモノハ其一基ノ保守料ヲ乘ス

十二 巡查備入費ハ其約束アルモノハ約束人員ニ又新タニ備入ヲ要スルモノハ其豫定人員ニ對シ平均一人ノ其廳府縣所定給額ヲ乘ス

第十六條 保存費中線路修繕費ハ狀況ノ略ホ同一ナル區間毎ニ區分シ左ノ方法ニ據リ算出スヘシ

一 軌道修繕費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル軌道延哩合計數ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定ノ軌道延哩數ニ乘ス但シ複線ハ三哩ヲ以テ二哩トシサイヤンクハ三哩ヲ以テ一哩トシテ軌道延哩數ニ算入ス

二 橋梁、隧道、電信線、雪覆及水道ノ各修繕費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル各延長(橋梁、隧道、雪覆、水道ハ以テ)ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定各延長ニ乘ス但シ複線橋ノ延長ハ二倍トス

三 溝橋并ニ伏樋修繕費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル各箇所數ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定各箇所數ニ乘ス

四 停車場修繕費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル停車場標準箇數ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定停車場標準箇數ニ乘ス但シ停車場標準箇數ハ左ノ區分ニ據ル

一等停車場ハ 百箇 二等同上 三十箇 三等同上

四等同上 五箇 五等同上 壹箇

五 柵垣及境界杭修繕費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル開業哩數ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定開業哩數ニ乘ス

六 器具費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル線路修繕費總額(器具費ヲ除ク)ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定線路修繕費總額(器具費ヲ除ク)ニ乘ス

七 除雪費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル除雪區域ノ哩數ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定除雪區域ノ哩數ニ乘ス

第十七條 保存費ニ屬スル諸建物修繕費ノ内器具費、除雪費ヲ除ク外一切ノ修繕費ハ各種建物ニ區分シ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル建物坪數合計ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定建物坪數ニ乘シテ算出スヘシ

第十八條 汽車費中運轉費ハ左ノ方法ニ據リ算出スヘシ

一 機關手、火夫、石炭夫、注油夫、車輛検査番、掃除夫、轉車夫及合圖方等其他運轉費ノ内ニ於テ支辨スヘキモノ、給料ハ第十五條第三號ノ例ニ據ル

二 被服費ハ第十五條第四號ノ例ニ據ル

三 石炭費ハ區間毎ニ既往三ヶ年度間機關車運轉百哩ニ對シ消耗シタル數量ノ遞増減ノ割合ヲ求メ其割合ノ平均割合ヲ最近年度ノ機關車運轉百哩ニ對スル消耗高ニ乘シ得タル數ヲ該年度ノ機關車運轉百哩ニ對スル消耗高ニ加減シ其結果ヲ豫定機關車運轉哩數ニ乘シ得タル消耗高ニ豫定標準價格ヲ乘ス但シ石炭ハ斤ヲ以テ計算スヘシ

四 油脂費(種類毎ニ)及屑系費ハ區間毎ニ既往三ヶ年度間ノ機關車運轉哩數ニ對シ其年度間ニ於ケル消耗高ノ割合(即チニ對スル)ヲ求メ之ヲ豫定機關車運轉哩數ニ乘シテ得タル數量ニ豫定標準價格ヲ乘ス但シ油脂中ノ諸油ハ升、獸脂及屑系ハ斤ヲ以テ計算スヘシ

五 水料ハ第十五條第十號ノ例ニ據ル

六 雜事手當ハ第十五條第五號ノ例ニ據ル

七 機關車借用料ハ既往三ヶ年度間ノ實費平均額ニ據ル

八 旅費、器具費及雜費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル機關車運轉哩數ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定機關車運轉哩數ニ乘ス

第十九條 汽車費中車輛修繕費ハ器具費ヲ除ク外既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル每種車輛ノ合計數ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定每種車輛數ニ乘シテ算出スヘシ

第二類 豫算

四六七

器具費ノ算出方ハ第十六條第六號ノ例ニ據ルヘシ

第二十條 運輸費中停車場費ハ左ノ方法ニ據リ算出スヘシ

- 一 器具、雜機械、雜品費、筆墨印肉類、硯小道具類、薪炭油類、雜用品、旅費及雜費ハ第十五條第一號ノ例ニ據ル
- 二 圖書購買費、製本費、寫字料、家屋其他借料并ニ電燈及瓦斯費ハ第十五條第七號ノ例ニ據ル
- 三 印刷費、用紙、諸帳簿、郵便電信料及運搬費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル人噸哩合計ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定人噸哩ニ乘ス
- 四 電話機使用料ハ第十五條第六號ノ例ニ據ル
- 五 雇員給ハ第十五條第二號ノ例ニ據ル
- 六 操車掛、車號掛、信號手、世話役、轉轍手、警手、驛夫、貨物驛夫、整燈手、連結手、踏切番人其他驛務ニ從事スルモノ、給料ハ第十五條第三號ノ例ニ據ル
- 七 被服費ハ第十五條第四號ノ例ニ據ル
- 八 雜事手當ハ第十五條第五號ノ例ニ據ル
- 九 乘車券及入場券費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル人噸哩合計ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定人噸哩ニ乘ス
- 十 電信及諸荷物配達費中電信配達費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル電信手數料收入合計ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定電信手數料收入額ニ乘ス
- 十一 小手荷物配達費ハ既入ニ於テ豫定スル所ノ小手荷物配達賃ヲ以テ之ニ充ツ
- 十二 速達貨物配達費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル收入額ニ對シ割合ヲ求メ之ヲ豫定速達貨物貨金收入額ニ乘ス
- 十一 貨車手押料ハ既往最近年度ニ於ケル取扱車數并ニ貨物積卸料ハ同箇數ヲ基礎トシテ各其取扱フヘキ總數ヲ豫定シ之レニ既定ノ一車及一箇ニ對スル料金ヲ乘ス

十二 停車場使用料ハ既往最近年度ニ於テ其驛ヲ通過シ又ハ發着シタル旅客人員并ニ通過貨物噸數ヲ基礎トシテ各驛毎

ニ其總數ヲ豫定シ之ニ一人噸ニ對スル契約料金ヲ乘ス

十三 水料ハ第十五條第十號ノ例ニ據ル

十四 巡查備入費ハ第十五條第十二號ノ例ニ據ル

十五 電信費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル列車走行哩合計ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定列車走行哩ニ乘ス

第二十一條 運輸費中列車費ハ左ノ方法ニ據リ算出スヘシ

- 一 器具、雜機械、雜品費、製本費、印刷費、用紙、諸帳簿、筆墨印肉類、薪炭油類、雜用品、旅費、諸車點燈費、諸車借用料、私設鐵道通過料、雜備給及雜費ハ第二十條第十五號ノ例ニ據ル但シ雜費中直通列車ニ係ル割合金ハ別ニ區分シテ其契約シタル直通區間毎ニ一ヶ年度ノ列車延哩數ヲ豫定シ之ニ契約料金ヲ乘ス
 - 二 車掌、制動手、驛夫、貨物驛夫、列車給仕其他列車費ヲ以テ支辨スルモノ、給料ハ第十五條第三號ノ例ニ據ル
 - 三 雜事手當ハ第十五條第五號ノ例ニ據ル
 - 四 被服費ハ第十五條第四號ノ例ニ據ル
 - 五 諸車使用料(直通列車ニ對ス)及運送料并ニ覆布費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル貨物噸哩合計ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定貨物噸哩ニ乘シテ算出スヘシ
 - 六 諸車使用料中直通列車使用料ハ其契約シタル直通區間毎ニ一ヶ年度ノ車輛延哩數ヲ豫定シ之ニ契約料金ヲ乘ス
- 第二十二條 補充費ハ第二十條第十五號ノ例ニ據リ算出スヘシ但シ當該年度ニ於テ特ニ施工ヲ要スルモノアルトキハ左ノ區分ニ從ヒ單位價ヨリ積算シテ其金額ヲ算出スヘシ
- 一 用地費、土工費、停車場費(建物ニ)器械場費(建物ニ)及諸建物費ハ坪數
 - 二 橋梁費、溝橋費、伏樋費、隧道費、波止費及雪覆費ハ呎數
 - 三 軌道費ハ哩數

第二類 豫算

- 四 電信線架設費ハ里數
- 五 車輛費ハ輛數
- 六 停車場費附帶ノ諸設備、器械場費附屬ノ諸器械及建築用具費ハ箇數
- 七 柵垣及境界杭費ハ間數

第二十三條 工作費中諸機械修繕費ハ既往三ヶ年度間實費額ノ其年度間ニ於ケル作業所屬物件ノ改製修理及製作費合計ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ豫定作業所屬物件ノ改製修理及製作費合計ニ乘シテ算出スヘシ但シ豫定改製及修理費ハ第十三條ノ例ニ據リ算出スヘシ

第二十四條 工作費中製作費ハ左ノ方法ニ據リ算出スヘシ

- 一 豫定新製車輛ノ製作費額但シ車輛ノ種類ヲ分チ單位價ヨリ算出ス
- 二 新製品ニ屬スル費用ノ内車輛新製費ヲ除キ其他ニ屬スル費用ノ算出方ハ第十三條ノ例ニ據ル
- 三 作業所屬物件ノ改製及修理費中車輛修繕費ノ割掛ニ相當スル諸費ノ算出方ハ第十九條第二項ノ例ニ據リ其他ノ費額ニ對シ割掛ニ相當スル分ハ第十三條ノ例ニ據ル
- 四 他向注文品ニ屬スル費用ノ算出方ハ既往三ヶ年度ノ實費平均額ニ據ル

附 則

第二十五條 歳入歳出トモ前各條ニ揭クル外臨時時若クハ新タニ豫算スヘキ必要アルモノ又ハ既設科目中特ニ増減スヘキ必要アルモノハ其増減額ニ對シ算出ノ基ク所ヲ明カニシ及其理由ヲ詳述スヘシ

第二十六條 一ヶ年度ニ滿タサル歳入歳出豫算ヲ算出スルニハ其基礎トナルヘキ哩、里、呎、箇、人、噸、坪及箇所等ノ數ヲ月割ニ據リ算出スヘシ

鐵道作業歳入歳出豫算算出概則附屬様式

一 書式中甲乙或ハ丙年度下記載アルハ甲ハ最近年度ニシテ乙丙ハ順次前年度ニ溯リ記載スルコト

目	本年度豫定額	前年度豫定額	比較	
			増	減
第 日 客車收入				

第 款 鐵道作業收入
第 項 運輸收入

、 、 、 、
、 、 、 、 円
、 、 、 、

第二類 豫算

第二類 豫算

内譯

○客車純收入

實 年 度 額	同 上 年 度 額	旅 客 走 行 哩 數	上 年 度 額	平 均 一 人 哩	ノ 收 入 額	同 上 年 度 額	見 込 額	増 減 額	豫 定 貨 率	走 行 哩 數	旅 客 哩 數	豫 定 額
---------------	-------------------	-----------------------	---------------	-------------------	---------------	-------------------	-----------	-----------	---------------	---------------	---------------	-----------

平均一人哩ノ收入額ニ對シ増減ヲ要スル時ハ其事由ヲ記載ス

○客車連帶收入拂戻及過誤拂戻ニ相當スル收入金

實 年 度 額	同 上 年 度 額	純 收 入 額	客 車 割 合	同 上 年 度 額	見 込 額	増 減 額	豫 定 割 合	純 收 入 額	客 車 割 合	豫 定 額
---------------	-------------------	---------------	---------------	-------------------	-----------	-----------	---------------	---------------	---------------	-----------

割合ニ對シ増減ヲ要スル時ハ其事由ヲ記載ス以下同シ

以上第一第二ノ合計額ヲ各種目ニ區分スレハ左ノ如シ

種 目	一 年 度 決 算 額	各 種 目 ノ 割 合	豫 定 額
乘 客 貨 金			
何 々			
何 々			
計			
第 目 貨 車 收 入			

内譯

○貨車純收入

實 年 度 額	同 上 年 度 額	走 行 哩 數	貨 物 哩 數	平 均 一 噸 哩	ノ 收 入 額	同 上 年 度 額	見 込 額	増 減 額	豫 定 貨 率	走 行 哩 數	貨 物 哩 數	豫 定 額
---------------	-------------------	---------------	---------------	-------------------	---------------	-------------------	-----------	-----------	---------------	---------------	---------------	-----------

平均一噸哩ノ收入額ニ對シ増減ヲ要スル時ハ其事由ヲ記載ス以下同シ

○貨物發著手數料純收入

實 年 度 額	同 上 年 度 額	貨 物 噸 數	平 均 一 噸 哩	ノ 收 入 額	豫 定 貨 物 噸 數	豫 定 額
---------------	-------------------	---------------	-------------------	---------------	-----------------------	-----------

○貨物託送者納金高割戻

實 年 度 額	同 上 年 度 額	貨 車 純 收 入	割 合	同 上 年 度 額	見 込 額	増 減 額	豫 定 割 合	貨 車 純 收 入	割 合	豫 定 額
---------------	-------------------	-------------------	-------	-------------------	-----------	-----------	---------------	-------------------	-------	-----------

○貨物貨連帶收入拂戻及過誤納拂戻ニ相當スル收入金

實 年 度 額	同 上 年 度 額	純 收 入 額	割 合	同 上 年 度 額	見 込 額	増 減 額	豫 定 割 合	純 收 入 額	割 合	豫 定 額
---------------	-------------------	---------------	-------	-------------------	-----------	-----------	---------------	---------------	-------	-----------

第二類 豫算

○貨物發著手數料ニ屬スル連帶收入及過誤納金

第二類 豫算

實 收年 額度	同上貨物噸數	平均一噸ノ收入額	豫定貨物噸數	豫 定 額

四七四

以上第一ヨリ第五ニ至ル合計額ヲ各種目ニ區分スレハ左ノ如シ

種 貨 物 貨 金	一 年 度 決 算 額	各 種 目 ノ 割 合	豫 定	額

○直通列車ニ對スル使用料及割合金

種 目	區 間 哩 數 回	一 日 ノ 二 日 ノ 列 車 ノ 一 日 ノ 延 一 年 度 ノ 車 輛 延 哩 數 或 ハ 列 車 延 哩 數	一 車 或 ハ 一 列 車 ノ 金 額	豫 定 額

割合金列車備品

計	列 車 員

○停車場使用料

駅 名	一 年 度 通 過 發 著 人 員 并 通 過 貨 物 噸 數	本 年 度 增 減 見 込	豫 定 通 過 發 著 人 員 并 通 過 貨 物 噸 數	同 上 一 人 噸 ニ 對 ス ル 料 金	豫 定 額

○第一第二ヲ除キタル雜入

實 收年 額度	同 年 度 客 貨 車 總 收 入 額	割 合	豫 定 客 貨 車 總 收 入 額	豫 定 額

以上第一ヨリ第三ニ至ル合計額ヲ各種目ニ區分スレハ左ノ如シ

種 荷 物 保 管 料	日 目	一 年 度 實 收 額 (第一第二ヲ分テ除ク)	各 種 目 ノ 割 合	第一、第二ノ豫定額	合計即チ豫定額

第三類 豫算

四七五

第二類 豫算

雑収入							
計							
停車場使用料							
合 計							

第項 雑収入

目	前年度豫定額	本年度豫定額	比
第目雑収入			増 減

内 訳

種 目	甲 年 度	乙 年 度	丙 年 度	計	平均即ち豫定額
官舎貸渡宿代					
何々々					
計					

第目 工作收入

工作費豫定額

生產品原價ニ割掛セヘキ額算出ノ基礎記載ヲ要ス

差

引

發

生產品原價ニ割掛セヘキ額

豫

定

額

生產品原價ニ割掛セヘキ額算出ノ基礎記載ヲ要ス

第 款 鐵道作業費

第 項 俸給及諸給

目	本年度豫定額	前年度豫定額	比
第目何々俸給			増 減

前年度豫定額ハ提出豫算ノ高ヲ記載ス

第一節 何々

定 員	増 或 ハ 減 員	一人當リ年額	年 額 合 計	備 考
〇	増	一〇,〇〇〇〇〇	一〇,〇〇〇〇〇	
	増	三,〇〇〇〇〇	三,〇〇〇〇〇	何々々
計	〇	三	三,〇〇〇〇〇	

定員ハ豫算調整當時ノ定員ヲ記載シ増減員ニ對シテハ其理由ヲ成ルヘク細密ニ記載ヲ要ス

第目 退官賜金

第二類 豫算

第二類 豫算

四七八

甲年度	乙年度	丙年度	計	甲年度	乙年度	丙年度	計	同上ニ對スル 俸給豫定額	豫定額
								實費額ノ割合總額	

死亡賜金モ本式ニ準ス

第 項 死傷手當

目	本年度豫定額	前年度豫定額	比
第 日 死傷手當			増 較
			ノ 減 差

實 費 額

甲年度	乙年度	丙年度	乙年度ニ對スル 甲年度ニ對スル	丙年度ニ對スル 乙年度ニ對スル	平均	同上平均割合ニ 乘シタル額	豫定額
-----	-----	-----	--------------------	--------------------	----	------------------	-----

賠償及訴訟費ノ項賠償金并ニ訴訟費ノ二目モ本式ニ準ス

第 項 諸拂戻及缺損補填金

目	本年度豫定額	前年度豫定額	比
第 目 諸拂戻金			増 較
			ノ 減 差

○客車及貨車收入拂戻金

種 別	金 額
客車連帶收入并ニ旅客過誤納拂戻金	
貨車連帶收入并ニ過誤納拂戻金	
貨車收入中託送者納金割戻金	
貨物發著手数料連帶及過誤納拂戻金	
計	

○雜入及雜收入拂戻金

種 目	甲 年 度	乙 年 度	丙 年 度	度 一 合 計	平均即チ豫定額
雜入拂戻					
雜收入拂戻					
計					

缺損補填金ノ目モ本式ニ準ス

第 項 事業費

目	本年度豫定額	前年度豫定額	比
第 目 何々費			増 較
			ノ 減 差

第二類 豫算

四七九

第二類 豫算

第一節 執業費

○器具以下旅費ニ至ル費額

種目	實費			計	年度末人員			計	同上平均一 人ニ對スル 費額	豫定人員	豫定額
	甲年度	乙年度	丙年度		甲年度	乙年度	丙年度				
器具											
雜機械											
雜品費											
圖書購買費											
製本費											
印刷費											
用紙											
諸帳簿											
筆墨印肉類											
硯小道具類											
薪炭油類											
雜用品											
郵便電信料											

四八〇

旅費

計											
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

○事務者及技術者雇給

種目	定員	員	増或ハ減員	豫定人員	一人當リ給額	日數又ハ月數	豫定額
事務者雇給							
技術者雇給							
計							

定員ハ前年度確定豫算ノ人員ヲ記載シ増減員ニ對シテハ其理由ヲ記載ス

○守備、工場取締、小使、諸番人及職工等雜給者ノ給額モ本式ニ同シ

○雜備給、運搬費、寫字料、諸謝金、家屬其他借料、電燈及瓦斯費（契約アルモノ并ニ局内發電所ニ於テ豫定スルモノハ之ヲ除ク）

廣告料并ニ囑託手當ニシテ月額ヲ定メサルモノハ死傷手當ノ式ニ同シ

○被服費

種目	數量	夏服			冬服			外服			帽子			雨子			雨衣			計	豫定額
		夏	冬	外	帽	子	雨	衣	計	豫定額											
守備	三八		三二四〇		二八二〇			六九〇											七二六〇	二七六〇〇〇	
同	一九					七七六〇													七七六〇	一四七〇〇〇	
小使																					

第二類 豫算

四八一

第三類 豫算

計	同																								
---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

四八二

○雑事手當

種	目	年	給	額	割	合	
						豫	定
計	官吏ノ分						
		職員以下ノ分					

○電話機使用料

一 普通電話機使用料

場	所	箇	所	數	使用料年額	長距離加入料	普通増設附加	電鈴増設	豫	定	額
新	橋	一	五		六六〇〇〇						九九〇〇〇〇
同		四					二二〇〇〇				四八〇〇〇
同		一				六〇〇〇					六〇〇〇
神	戸	一			五四〇〇〇						五四〇〇〇
名	古	一			五四〇〇〇						五四〇〇〇
計											五四〇〇〇

二 市外電話料ハ死傷手當ノ式ニ同シ
○電燈及瓦斯費ノ内契約アルモノ并ニ發電所ニ於テ豫定シタルモノハ式左ノ如シ

何	計	驛名其他ノ名稱	契	約	高	増	減	見	込	高	豫	定	額

○囑託手當ニシテ月額ヲ定メタルモノ、式左ノ如シ但シ月額ノ異ナルモノハ合併セスシテ列記スヘシ

何	計	名	稱	既	定	員	増	或	減	員	差	引	豫	定	員	一	人	當	リ	月	額	豫	定	額	
																									計

○水料
修技生手當ハ事務者雇及技術者雇給ノ式ニ準ス

第二類 豫算

四八三

第二類 豫算

場所名	使用年度	米突	本年見込増	豫定量	單價	契約高	水量	水器	豫定額
新橋					一米突 〇三〇				
神戶		石			一百石 八〇〇				
沼津						三〇〇			
何々									
計									

○郵便受渡機

既定基数	増減基数	豫定基数	一年一基ノ保守料	豫定額

○巡查備入費

既定人員	増減人員	豫定人員	一人ニ對スル給額	豫定額

第二節 線路修繕費

○軌道修繕費

線名	實費			軌道			豫定額
	甲年度	乙年度	丙年度	甲年度	乙年度	丙年度	
計							

計	東海道線			信越線			北陸線			何々線		
	甲年度	乙年度	丙年度	甲年度	乙年度	丙年度	甲年度	乙年度	丙年度	甲年度	乙年度	丙年度

特ニ増減ヲ要スルモノアルトキハ豫定額ノ上ニ一欄ヲ設ケ其事由記載ヲ要ス橋梁、溝橋等モ本式ニ準ス

○器具費

線名	實費			線路修繕費			豫定額
	甲年度	乙年度	丙年度	甲年度	乙年度	丙年度	
東海道線							
信越線							
北陸線							
何々線							
計							

第三節 諸建物修繕費

○建物修繕費

第二類 豫算

第二類 豫算

種目	實費			平均建物一坪之實費額	豫定額
	甲年度	乙年度	丙年度		
有稅官舎					
修繕費					
無稅官舎					
事務所					
何々					
計					

○除雪費

實費	額			諸建物修繕費總額(木費ヲ除ク)	同上ニ對スル平均額(豫定額(木費ヲ除ク)ノ割合(千四三對總額(木費ヲ除ク)シ)	豫定額
	甲年度	乙年度	丙年度			
計						

○器具費モ本式ニ準ス

目	本年度豫定額		前年度豫定額	比較ノ減差
	本年	前年		
第目汽車費				

第二節 運轉費

○機關手、火夫、石炭夫、注油夫、車輪検査番、掃除夫、轉車夫及合圖方等ノ給料ハ執業中事務者及技術者雇給ノ式ニ同シ
 ○被服費、水料及雜事手當ハ執業費中當該費ノ式ニ同シ

○機關車借用料ハ諸拂戻金中雜入及雜收入拂戻金ノ式ニ同シ
 ○石炭費

線名	何年度機關車運轉百哩ニ對スル消費量	既往ニケケ年度平均遞増減割合ヲ示タル數		差引計	豫定機關車運轉哩數	同上哩數ヲ差引計ニ乗シタル消費量	豫定價格	豫定額
		甲年度	乙年度					
東海道線	三、〇六八七	増	三、四一八	三、一四一〇五	七、五五六、三六五	二、三七、三四九、二〇三	一万斤ニ付 四〇五、六九	九六六、二八〇、七〇〇
信越線								
北陸線								
何々線								
計								

機關車運轉百哩ニ對スル消費量遞増減平均割合算出ノ基礎

線名	年度			機關車運轉哩數	石炭消費量	百哩ノ消費量	遞増減割合
	甲年度	乙年度	丙年度				
何々線							
計							

○油脂費

第二類 豫算

第二類 豫算

線名	種目	消費量及機關車運轉哩數			機關車運轉百哩ノ消費量	豫定消費量	豫定價格	豫定額
		甲年度	乙年度	丙年度				
何々線	汽筒油							
	礦油							
	何々							
	何々							
	機關車運轉哩數							
計								

○旅費以下雜費ニ至ル費額

種目	實費			機關車運轉哩數	機關車運轉百哩對スル實費額	豫定額
	甲年度	乙年度	丙年度			
旅費						
器具費						
何々						
何々						
雜費						
計						

第三節 車輛修繕費

○諸車修繕費

種目	實費			車輛數	一車輛ニ對スル實費額	豫定車輛數	豫定額
	甲年度	乙年度	丙年度				
機關車修繕費							
客車							
貨車							
同車							
何々							
計							

○器具費ハ諸建物修繕費ノ例ニ同シ

目	本年度豫定額		前年度豫定額	比較
	本年	前年		
目運輸費				

第二節 停車場費

- 器具、雜機械、雜品費、筆墨印肉類、硯小道具類、薪炭油類、雜用品、旅行及雜費ハ執業費中器具以下旅費ニ至ル額費算出方ノ式ニ同シ
- 圖書購買費、製本費、寫字料、家屋其他借料并ニ電燈瓦斯費ハ死傷手當ノ式ニ同シ
- 印刷費以下雜備給ニ至ル費額

第二類 豫算

第二類 豫算

四九〇

種目	實費額			人噸哩數			平均人一噸哩ニ豫定入對スル實費額	噸哩數	豫定額
	甲年度	乙年度	丙年度	計	甲年度	乙年度			
即刷費									
川紙									
諸帳簿									
郵信料									
運搬費									
雜備給									
計									

○電話機使用料ハ執業費中電話機使用料ノ式ニ同シ

○雇員給ハ執業費中事務者雇及技術者雇給ノ式ニ同シ

○操車掛、車號掛、信號手、世話役、轉轍手、警手、驛夫、貨物驛夫、整燈手、連結手、踏切番人等ノ給料モ亦前段ニ同シ

○被服費ハ執業費中被服費ノ式ニ同シ

○雜事手當ハ執業費中雜事手當ノ式ニ同シ

○乘車券及入場券費ハ本節中印刷費以下雜備給ニ至ル費額ノ式ニ同シ

○電信及諸荷物配達費

一 電信配達費

實費額	電信手數料收入額			同上ニ對スル豫定電信手數料收入額	豫定額
	甲年度	乙年度	丙年度		
計					

二 小手荷物配達費

但シ歳入ノ部ニ於ケル豫定荷物配達賃金

三 速達貨物配達費

實費額	速達貨物賃金收入額			同上ニ對スル豫定速達貨物賃金收入額	豫定額
	甲年度	乙年度	丙年度		
計					

○貨車手押及貨物積卸手數料

種目	一年度取扱總數	本年度増減見込	豫定取扱總數	一車或ハ一箇ニ對スル金額	豫定額
貨車手押料					
貨物積卸料					
計					

○停車場使用料ハ運輸收入雜入中停車場使用料ノ式ニ同シ

○水料ハ執業費中水料ノ式ニ同シ

○巡查備入費ハ執業費中巡查備入費ノ式ニ同シ

○電信費ハ本節中印刷費以下雜備給ニ至ル費額ノ式ニ同シ

第三節 列車費

第二類 豫算

四九一

第二類 豫算

四九二

○器具、雜機械、雜品費、製木費、印刷費、用紙、諸帳簿、筆墨印肉類、薪炭油類、雜用品、旅費、諸車站燈費、諸車借用料、私設鐵道通過料、雜備給及雜費ハ停車場費中印刷費以下雜備給ニ至ル費額ノ式ニ同シ
但シ雜費中直通列車ニ係ル割合金ニ相當スル分ハ運輸收入雜入中直通列車ニ對スル割合金ノ式ニ同シ
○車掌、制動手、驛夫、貨物驛夫、列車給仕等ノ給料ハ執業費中事務者雇及技術者雇給ノ式ニ同シ
○雜事手當ハ執業費中雜事手當ノ式ニ同シ
○被服費ハ執業費中被服費ノ式ニ同シ
○諸車使用料及遲滯料
一 直通列車以外ノ諸車使用料

實	費	額	計	甲年度	乙年度	丙年度	計	實	貨	物	噸	哩	計	一	噸	哩	ノ	豫	定	貨	物	噸	哩	數	ノ	豫	定	額			
甲年度	乙年度	丙年度	計	甲年度	乙年度	丙年度	計	實	貨	物	噸	哩	計	實	費	額	噸	哩	數	ノ	豫	定	貨	物	噸	哩	數	ノ	豫	定	額

二 直通列車ニ對スル使用料

運輸收入雜入ノ第一直通列車ニ對スル使用料及割合金ノ内使用料ニ同シ

三 諸車遲滯料

一ニ同シ

目	本年度豫定額	前年度豫定額	比	增	減	ノ	差
第目補充費							

○豫期シ得ヘカラサル費額

既往三ヶ年度	同	上	一	萬	哩	ニ	對	ス	ル	實	費	額	豫	定	額																					
實	費	額	走	行	哩	數	ノ	對	ス	ル	實	費	額	走	行	哩	數	ノ	對	ス	ル	平	均	一	萬	哩	ニ	對	ス	ル	實	費	額	豫	定	額

○豫期シ得ヘキ費額

同種類ニシテ數口アルトキハ之カ合計ヲ示スヘシ

種	目	必要	數	量	豫	定	原	價	豫	定	額	備	考
何	地	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	何	々
計												由	チ
目	本年度豫定額	前年度豫定額	比	増	減	ノ	差					何	々
第目工作費												由	チ

第二節 諸機械修繕費

年度	實	費	額	作	業	所	屬	物	件	ノ	改	製	修	理	及	製	作	費	計	同	上	千	圓	ノ	對	ス	ル	改	製	修	理	及	製	作	費	計	豫	定	額
甲年度				作	業	所	屬	物	件	ノ	改	製	修	理	及	製	作	費	計	同	上	千	圓	ノ	對	ス	ル	改	製	修	理	及	製	作	費	計	豫	定	額
乙年度				作	業	所	屬	物	件	ノ	改	製	修	理	及	製	作	費	計	同	上	千	圓	ノ	對	ス	ル	改	製	修	理	及	製	作	費	計	豫	定	額

第二類 豫算

四九三

第二類 豫算

四九四

計														
丙年度														

但シ作業所屬物件ノ改製修理費ニ屬スルモノハ死傷手當ノ式ニ同シ

第三節 製作費

○豫定新製車輛ノ製作費

、
、
、
、
、
、
、
、

種 目	機 關 車	組 立 費	客 車	貨 車	何 々	計				一 輛 ノ 費 額	豫 定 車 輛 數	豫 定 額

○局外注文品ノ製作費ハ諸拂戻金ノ目中雜入及雜收入拂戻金ノ式ニ同シ

○新製品ニ屬スル費用ノ内新製車輛及局外注文品ノ製作費ヲ除キタル其他ノ製作費ハ死傷手當ノ式ニ同シ

○作業所屬物件ノ改製及修理費ノ内車輛修繕費ノ割掛ニ相當スル諸費

年	度	車輛修繕費	同上ニ要セシ	割	合	豫定車輛修繕費	豫	定	額

計	甲 年 度	乙 年 度	丙 年 度

○作業所屬物件ノ改製及修理費ノ割掛ニ相當スル諸費ノ内車輛修繕費ニ割掛ヘキ諸費ヲ除キタル其他ノ諸費ハ死傷手當ノ式ニ同シ

○歳入歳出現計調書々式ノ件 明治三十三年三月七日(官房會計課長) 照會長官宛

歳入歳出現計調ノ義明治三十二年度ヨリ別紙書式ニ據リ取調送付方今般大藏省ヨリ照會有之候ニ付三十二年以降該書式ニ據リ翌年度四月十日迄ニ當課へ御送付相成度此段及御照會候也
道テ本文調書ハ兼テ令達セラレタル豫算ニ基キ御調製相成度此旨申添候

明治何年度何々主管歳入何年三月三十一日現計表

科 目	豫算額	三月迄		四月以降	収入額合計	不納做損額	収入未済額
		収入額	見込額	収			
經常部							
何々(款)							
何々(項)							
何々							

第二類 豫算

四九五

第二類 豫算

科目	明治何年度何々所管經費何年三月三十一日現計表 (朱書ハ定額戻入ノ金額ナリ)				不用額
	豫算額	豫算決定後増加額	三月迄仕拂命令額	四月以降仕拂命令見込額	
經常部					
何々(款)					
何々(款)					
經常部合計					
臨時部					
何々					
何々					
臨時部合計					
合計					

一 豫算決定後増加額ノ區ハ前年度ヨリ繰越額、豫備金支出額、豫備金外臨時支出額ヲ合セテ掲載スルモノトス

一 三月迄仕拂命令額ノ區ハ三月三十一日迄ノ仕拂命令額ノ別表ノ三月迄仕拂命令額ヲ合セテ掲載スルモノトス但シ定額戻入ノ金額ハ控除ス

一 四月以降仕拂命令見込額ノ區ハ四月一日ヨリ六月三十日迄仕拂命令ヲ發スヘキ見込額ハ別表四月以降仕拂命令額ヲ合セテ掲載スルモノトス但シ定額戻入ノ見込アルモノハ其金額ヲ朱書スルモノトス

一 仕拂命令額合計ノ區ハ仕拂命令額、仕拂見込額ヲ合セテ定額戻入ノ朱書金額ヲ控除シテ掲載スルモノトス

一 翌年度繰越見込額ノ區ハ翌年度へ繰越スヘキ見込額ハ別表ノ翌年度繰越推算額ヲ合セテ掲載スルモノトス

明治何年度何々所管經費現計附屬表

科目	明治何年度何々所管經費現計附屬表			備考
	三月迄仕拂命令推算額	四月以降仕拂命令推算額	翌年度繰越推算額	
經常部				
何々(款)				
何々(款)				
經常部合計				
臨時部				
何々				
何々				
臨時部合計				
合計				

一 三月迄仕拂命令推算額ノ區ハ遠隔ノ地ニシテ報告未達ノモノアルトキ三月三十一日迄ニ仕拂命令済トナルヘキ金額ヲ推算シテ之ヲ掲グルモノトス

一 四月以降仕拂命令推算額ノ區ハ遠隔ノ地ニシテ報告未達ノモノアルトキ四月一日以降六月三十日迄ニ仕拂命令ヲ發スヘキ金額ヲ推算シテ之ヲ掲グルモノトス

一 翌年度繰越見込額ノ區ハ遠隔ノ地ニシテ報告未達ノモノアルトキ翌年度へ繰越トナルヘキ金額ヲ推算シテ之ヲ掲グルモノトス

一 備考ノ區ハ報知未達ノモノ其事由及推算額ノ算出方ヲ記載スルモノトス

一 推算額ナキ科目ハ掲出ヲ要セス

第二類 豫算

○退官賜金等ノ豫算主計掛ニ於テ管理ノ件 明治三十二年三月二十七日
 長官達第一七號

各部(建設部)長
 青森出張所長

三十二年度以降鐵道作業費俸給及諸給中退官賜金死亡賜金ノ二目死傷手當並ニ賠償及訴訟費ノ二項ニ屬スル豫算ハ各部所ニ配附セス 渾テ計理部主計掛ニ於テ管理セシメ候條各部所ハ其必要ニ臨ミ直ニ仕拂請求書若クハ仕拂要求書ヲ發スヘシ

○經費遣拂表調製方 明治三十六年四月二十八日
 鐵計庶發第五一四號ノ一

豫算殘額		備 考
所長	Ⓣ	

科 目	豫 算 額	仕 拂 要 求 及 前 渡 要 求 高		
		前 月 迄	本 月 分	計
俸給及諸給				
癸任俸給				
列任俸給				
計				
事業費				
總係費				
合 計				

明治何年何月何日 何所出納事務
 計理部長宛

第二類 豫算

科 目	豫算額	仕 拂 高			預算殘額
		前月 仕拂	迄 高	本月 仕拂	
鐵道作業費 俸給及諸給 俸任俸給 部事務官 事務官俸 判任俸給 書記手 書技記補					
項 計					
事業費 總係業費 執器雜 器雜 圖書 製本 印刷 用諸 筆墨 硯小 薪炭 雜用 郵便 信料					
器具 械費 買費 本刷 紙簿 帳類 印肉 道具 炭油 用品 電信					
總係送り高					
項送り高					

第二類 豫算

科 目	豫算額	仕 拂 高			預算殘額
		前月 仕拂	迄 高	本月 仕拂	
前項越 總係費越 電話機使 運搬 用 旅務者雇 事務使給 小雜備給 雜事手當 被服瓦斯 電燈及告 廣水試驗 雜 費 料料料 費費費					
項 計					
合 計					

科 目	豫算額	仕拂要求及前渡請求高			豫算残額	備 考
		前月迄	本月分	計		
俸給及諸給 廳 費 旅 費 雜 給 計						
明治何年何月何日 何所出納事務所長 ④ 計理部長宛						

明 治 何 年 度
何 年 何 月 分
鐵道作業費遣拂表

何所出納事務所

明 治 何 年 度
何 年 何 月 日
鐵道建設費何々間鐵道造拂表

何 所 出 納 事 務 所

科 目	豫 算 額	仕 拂 高			高 計	豫算殘額
		前 月 仕 拂	迄 高	本 月 仕 拂		
何々間鐵道給 俸及諸事務官 俸事務官俸 列任書記 賞						
目計 費						
備品費 圖書購買費 筆紙墨文具 消耗品費 通信運搬費 被服費 試驗費 雜費						
目計 旅費						
國內旅費						
雜 給 雇員料與 備給						
目計						
合 計						

第三類 收入支出 第一章 收入

五一〇

稅務署長ノ提出スル徵收報告書ハ稅務監督局ヲ經由スヘシ

稅務監督局長前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ其月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ

第八條 諸收入ノ徵收事務ニ關スル取扱手續及帳簿報告等ノ書式ハ適宜之レヲ定ムヘシ

第九條 本規程中各廳長官ニ關スル規程ハ北海道支廳長ニ準用ス

北海道支廳長ノ提出スル徵收報告書ハ北海道支廳長ニ準用ス

北海道廳長官前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ大藏省ニ送付スヘシ

(別記)略ス

○收入報告書及收入繰越計算書統括送付方ノ件

官房會計課長照會 (明治三十二年三月十三日 會乙第一〇五二號)

貴局所管收入官吏ヨリ提出可相成收入報告書及收入繰越計算書ハ決算上御必要モ可有之而シテ當課ニ於テハ御所管全體ヲ通シ統括シタルモノニテ差支無之義ニ候條來三十二年度ヨリ統括シタル報告書及繰越計算書ノミ御送附相成候様致度此段及御照會候也

長官回答 (明治三十二年五月十一日 鐵作乙第一二九三號)

會乙第一〇五二號ヲ以テ當局所管收入報告書及繰越計算書ハ本年度ヨリ統括シタル報告書及繰越計算書ノミ御送附ノ義御照會ノ趣キ了承右ハ御來意ノ通可致候間此段及御回答候也

○毎年度歳入調定濟額收入整理ヲ了セサルモノ取扱方

明治二十四年八月十七日 大藏省訓令第六八號

收入官吏 金庫出納役

明治二十六年十二月大藏省訓令第七

明治三十
六年二月
大藏省訓
令第三號
改正

各年度歳入調定濟額ニシテ翌年度七月三十一日迄ニ收入整理ヲ了セサルモノ取扱方左ノ通り心得ヘシ (明治二十六年十二月大藏省訓令第七號ヲ以テ) 本文中改正

第一 甲年度ニ調定シタル歳入金ニシテ乙年度六月三十日迄ニ收入ヲ了セサルモノハ之レヲ甲年度ノ收入未済トシテ其金額ヲ乙年度ノ調定濟額ニ繰越スヘシ (明治二十六年十二月大藏省訓令第七號ヲ以テ本文中改正)

第二 甲年度ト記載シタル納額告知書ヲ以テ乙年度七月一日以後現金ヲ金庫ニ納入スルモノアルトキハ金庫ハ之レヲ乙年度歳入トシテ受領シ其納額告知書及レ之レニ接續セル領收證及ヒ通知書ニ乙年度ノ押印ヲ爲スヘシ (明治二十六年十二月大藏省訓令第七號ヲ以テ本文中改正)

第三 歳入徵收官ニ於テ金庫ヨリ乙年度七月一日以降甲年度納額告知書ニ依リ納付シタル歳入金領收濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ乙年度所屬トシテ取扱フヘシ

第四 歳入徵收官第一項ノ繰越ヲ爲シタルトキハ左ノ書式ニヨリ各年度歳入調定濟額收入未済翌年度繰越額計算表ヲ製シ之レヲ歳入ノ事務管理廳ヘ差出スヘシ

第五 歳入徵收官ニ於テ前項ノ計算書ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送附スルトキハ同時ニ甲年度所屬徵收簿ノ締切ヲナシ而シテ乙年度徵收簿當該科目調定濟額ノ欄へ前年度ヨリ繰越トシテ其員額ヲ記載スヘシ

第六 出納官吏現金取扱規則第十七條ニ依リ收入官吏ヨリ送附セル甲年度收入金ノ監守證ニ對シ明治二十二年大藏省訓令第七十三號第二項ニ依リ金庫ヨリ派出シ乙年度八月一日以後取附ヲ爲シタル現金及ヒ前項但書ノ收入金ハ金庫ニ於テ之レヲ乙年度ノ歳入ニ組込ミ歳入金各廳内譯簿ハ別ニ口座ヲ設ケ冒頭主管廳ノ次へ「甲年度所屬」ト記入シ又歳入金月計對照表ハ別紙ニ調製シ廳名欄内主管廳ノ次へ「甲年度所屬」ト記載スヘシ (明治二十六年十二月大藏省訓令第七十二號ヲ以テ本文中改正)

第七 但本項收入金ハ各金庫毎月出納内譯書各金庫毎月出納計算書及ヒ毎年度出納計算書ニ於テモ「甲年度所屬」トシ別項ニ掲載スヘシ

第三類 收入支出 第一章 收入

五一

第三類 收入支出 第一章 收入

第七 前項ノ場合ニ於テ金庫ヨリ派出スル受取人ノ携帶スヘキ領收證書年度欄内ニハ乙年度トシ該證書適宜ノ場所ヘ甲年度所屬ノ分ト記入スヘシ

但本項ノ領收證書ヲ收入官吏ヘ交附スルハ乙年度八月一日以後ニ於テ現金ヲ領收スル場合ニ限ルモノトス
 (明治二十六年十二月大藏省訓令第七二號ヲ以テ本項中改正)
 (附屬書式略ス)

○ 毎年度歳入調定濟額收入整理ヲ了セサルモノ取扱ニヨリ繰越計算表差出方

明治二十四年九月一日
 公達第三四九號

遞信部内一般

各年度歳入調定濟額ニシテ翌年度八月三十一日迄ニ收入整理ヲ了セサルモノアルトキハ明治二十四年八月大藏省訓令第六十八號ニ依リ調定濟額收入未濟翌年度繰越計算表調製九月七日迄ニ大臣官房財務課ヘ差出スヘシ

(印ハ朱)

(臨時部)
 翌年度繰越額計算表
 三十一日

事	山
何々ノ事由ニ依リ收入未濟ニ付繰越	
何々ノ事由ニ依リ同上	
何	々
日	名

某年度歳入經常部
 調定濟額收入未濟
 明治何年七月

科	目	繰越額	
		円	角
何	何	何	0
		何	0
		小計	0
		何	0
	合計	0	
		明 治 何 年 何 月 何 日	何 氏
		何 廳 主任 收入 官吏	

○ 繰越ニ係ル歳入調定濟額收入未了ノモノ整理方

明治二十五年四月二十七日
 大藏省訓令第二五號

明治三十
 六年二月
 訓令第三
 號ニテ改
 正

明治二十四年大藏省訓令第六十八號第一項ニ依リ乙年度ノ調定濟額ニ繰越シタル歳入金ニシテ乙年度三月三十一日迄ニ收入了セサルモノハ之ヲ丙年度ニ繰越シ丙年度中猶收入了セサルモノハ之ヲ丁年度ヨリ以下順次ニ繰越スヘシ
 前項繰越ヲ爲シタルトキハ同訓令第四項ニ準シ計算表ヲ製シ歳入事務管理廳ニ差出スト同時ニ前年度所屬徴收簿當該科目摘要欄内ヘ翌年度繰越トシ其員額ヲ調定濟額ノ欄ヘ朱書スヘシ
 乙年度三月分徴收報告書ニ於テハ調定濟額本月分欄内ヘ丙年度ヘ繰越スヘキ員額ヲ朱書シ備考欄内ヘ其事由ヲ詳記スヘシ
 但本年三月分收入報告調製製ノモノハ四月分報告書ニ於テ本項ノ通調製スヘシ

第三類 收入支出 第一章 收入

第三類 收入支出 第一章 收入

五二四

同訓令第二項甲年度ト記載セル納額告知書ニ依リ乙年度經過後金庫又ハ收入官吏ニ於テ現金ヲ收入シタルトキハ其收入シタル日ノ屬スル年度ノ歳入トシ金庫ハ納額告知書領收證書及通知書ニ相當年度ノ押印ヲナスヘシ(明治二十六年十二月大藏省訓令第七三號ヲ以テ本項中改正)
同訓令第六項監守證ニ對シ乙年度經過後現金取附ヲ爲シタルトキハ其取附ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ歳入ニ組込ミ該六項ニ規定スル手續ヲ以テ整理スヘシ

○延滞償金處理方ノ件

本省財務課照會 (明治二十五年十月二十八日)

物品ノ購買ヲナスニ當リ會計規則第七章第六十九條第二項ニ依リ契約ヲ締結スルニ際シ保證金ヲ徵收シ豫メ物品ノ納期ヲ定メ若シ之ニ違背シタル時ハ違約金ヲ徵收スルノ契約ヲ爲シタルモノニシテ該納期ヲ延滞シタルモノアリ故ニ納期ノ經過日數ニ依リ違約金ヲ徵收セン爲メ去ル明治二十二年十一月貴省訓令第六十六號諸收入收納取扱順序附屬書式甲乙號納入告知書ヲ納入ヘ交附シタルモ納期ニ至リ納入セサルニ依リ契約ノ條件ニ基キ保證金ヨリ該違約金ヲ引去リ之ヲ收入官吏ニ移シタル場合ニ於テハ收入官吏ハ拂込書ヲ以テ金庫ヘ拂込ヲナシ而シテ右告知書ハ同取扱順序第八條及第九條ノ手續ヲ爲ス能ハサルモノニ付本人ヘ交附ノ儘放棄シ收入簿ヘ其事由ヲ詳記處理可然哉

大藏省主計局回答 (明治二十五年十一月四日)

既ニ發附シタル納入告知書ノ無効トナリタル取扱ノ件御見込ノ通ニテ可然尤モ收入官吏ニ於テ納入告知書無効ノ事由ヲ收入簿ニ詳記シタル上ハ納入ヨリ其納入告知書ヲ返附セシメ若シ之ヲ返附セシムルコト能ハサルトキハ其納入告知書ヲ金額番號日附及納入ノ氏名ト共ニ其無効トナリタル旨ヲ關係金庫ニ通知スヘシ

○納入告知書再發シタルトキ調定濟額處理方ノ件

本省財務課照會 (明治二十六年四月十四日)

甲號納入告知書ヲ發附シタル後納入ニ於テ一時ニ全額ヲ納附スル能ハサルカ爲メ分納ヲ申出タルトキハ最前ノ告知書ヲ取消スハ勿論ニ候處收入簿調定額モ同時ニ取消ス儀ニ候哉右ハ單ニ告知書ヲ分割再發スルニ止メ收入簿調定濟

額ハ其儘据置差支無之儀ト存候得共疑義ヲ生シ候ニ付及御問合候

大藏省主計局回答 (明治二十六年四月十九日)

一葉ノ納入告知書ニ記載スル納金分納ヲ許可セシ際取扱方ノ件ハ前段御見込ノ通調定濟額ヲモ同時ニ取消スヘキ儀ニ有之候

○歳入金不納處分ノ件

本省大臣照會 (明治二十六年七月八日)

當省所管歳入調定濟額ノ内收入未済ノ爲メ前年度ヨリ繰越シタルモノニシテ屢々之ヲ納附方ヲ督促候モ無資産ナルヲ以テ負債者身代再興ヲ待ツモノハ或ハ所在不分明ノ爲メ徵收シ能ハサル等ノ爲メ結局時機ヲ待ツテ徵收スル外無之モノ又ハ督促ノ末月賦若クハ年賦ニヨリ納附スヘキモノ有之然ルニ右等ノ如キ容易ニ徵收シ能ハサルモノニシテ負債者身代再興或ハ轉住スル等ノ場合ニ當リ當省ニ於テハ之ヲ監督上行届キ難ク候ニ付是等ノ類ハ府縣ヘ引繼諸貸附金申据置貸ヘ編入セシメ當該地方廳ヲシテ徵收方爲取計差間無之儀ト被存候得共爲念及御問合候道テ地方廳ヘ引繼モノトセハ當省ハ不納缺損額トシ整理スヘキ乎又ハ調定濟額ヲ取消スヘキ儀ニ候哉

大藏大臣回答 (明治二十六年八月十二日)

右貸付金ヘ編入地方廳ヲシテ整理セシメラル、儀ハ別ニ差間無之ニ付御引繼濟下同時ニ其旨當省ヘ御報道相成度且又調定濟額ハ引繼ノ事由ヲ以テ御取消可然致思考候道テ月賦若クハ年賦ニ依リ納附スヘキモノハ諸貸附金中雜種貸ヘ編入ノ儀ト御承知有之度候

○前件ニ付再照會

大藏大臣照會 (明治二十八年三月十五日)

貴省所管歳入中納入無資力ニシテ收入濟トナラサリシ分貸附金ヘ編入ノ節ハ其調定濟額ヲ取消整理ノ儀明治二十六年七月八日財甲發第二〇五〇號御照會ニ對シ同年八月十二日附乾第三二〇一號ヲ以テ及御回答置候處調定濟額ヲ取消ストキハ當初ヨリ全ク歳入納額ナカリシモノ、如クニ相成リ不穩當ト被考候ニ付自今調定濟額ハ其儘据置不納ノ

第三類 收入支出 第一章 收入

五一五

第三類 收入支出 第一章 收入

員額ハ不納缺損額トシテ整理相成候方可然ト存候此段御照會候也

○歳入金納入元帳取消方ノ件

福島郵便電信局照會 (明治二十六年八月十九日)

納入告知書發附後不納缺損トナリタル場合ハ歳入金納入元帳控除方如何處理シ可然哉

財務課回答 (明治二十六年八月二十三日)

右ハ納濟月日欄内ハ缺損ノ事由ヲ朱記スルノミニテ可然存候

○作業益金納附手續 明治二十四年三月三十日 (大藏大臣ヨリ遞) 信大臣へ通牒

作業益金納附手續

一 主管廳ニ於テ作業ノ益金ヲ一般ノ歳入ヘ納附セントスルトキハ別紙書式ノ請求書ヲ作り當省ヘ御送附ノ事

一 當省ニ於テハ金庫ニ命シテ作業所歳出仕拂元金ヨリ一般ノ歳入ヘ移替ノ順序ヲ爲サシメ金庫ヨリ作業事務局ノ會計主務

官ヲ經テ仕拂命令官ニ報告シ又一般ノ歳入ヲ取扱フ主管廳ニ報告セシムル事

(別紙)

記

何省主管某年度歳入 歳入事務管理廳官氏名

經常何々(款)何々(項)何々(目)

高金若干圓 (二回以上ニ納入シ皆納ノトキノ例)

一金若干

但益金ノ内(二回以上ニ納入ノトキ初回ノ例)

外金若干圓 (納入濟二回以上ノ例)

右ハ某年度某作業所仕拂元受金ノ内ヨリ同年度歳入ヘ納附方御取計有之度候也

何 金 庫

明治 年 月 日

何省大臣 氏 名 印

大藏大臣宛

○作業益金納付ノ節注意ノ件

大藏大臣通牒 (明治三十二年五月十七日乾第一〇六〇號)

作業又ハ鐵道等ノ益金ヲ特別會計ヨリ一般會計歳入ヘ納附ノ節御送付可相成請求書ニ自今當該作業所仕拂命令官ノ

官氏名御記載相成度此段及御通牒候也

○辨償金徴收ニ係ル件 明治二十三年十月一日 大藏省訓令第一三一號

北海道廳 府 縣

會計規則第八十八條第五條第六條第七條ニ依リ出納官吏ヨリ辨償金ヲ徴收スルトキハ歳入經常部雜收入ノ款辨償金ノ項中末位ニ出納官吏辨償金ノ目ヲ増設シ收入整理スヘシ

○官吏遺族扶助法納金收入規則 明治二十三年七月十二日 勅令第一二五號

官吏遺族扶助法納金收入規則

第一條 本年法律第四十四號官吏遺族扶助法第二條ニ依リ文官判任以上ノ者ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ金

庫ニ於テ之ヲ差引ヘシ但現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給ノ支拂ヲ爲ストキハ該官吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ

郡書記ノ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ郡役所會計吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ (明治三十二年三月二十三日勅令第六〇號ヲ以テ本項追加)

第二條 前條ニ依リ金庫ニ於テ差引シタル金員ハ歳入徴收官ノ計算ニ移シ直チニ報告書ヲ作り之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

(明治三十三年四月十七日勅令)

前條ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏及郡役所會計吏ニ於テ差引シタル金員ハ納金額表ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ送附スヘシ

(明治三十二年三月二十三日勅令第六〇號ヲ以テ本項追加)

第三類 收入支出 第一章 收入

第三類 收入支出 第一章 收入

第三條 俸給ノ増減ニ依リ既納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次期ノ俸給支給ノトキ之ヲ整理スヘシ
免官退官轉任死亡ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其百分ノ一ヲ納入ニ於テ差引スヘシ

○官吏遺族扶助法納金ニ關スル件

東京郵便電信局照會 (明治二十三年七月十八日)

(第一)増減給ノ場合ニ於テハ俸給支給日現給額ノ百分ノ一ヲ納附セシメ可然哉(第二)前項果シテ然リトセハ百分ノ一ノ金額ニ對スル厘以下端數切上ケ方ハ納附高ニ算入セシメ可然哉(第三)高等官俸給支給日以後ニ起ル増減給ノ場合ハ追給追徴ノ際納附高ヲ加除シ可然哉

官房第五課回答 (明治二十三年七月二十八日)

第一第三御意見ノ通第二端數ヲ生シタル場合厘位未滿ハ四捨五入ノ法ニヨリ納附高ニ算入セシムル儀ニ候

○同上ニ關スル件

和歌山郵便電信局照會 (明治二十三年七月二十二日)

本年法律第四十四號第二條ノ納金收入ヲ爲スニ方リ文官判任以上ノモノ月ノ半ヲ以テ昇等ノ節該月分納金ハ日割支給額ノ百分ノ一ヲ收入スヘキ儀ニ候哉果シテ然ラハ厘位以下ハ四捨五入セス收入取計可然哉

官房第五課回答 (明治二十三年七月二十八日)

右ハ該月日割支給總額百分ノ一ヲ納金セシメ而シテ厘位未滿ハ四捨五入シテ收入スヘキ儀ニ候

○同上ニ關スル疑義ノ件

遞信大臣官房第五課長照會 (明治二十三年七月二十三日)

(第一)規則第三條俸給ニ依リ云々ト有之該増減トハ昇降等若クハ昇降級ノ場合ヲ指ス儀ニシテ病氣其他自己ノ故障ニ依リ當月受クヘキ給額ニ減額ヲ生スル場合ハ包含不致居儀ニ候哉(第二)過不足金員整理方ハ次期ノ俸給支給ノ時云々ト有之該次期トハ次回俸給支給日ノミナラズ免官退官轉任死亡又ハ増俸等ノ場合ニシテ右定日ニ拘ハラズ追給追徴スル際ニ於テモ差引整理スル儀ニ候哉(第三)過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキ其百分ノ一ヲ納入ニ於

テ差引スヘシト有之果シテ然ラハ返納告知書又ハ納入告知書面ニハ本年貴省令第十七號仕拂命令書式ニ準シ返納金ノ内譯ヲ記載スル儀ニ候哉(第四)前項納入ニ於テ差引シタル百分ノ一ノ金額ハ納金下戻等ノ手續不相見就テハ其各廳經費定額ニ戻入スヘキモノハ損失トナリ其戻入雜收入雜入返納金ニ編入スヘキモノハ收入セス却テ彙ノ納金ハ過剩トナリ歳入出共ニ妥當ナラスト雖モ右ハ其儘整理スヘキ儀ニ候哉(第五)轉任ニヨリ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキモ其百分ノ一ヲ納入ニ於テ差引スヘシト有之然ルトキハ設例ハ甲廳奏任官四等上級俸ヲ受クルモノ五月三十一日ニ同級ヲ以テ乙廳ニ轉任シタリトセンニ甲廳ニ於テハ百圓ノ返納告知書ヲ發シ一ヶ月分ヲ取立テ(内一圓ハ納入ニ於テ差引九拾九圓ヲ返納ス)乙廳ニ於テハ新任ト同様一ヶ月分百圓ヲ支給スルモ仕拂命令ノ内譯ニヨリ内壹圓ヲ國庫ニ納附トシ殘額九拾九圓ヲ支給スルモノトセハ本人ニ於テハ前後兩廳通シテ貳百九拾七圓ヲ領收シ參國庫ヘ納附スルコトナルニ付過不足等更ニ無之モ甲乙兩廳通算國庫ヘ納附セシ金額ハ參百圓ノ俸給ニ對シ四圓トナル具又其儘整理スヘキ儀ニ候哉

大藏省主計局長回答 (明治二十三年八月一日)

第一病氣其他ノ故障ニ依リ生スル俸給減額ノ場合ヲモ包含スル儀ニ有之候第二御見解ノ通第三返納告知書面ニハ返納金ノ金額ヨリ扶助法納金ヲ差引シタル金額ヲ掲記シ而シテ返納金ノ金額ト差引ヘキ金額ハ但書トシテ附記スル儀ニ有之候第四已下御見解ノ通

○同上收入規則ニ關スル件

本省照會 (明治二十四年二月六日)

客年七月十二日勅令第百二十五號官吏遺族扶助法收入規則第三條ニ俸給ノ増減ニ依リ既納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次期ノ俸給支給ノトキ之ヲ整理スヘシト有之候處俸給ノ増減ニ依ラスシテ過不足ヲ生スルトキモ尙本令ニ準據シテ次期ノ俸給支給ノトキ整理シ可然哉

大藏省回答 (明治二十四年二月十八日)

次期ノ俸給支給期ヲ待タズ直ニ追給追徴御整理相成可然ト存候

第三類 收入支出 第一章 收入